

EPISODE GUIDE



The First Part of The One Year War UC0079-0080

GUNDAM

PREFACE

機動戦士ガンダム が誕生してから、20年が経った

その間、TVシリーズ7作、劇場版編8本、

OVAシリーズが製作された。番外編的なTVシリーズもアニメ化され、シリーズを数える。また、この作品の生命を陰から支えるホビー産業に開発されたストーリーや原作、

監督の富野由悠季が書いた小説版、制作会社サンライズの承諾のもとに様々な作家が描いたコミック版のオリジナルストーリーも存在する。最近ではビデオゲーム用のオリジナルエピソードも加わり、ガンダム の物語のすそ野は拡散の一途をたどっている。

たった1本のテレビシリーズとしてスタートしたはずのガンダム という作品は、アニメというジャンルを飛び越え、一つのメディア、あるいは産業 にまで発展したのだ。

20年という時は、各々のジャンルでガンダムに関わった人々の生活基盤を、ガンダムなしには立ちゆかなくなるほどに、変質させていった。

製作者たちは明日の糧を得るために、新たなガンダム のエピソードを創作し続ける。ファンもまた、新たなガンダム のストーリーを、デザインを待ちこがれる。

こうしてガンダム という産業は、需要と供給のバランスをとりつつ、幸福な情報の連鎖を続けてきた。

そして20年 仏かり続けたガンダム の物語の地すをすべて見渡せる者は、どこにも存在しない。

時間的にも金銭的にも、そのすべてを視て、読むという行為を成し遂げられる者もいないだろう。

そこでこのガンダム・エピソードガイドをお役立ていただきたい。膨大なエピソードの数々を、このシリーズに網羅するつもりだ。

これから1年間、計5冊のエピソードガイドで、ガンダム で描かれた基本的なストーリーの全てを知ることができる。

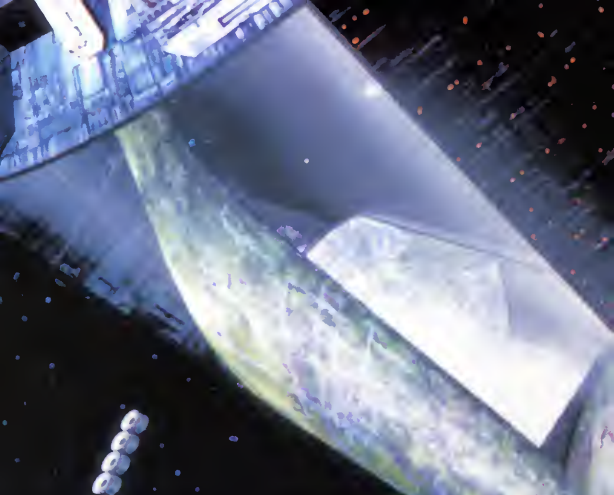
さあ、ガンダム のストーリーの地平を、ピシユアルの海を、存分に味わっていただこう!

CONTENTS

巻頭言	⇒ Preface	2
宇宙世紀年表	⇒ History of Universal Century	4
宇宙世紀の開幕	⇒ How We Have Emigrated to Outer Space	6
モビルスーツ開発小史	⇒ Circumstances about Humanoid Arms	10
一年戦争に関する考察	⇒ A Study of the ONE YEAR WAR	14
キャラクター&メカニック全ガイド	⇒ The Complete Guide of Characters & Mechanisms in GUNDAM	20
ストーリー・ダイジェスト	⇒ Story Digest	
機動戦士ガンダム		
第1話—第10話	⇒	18
第11話—第20話	⇒	34
第21話—第30話	⇒	50
第00MS小隊	⇒	60
モビルスーツ・パイロットリスト	⇒ Mobile Suit Pilot List	49
ゲストキャラクター・チェックリスト	⇒ Guest Characters & Mechanisms Check List	62
ガンダム設定資料集	⇒ The Design Works of GUNDAM	65
ガンダム・ストーリーガイド	⇒ The Highlight of GUNDAM	138
ガンダムシリーズ・スタッフ&キャスト	⇒ Filmography	150
ビデオ、LD、小説、CDガイド	⇒ Visual & Sound Guide	154
索引	⇒ Index	158



U.C.	
0001	宇宙移民開始をもって宇宙世紀に幕行。人類総人口90億突破。
0007	初の商業輸入都市、ファン・ブラウン市完成。
0040	総人口の40%、宇宙への移住を完了。
0041	小惑星ユノー(ルナツー)月軌道に定着。
0058	ジオン・ズム・タイクン、サイド7独立宣言。
	ジオン共和政樹立、国防増強完了。
0068	ジオン・ズム・タイクン死に、次期首領はデギン・ソド・ザビ。
0069-08-15	ジオン公国宣言。公主にデギン・ソド・ザビ。ザビ家独裁体制のため、ジオン側は連戦。
0071	ジオン共和政内閣崩壊、ミノフスキー電子戦布下における新兵器開発の開始に着手。
	小型核融合炉完成。
0073	公国軍、新型兵器1号機完成。MS-01、モビルスーツ(MS)完成。
0078-03	連邦軍、徳忌直にMSの開発開始。
	連戦のプロジェクトが同時に進行するRX計画発動。
10	ジオン公軍、連邦軍艦隊司令官を。
	艦隊を分割し、宇宙及地球および変形機動軍設立。
11	連邦軍、戦術式を開始。
0079-01-03	一年戦争勃発(1/3〜1/10までの戦闘を「一年間戦争」と呼ぶ)。ジオン公国、地球連邦政府に対し独立を宣言。
	コロニー落としにより、大規模な気象変動を惹起。
01-11	サイド8中立宣言。
01-15	ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊敗北。
	公国軍は艦隊司令のレビル将軍を総帥とする。
01-31	東部戦役開始。
06	公国軍、宇宙要塞ア・バオ・アーク、ソロモン、月面基地グラナダを陥れた本土防衛ライン完成。
07	連邦軍、ビーム兵器の小型化に成功。
	ホワイトベース登場。ガンダム一号機ロールアウト。
08	連邦軍、サイド7においてガンダムのテスト開始。
09-18	公国軍の一部隊がサイド7、11/12を占領。ホワイトベース出撃。
10-04	地球防衛軍第1司令官ル・マ・ザビ大佐戦死。
10-08	レレン・ザビ、全地球規模の大演説を演説。
11-07	連邦軍、オデッサ作戦を開始。
11-30	公国軍、ジャブロー地下作戦を開始。ジャブロー基地を攻撃するも、失敗。
12-09	サイクロプス軍、連邦軍北極星地帯を襲撃。
12-13	ジオン軍、サイド7にコロニーを襲撃。
12-14	サイクロプス軍、ルビゴン作戦開始。
12-19	サイクロプス軍、ルビゴン作戦失敗。
12-14	連邦軍、ソロモン攻防戦開始。公国軍敗退。
	宇宙攻撃軍司令官ド・スル・ザビ中尉戦死。
12-25	連邦軍、第一号作戦完成。
	サイクロプス軍の残兵により、アレックス大破。
12-30	公国軍、ソーラー・レイ作戦開始。
	デギン公王死に、連邦軍、レビル艦隊を襲撃。
12-31	アババアーク陥落。
	エギーユ・デラーズ大破、配下の艦隊を率いて戦域を離脱。
0080-01-01	一年戦争終結。



宇宙世紀の開幕

How We Have Emigrated to Outer Space
text by TSUKASA SHIKANO

宇宙世紀元年。人類は住み慣れた地球（アース）を離れ、その活動拠点を宇宙へと広げはじめた。その躍進はめざましく、わずか半世紀の後には、母星（ははほし）周辺に浮かぶスペース・コロニーの数も、数百基を数えるようになっていた……。

果たして人類は、どのようにしてコロニーを建設し、宇宙移民を実行していったか。あるいは、伝説のモビルスーツ技術は、どのように成立したのか。そして、宇宙史上最悪の戦争は、如何なるいきさつで引き起こされたことになったのか……。

本稿では、つい最近になって発見されたアースの考古学的資料をもとに、これら謎多き宇宙紀元の黎明期について、最新の考察を加えていきたいと思う。

人類が宇宙への移民を志すようになったのは、一体いつの事だろうか。それは遠く時代の歴史単位で西暦で19世紀にまで遡ることができる。

ロケットの父と呼ばれ、宇宙旅行を世界で初めて現実科学的の標榜として取り上げたコンスタンチン・エドアルドビッチ・ツィオルコフスキー(1857~1935A.C.)は、「地球は人類の母りかごである。しかし永遠に母りかごの中で暮らすわけにはいかない」という有名な言葉を残している。彼はまた「地球の外で」という著作の中で、未来の宇宙植民地の候補として、地球の静止軌道付近の宇宙空間を想定していた。その意味では、彼こそがスペース・コロニーを最初に思い描いた人物だったといえる。

しかし、この発想は後代に受け継がれることなく、そこでいったん途絶えてしまう。彼よりの時代の人々は、人類の宇宙進出を希冀するとき、その移民先を他の天体の上とするのが常だった。つまり月面や火星などにドーム都市を築き、そこに住まうというものが、ツィオルコフスキーの発想が実るのは、およそ100年後、旧紀元の地球上に存在した画家、アメリカのプリンストン大学教授、ジェラルド・K・オニールによってである。彼は西暦1974年に出版した著書「宇宙植民地」(THE HIGH FRONTIER)の中で、当時、地球上で進行しつつある諸問題、すなわち人口急増に起因するエネルギー資源と食料の枯渇、環境破壊、大量消費に伴う熱汚染などに対する窮乏策として、スペース・コロニー(宇宙植民地)への植民を提案したのだ。

スペース・コロニーとは、宇宙空間に地球上とはほぼ同等の生活環境を再現する、巨大な人工構築物のことである。宇宙への一時的な滞在を主目的とした宇宙ステーションとは異なり、そこには重力も、大気も、生態系も備わっており、まさに人類の第二の故郷と呼べる場所だ。オニールは同じ著書の中で、実現可能な技術で建設できるコロニーの概念設計から、作機コスト、具体的な建設手段と手順までを詳細に検討しているが、彼の予測は、かなりの精度で当たっていたといっている。実際、黎明期のスペース・コロニーの多くは、後に述べるオニールの島3号モデルをもとにデザインされたようで、極めて似通ったスペックになっている。その構想を改めて検討してみよう。

オニールはまず、コロニーのことを島(アイランド)と呼んだ。中でも、宇宙移民の先駆けとして最初に建設される「島1号」は、1万人規模の住人が居住できる球形コロニーで、直径512メートル、円周1609メートル(1マイル)と設定されていた。

このコロニーは、回転軸を太陽方向に向け、毎分2回転することで、1.16Gの重力を発生させている。回転軸の「極」近くには、軸と直行する円周方向に、縦長い採光用のガラス窓があり、この窓に、コロニー外殻を取り巻く円筒状から太陽光を入射させ、地上に影を作るとしかけた。なおコロニーの質量は、3百数十万トンもあるが、その大半は太陽フレアや宇宙線などの有害放射線を防ぐ遮蔽材で、これは月の裏面から資源を取り出した後の、残リカス(スラグ)で作られる。当初の予定では、このコロニーが1980年代半ばまでには完成できると考えられていた。

またオニールは、スペース・コロニーは初め、地球-月系のラグランジュ・ポイント上に設置されるとしている。これは、地球と月とコロニーが、相対的な位置関係を保ったまま運動できる、力学的なつり合いが取れた場所のことです。全部で5つある。このうちL1~L3は、地球と月を結ぶ直線上に位置するポイント。L1は地球と月の中間、両者の重力がつりあう場所で、一年磁石当時はサイド4が置かれていた。また、地球から見て月の向こう側にあるからして、ここに洋ジョーン公園のサイド3や、ジョーン公園がコロニー建設用に構想した小惑星「パイプアーク」が存在した。そして地球から見て月の反対側にあるL3ポイントは、遠郊がコロニー建設のために直んだ小惑星「ルナツ」で、仮設の英雄アムロ・レイが住んでいたサイド7があった場所である。

ただし、L1~L3のポイントはいささか不安定で、ここに建設されるコロニーには、軌道修正用の推進システムの装備が欠かせなかっただろう。一方、地球-月間を一边とする、正三角形の頂点に位置するL4とL5は、比較的安定したポイントといわれ、オ



ニールは、コロニーの建設場所として絶望と考えていた。しかし、L4とL5が安定するのは地球一月、そしてコロニーの三つの天体の重力を考えた場合にすぎない。これに太陽の重力を考慮すると安定性は失われ、コロニーはL4、L5のまわりを99日の周期で回る、全長80万キロの軌道上进行することになる。さらに、他の惑星からの重力の影響も加味すると、コロニーの軌道運動はカオス的になる。すなわち、実際にはコロニーはどのラグランジュ・ポイントに置かれよう、多かれ少なかれ軌道修正の動作が必要なのだ。

あるいは、このコロニーの軌道の性質が、モビルスーツという兵器を生んだ、一つの要因とも考えられる。もし仮にコロニーの運動がカオス的でなかったとしたら、ミノフスキー粒子による探査妨害がもうがなからうが、コロニーの軌道を予測して、ミサイルなどによる遠方からの攻撃が可能だったはずだ。しかし、実際にはコロニーの軌道を厳密に予想することは不可能で、それゆえにミノフスキー粒子下における、モビルスーツのゲリラ戦が大きな威力を発揮したと指定できるのである。

ところで、スペースコロニーは、どのようにして建設されたのだろうか。オニールの構想によれば以下のとおりである。

コロニーの主な材料はアルミニウム合金と鉄で、この建設資材の大半は、月面から採掘した岩石を精製することで作り出せる。また月の鉱石は、マストドライバーと呼ばれるリニアモーターシステムの一つで、月面からコロニーの建設軌道まで打ち上げる事が可能だ。つまり、月面での鉱石の採掘から打ち上げに至るまでに必要なエネルギーは、基本的にすべて太陽熱や光エネルギーによる電力によって賄うことができる。最初の設備さえ置けば、あとは地球からの物資の補給なしに、自給自足で全ての作業を進められるわけだ。

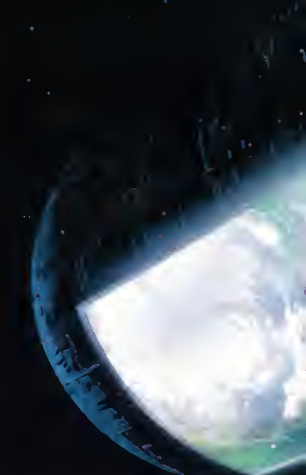
また月面での作業は、月の鉱石の採掘と、それを打ち上げることで、その後の精製や資材の組み立てなどは、すべて宇宙空間で行われる。なぜなら、それがもっとも安上がりな方法だからだ。岩石の精製の場合、無重量空間ならば、適当な器に入れてぐるぐる回しながら、大きな力で太陽の熱を当てて溶かしてやれば、自ずと比重ごとに分かれてくれる。巨大な資材の取り回しや積み立ても、無重量空間ではパワ―を必要としない。つまり宇宙空間こそが、コロニー建設のすべてを行うのに最適な場所なのだ。

なお、オニールの試算では、島1号の総工費はおよそ1千億ドル。これは高価ではあるが、無重量を利用した宇宙ならではの製造物や、後に作られる宇宙太陽発電所(注)で生産される電力を地球に売って、わずか3〜6年で原価償却がであるとされていた。この経済効果は、コロニーの建設を最初を試みたグループにとって非常に魅力的だとオニールは言い、従って、さほど間を置かずに、より大規模な島2号の建設が開始されると予測している。これは14万人が居住できる規模のコロニーで、赤道円径が6キロ、内部面積は10万平方キロである。

しかし、実際の宇宙世紀におけるコロニー建設は、これほど簡潔には進まなかったようだ。宇宙世紀以前の地球では、資源や食料の地産的な片寄りによって、ある地域では過剰な富を享受できても、別の地域は飢饉に苦しむという、経済的不均衡が存在した。それと同様に、宇宙世紀初期には、資源、エネルギーの地域的不均衡が存在していた。



たとえば、月の岩石には水素、重要、炭素は含まれていない。そのため、初期のコロニー建設では、これらの物質を地球から運ばざるを得なかった。また水も、月面に衝突した彗星由来のものがあったので、それを採掘する事である程度賄うことができたろうが、不足分は地球から運んだ水素と、月の岩石から取り出される酸素で合成して作ることになった。いずれにせよ、最初に宇宙築港を行ったグループは、経済的に地球に依存せざるを得ない状態が、かなり長く続いたに違いない。これが後に、一年戦争の火種となっていったことは大いに考えられることだろう。



ところで、宇宙史において島1号、島2号が建設されたという記述は、残念ながら残っていない。おそらく建設はされたが、人類の宇宙進出の華なる足場として、少数が作られたに過ぎなかったのだろう。実際、このレベルのコロニーでは手狭で、居住性も決して満足出来るものではなかったはずだ。結果的にこれらの小規模コロニーは、本格的な宇宙移民が始まる頃には解体され、より大型のコロニーに作り替えられていったと思われる。オニールは、さらに大きな島3号というモデルを詳しく検討していた。そのデザインおよびスペックは、一年戦争当時最もビジュアルだったコロニーに類似しており、初期のスペースノイドが、後の構想の影響を強く受けていたことを伺わせる。

島3号は、円筒の両端を半球で塞いだ形で、円筒の直径は6.5キロ、長さは32キロある。太陽方向に長軸の向きを合わせ、2分間に1回転させることで内部に0.9Gが発生させる仕組み。総重量は3000万トン以上で、居住者数は数千万〜1千万人だ。円筒部分は回転軸方向に6分割され、交互に谷(半球部分が山にあたる)と呼ばれる陸地と、太陽光をとりこむ窓が配置される。窓の外には円筒の全長よりも長い大型の平面鏡が取り付けられていて、これによって太陽光がコロニーの内面に導かれる。そして鏡の角度を調節する事で、昼夜や季節の変化を演出することができる。

この島3号モデルの特徴は、基本的に二つ一組で作られることだろう。つまり、互いに逆方向に自転する二つのコロニーを、回転軸が平行になるように並べ、機械的に接続してあるのだ。こうすることで、コロニーの自転によって生じるジャイロ効果も



打ち消し、小さな力を加えるだけで、回転軸を常に太陽の方向に向ける事が可能になるわけである。内部の環境も、鳥3号クラスになると地球と同等か、それ以上に快適になる。オフィス街は山に作られ、谷は大半が緑地と郊外住宅に充てられる。もちろん、重工業などは専用のコロニーで行われるため、騒音や汚染の心配は全くない。また、山は上にいくほど重力が小さくなるため、それを利用したレジャーも生まれると描写されていた。

なお、一戦争当時は、鳥3号とはほぼ同一サイズで、採光窓のない密閉式のコロニーも作られている。これはジオン全国で専ら用いられたデザインで、コロニー外に設けられた太陽光発電衛星からの電力を使って、コロニーの軸部分にある人工照明によって昼夜を作り出していた。このタイプのコロニーのメリットは、内装全面を居住スペースにできることで、開放型に比べて倍以上の人口が住めることにあった。

以上、見てきたように、オニールは色々な意味で理想家だったといえる。たとえば鳥3号は、彼の構想ではまだ中規模程度のコロニーであり、その後には建設されるものはさらに巨大で、直径50キロ、長さ120キロ。内面の総面積は1万6千平方キロのものも、当時の技術の延長で建設可能と考えていた。

またスペース・コロニーは、太陽光を集める鏡さえた大きくすれば、理論上どこでも建設することができる。月面で見られなかった資源も、小惑星の炭素質小惑星には豊富だから、コロニー建設はそこで行い、それを別の軌道に移して運用するほうが、

より現実的な選択かもしれないとも言っている。つまり、地球-月系のラグランジュ・ポイントは宇宙移民のほんの手始めに過ぎず、最終的に人間は、太陽系全域から、さらにその外にまで広がっていくことができると予言していた。この時代を越えた、旧人類の洞察力の素晴らしいには、現代のスペースノイドも感動せざるにはられないだろう。

そしてオニールは、コロニーを、あらゆる紛争から人類を解放してくれるものと考えていた。なぜなら、地球の有限性に囚われないエネルギーや資源の調達は、宇宙市民たちに、他者のものを奪う必要のない、豊かな生活を約束するからだ。また国土を持たない漂泊の民や、民族の独立を願うもの、さらに周隣と思想信条の違うものは、新しいコロニーを建設して住む事で、利害の対立を避けることができる……。宇宙世紀初頭の悲惨な戦争は、このスペース・コロニー社会の理想的な定常状態に到達する前の、不安定期に起きた不幸な事故だったといえるかもしれない。

図1) 6PB「太陽発電電所 (Solar Power Station)」は、アメリカのビクター・グレラーによって、1968年に始めて建造された。7年になってNASAがまとめた概念図によると、5キロ×20キロの巨大な太陽電池パネルをもつ発電衛星で、1面で500万キロワットの発電ができる。ちなみに20世紀末の発電量は、最大でも100万キロワット程度。これを停止状態では60秒打ち上げれば、21世紀初頭の全米の電力(3億キロワット)を覆えると考えた。発電された電力は、電子レンジとほぼ同じ2.45ギガヘルツのマイクロ波で、衛星に向けて放射される。発電機の筐体アンテナのサイズは約5キロ。地上の受信機はクアタマラン島に架けて長さ5キロ、幅4キロの「量子」は受信機とつながり、レクナは受信機のようなものなので、その下に設置をすることも可能だ。

モビルスーツ開発小史

Circumstances about Humanoid Arms

宇宙世紀初頭のザブ・ブラン戦争には、モビルスーツと称されるエンタツ（外骨格）型の特種兵器が多数使用され、その性能の優秀が、新造の大きな翼をこぼたとされている。この身長10数メートルにも達する人型兵器は、どういった大きさで用いられるようになったか、非常に興味のそそられるところである。最近発表された古文書によれば、このモビルスーツ技術の開発そのものは、どうやら古く宇宙世紀以前にまで遡ることができそう。

その時代、真空・無重量での作業には、船外活動ユニット（EMU: Extravehicular Mobility Unit）と、有人機動ユニット（MMU: Manned Maneuvering Unit）と呼ばれる装置が組み合わせて用いられていた。船外活動ユニットとは、いわゆる宇宙服のことで、船からは生命維持装置、宇宙服、補助装置の三つで構成される。このうち生命維持装置は、空気の供給や二酸化炭素の吸収を受け持つ装置で、飛行士の背中に背負う形で取り付けられた。また、宇宙服は上半身、下半身、手袋、ヘルメット、赤印下着からなる気密服で、そして補助装置とは、飲料水用のバケツやライトやビデオカメラ、飛行士を宇宙船に繋ぎ止めるひも、デシーなどのオプションパーツ類である。一方、有人機動ユニットとは、高圧の窒素ガスを吹き出すことで、無重量空間を自由に移動するための装置で、これも飛行士の背中に背負うような形で取り付けられた。

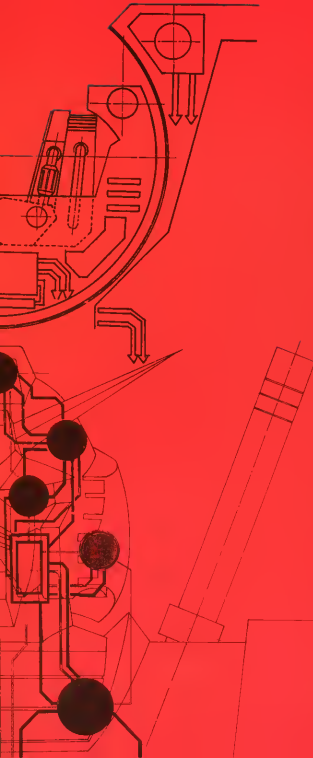
この当時の宇宙服は、気密性を保つ構造上、動きに制約が多かった。たとえば腕は、ひじから下は動くものの、肩はほとんど動かなかったし、足も前後には動いても、左右に動くことはできなかった。そのうえ、宇宙服の内部は0.27気圧に設定されていた。これは真空中では、宇宙服が内圧で風船のように膨張するので、1気圧では関節を曲げるにも苦労しなくてはならないから。もっとも、0.27気圧でも運動にはかなりの力を要するため、当時の船外活動は、ちょっとした動作にも、かなりの体力を必要とした。飛行士が宇宙服の下に水泳式の赤印下着を着用していたのは、この運動による体温上昇や発汗で、ヘルメットの曇りなどの弊害が起きないようにするためだ。

また、宇宙服内部の気圧を低くした結果、船外活動には、面倒な事前の下準備も必要になっていく。1気圧の場所にいる人間が、低圧の場所いきなり移動すると、体内に溜っていた窒素が気泡になる。これはダイバーがかかる減圧症と全く同じもので、ひどい時には生命の危険がある。そこで飛行士たちは、船外活動の12時間ほど前からシャトルの中の酸素の割合をあげておき、さらに1時間前からは純酸素をマスクで呼吸して、体内から窒素を追い出すという手続を踏んでいた。

しかし、コロニー建設のような大規模の事業がはじまると、このような船外活動ユニットの運用は、作業効率が悪すぎて実用に過ぎない。そこで、硬い金属外骨格製で、関節を曲げて内部機構が変化しない、ズブが開発され広く用いられるようになった。これなら1気圧下でも関節を曲げ動かせるし、船外活動の前に気かせなかった人々からの「空重感き」も必要なかったから。

やがてこのズブには、用途に合わせて有人機動ユニットが一体化されたり、実付の運用や組み立て作業を行うマニピュレータが付属したりといったバリエーションが生まれた。中には、大きな実付を取り扱うために、10メートル近い腕を持つユニットも現れて、次第にモビルスーツに近い形態の装置も作られるようになった。最も早い時期からコロニー建設に従事してきた2共同体1後のジオン公国では、このような





宇宙産業作業用の機器開発が進み、やがてそれが兵器としてのモビルスーツの開発へとつながっていったと推定できる

ところで、宇宙空間での建設機械として始まったモビルスーツが、何故、人間型である必要があったのだろうか

これにはいくつかの理由が考えられる。ひとつは、もともと人が重用するタイプのスーフから徐々に改良、大型化が進んだため、人型というコンセプトが固着されたといことがあったろう。また、宇宙建設用という段階では、手足が2本ずつというよりも、4本の手足があったほうが作業効率が高かったと思われる。無重力空間では、すべりや浮かんていう状態なので、色々な形で固形の資材につかまれるほうが都合が良い。樹上生活をするチンパンシーは、足をまるで手のように数用にするが、ちょうどそれと同様の役割を持たせたわけだ

現代にもわずかに残されているヒテオ資料を見ると、モビルスーツの足はどれもヘルボトム型で、下に行くほど太くなっている。つまり、先に行くほど多いわけて、これは歩行の制動という観点からは、やりにくい形だ。重力のある世界で歩行を行うとすれば、足は先に行くほど細くなっていほうが合理的なのだ。この点から、モビルスーツの足は地上歩行よりも、宇宙での制動を基本に設計されたものと推察できる。実際、ヒテオ資料からは、モビルスーツが相手を足を蹴って攻撃するシーンが見つかっている。つまり、建設機械の段階では4本の手足として設計された脚部が、兵器となった時点で、本来に質量を持たせ攻撃力を考えられた形で設計されるようになったのではないだろうか

さらに重要なのは、宇宙活動における、推進剤の節約の役割である。宇宙の空は、真空、無重力の空間で移動を始めた時、停止するには、なんらかの質量を後方に投げ出す必要がある。つまり、推進剤が切れてしまえば、慣性力や太陽によるエネルギーがいくらあっても、それまでの運動を変更することはできないのだ。そこで、可能な限り推進剤を節約する手段が模索され、その結果生まれたのが、手足を動かす反動で姿勢を変更する制御技術だ。これは一言でいえば、猫のように体をひねって姿勢を制御する方法である。つまり、自由落下状態でも、手足の運動による反動を使って姿勢を変更することのできるのだ

手足を動かすだけでなく、推進剤は一切使わないように、建設作業においては、資材の溶接などによって姿勢を変更する必要があったため、このひねり方方式は必須の技術となった。そして、これを自由に行うためには、手足をバランスよく配置する必要がある。これら、いくつかの技術的な条件が、モビルスーツを人間型にした理由ではないだろうか

さて、現在ではミシシッパ・テクノロジーとなっていた、ミノブスキー粒子の存在下では、電波による通信や、レーザーなどは一切使用できなかった。この環境において、ジオン公国のモビルスーツ・ザクは抜群の機動性能を発揮し、宇宙戦艦しか持たない連邦軍に対して、劇的な結果を上げていった

一方、地球連邦側も、ルウム戦役での敗退を機に、ザクに対抗しうる性能を持ったモビルスーツの開発を急いだ。その結果、プロトタイプとして作られたのが、コア・プロ・ノックスシステムを中心に据えた、ガンダム、ガンキャノン、ガンタンクである。これらはそれぞれ異なったコンセプトで設計された機体だが、中でも最も成功したのが、あのガンダムである

白いモビルスーツ「ガンダム」を駆るエース・アムロ・レイの英雄譚は、今もさまざまな形で語り継がれている。彼のすば抜けた活躍は、一般的には、アーケタイプとしての超人性が發揮されたためと思われている。しかし、弱冠15歳の未経験の少年がプロフェッショナルの強敵ザクに対抗できたこと自体を、彼の超人性だけに帰す





るのは現実的ではないだろう。少なくとも、未熟な時代の少年アムロの志を支えたのは、連邦側のモビルスーツに、いくつかの重要な技術的アドバンテージがあったからとされる。

その中でも、第一に挙げなければならないのは、ガンタムの装甲を形成する材料の、飛び抜けた強靱さだろう。なにしろガンダムは、ザクのライフルの弾丸を全く受けつけないなど、それまでの常識を越えた性能を持っていたのだ。この圧倒的な防弾能力は、ガンダリウム合金という超材料によってもたらされたといわれている。これもまた、ミナシグンテクトロジーの一つなのだが、今日に残るいくつかの断片的資料から、あえてその秘密に迫ってみることしよう。

ところで、合金とは一体何だろうか。それは、ある金属に別の金属や非金属を混ぜ、もとより優れた性質を引き出した材料のことだ。たとえば、低純度の鉄は非常に柔らかいが、これに少量にして1%以下の炭素を加えた炭素鋼は、焼き入れを施すと非常に硬く強い性質を帯びる。また、アルミニウムも軟らかい金属だが、これに銅や亜鉛を数%加えて熱処理すると、鋼に匹敵する強さのジュラルミンになる。ある物質に少量の別の物質を加えるだけで、何故このような劇的な物性の変化が起きるのだろうか。

この問題について、解明のヒントが与えられたのは宇宙世紀が始まる直前の、20世紀の終わり頃であった。たとえば古科学文庫の中に、次のような材料のレシピが残っている。それはダイヤモンドなみに強い性質を持った変化超合金という物質に、非常に柔らかい性質の変化ホウ素という物質を、この電撃、特殊な方法で混ぜて焼き固めた材料だ。この物質は、強度が変化ケイ素の数倍に達し、加熱急冷の衝撃型にも強く、直径数十ミクロンの穴を開けられるほど機械加工しやすいうえ、重量にも強くなっていた。

一体どうして、これほど優れた性質が現れるのだろうか。新材料は、直径100ナノメートル(ナノは10億分の1)ほどの変化ケイ素の粒子に、変化ホウ素を化学的にコーティングし、それを焼き固めるという方法で作られた。つまりこうすると、変化超合金の塊の中に、ナノスケールの変化ホウ素の網目構造が作られたのだ。柔らかい変化ホウ素は、熱による膨張が激しく、強い変化ケイ素はあまり変化しない。この二つを一緒に焼き固めた結果、できあがった物質は、強い粒子を柔らかい物質が、コムのように内側に向かって引っ張っている状態になる。これが新物質の、驚異的な性質を引き出したのだ。

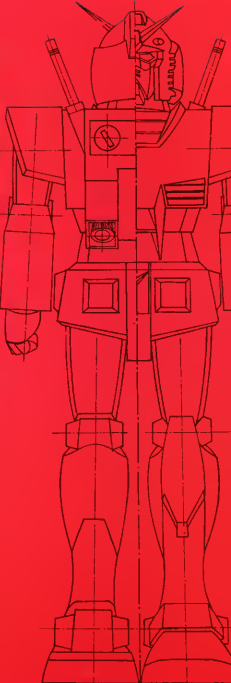
つまり、ナノメートルの領域で、複数の物質を組み合わせ、ある構造(形)を与える事で、それ以前の常識を越えた材料を作り出すことができるわけだ。

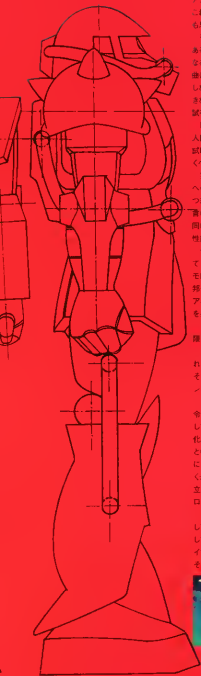
この材料コンセプトを「ナノコンポジット」という。この考えは、金属、セラミクス、合成樹脂などあらゆるものに適用可能で、たとえばプラスチックにナノサイズの金属を入れて皮革のような感覚を持たせた材料を作ったり、金属疲労が自動修復する材料なども、製造可能とされていた。

すなわち、ガンダリウム合金とは、この原理をもとにナノスケールでの材料設計が行われた、新物質であったと考えられる。このような特殊な構造を持った材料を作る上で、無重量の宇宙空間が活かしていたのは、いうまでもない事だろう。また、後で作られて、ニュータイプの精神波を直接受信したとされる特殊金属も、やはり、この材料コンセプトに基づいたものだ。と推定できる。

連邦側の技術的なアドバンテージとして、もうひとつ忘れてならないのは、教育型コンピュータと呼ばれる情報処理システムの存在だろう。

ガンダムをはじめとする連邦のプロトタイプのモビルスーツは「上半身 下半身、コ





アファイター」二つの部分に分断される。コアシステムという方式が用いられていた。これは、形態からすると、宇宙世紀以前の平衡型のイメージを踏襲したもののようにも思えるが、実際にはそれ以上の必要性が込められたシステムだった。

モビルスーツは、人間と同じくらい多くの関節を持った、高度に複雑なシステムである。そのため自由度が非常に高く、一つの事をするにも、複数のやり方が可能になる。たとえば地面に置かれた物を取る時、壁をからめてとる方法もあれば、ひきを曲げてとる方法もある。つまり、ある動作を行うのに、唯一の正解というものがないのだ。そのため、運動方程式を解いて、理想的動作を行わせるということができない。いくつもの動作の中から、ある場面では、最も適切な動きは何かということとは、試行錯誤で見つけるしかないのだ。

しかも、この身のこなしのためのソフトウェアの量は、想像以上に大きい。たとえば、人間がボールを投げる時、そのエネルギーは、胸や肩から出ていているわけではない。試みに背もたれのある椅子に座り、背中をつけたままボールを投げてみると、あまり遠くへは投げられないはずだ。

実は、ボールを投げる時のエネルギーの70パーセントほどは、大臀筋による後方への押しや、体幹部のひねり動作など、下半身から発生していることが解っている。つまり、下半身や体幹部の筋肉が発生させたエネルギーを、タイミング良く肩、肘、手首に伝えることが、速いボールが投げられる秘訣といえる。ハードウェア的には全く同じ。身長、体重、筋肉量であっても、身のこなしのソフトウェアが違えば、発揮される性能は大きく違ってしまふのだ。

シオン公園では、豊富なコロニー建設の経験から、数十年にわたる試行錯誤を経て、大量の関節の機械的動作データを大量に蓄積していた。これが、兵器としてのモビルスーツの開発に大いに役に立ったわけだ。一方、このような経験の乏しい連邦軍は、モビルスーツ用の動作データの蓄積が不足していた。そのため、ハードウェアとしての性能はザクに優っても、身のこなしにおいては勝負にたらず。十分な性能を果たせない可能性が大きいかった。

そこで、この大きな遅れを取り返すために、連邦のプロトタイプモビルスーツに隣って採用されたのが、高度な学習を行う教育型コンピュータとコアシステムだった。

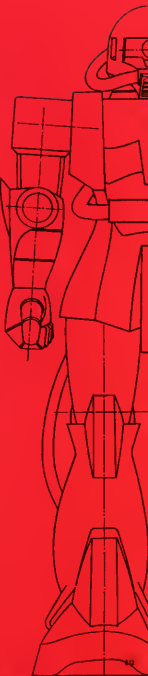
教育型コンピュータの「学習」とは一体なにか。これには、最終目標だけが指定される“強化学習”と、途中経過の誤差情報を見ながら正解を学ぶ“教師あり学習”、そして目標も途中経過の情報もなしに成立する“教師なし学習”がある。教育型コンピュータは、この3種類の学習を自在に切り換えて行うことができたのだ。

たとえば、パイロットが一連のコマンドを送って、離れた姿勢から立ち上がるように指令したとしよう。すると、ガンダムの学習型コンピュータは、試行錯誤的に身体を動かして立ち上がろうとし、結果として立ち上がりければ、その動作が記憶される。これが強化学習の段階で、ガンダムの本能的な記憶といつていい。次に、より早く立ち上がり、というコマンドを受けると、どういふ条件で動けば、それができるかを分析し、その目標に向かって動作を改善していく。これが、教師あり学習だ。さらに教師なし学習は、全く未知の状況に出会った時、思惑にとった行動がどんな結果を生んだかによって成立する、クリエイティブな学習形態である。おそらくこれがあったから、ガンダムはアムロのニュータイプ能力に、十分応えることができたのだろう。

また、教育型コンピュータは、あらゆる局面における動作データを、徹底的に収集して貯える機能を与えられていた。これは量産タイプのモビルスーツの基礎データとして、絶対に必要なものであり、何物にも代えがたい貴重な情報だ。たとえプロトタイプのモビルスーツが破壊されるようなことがあっても、複製に持ち帰る必要がある。そこで考案されたのが、コア・プロセッサ・システムだった。すなわち、ミノフスキー粒子の存在下で、データ送信が不可能な場合であっても、コア・ファイターによる脱出でデータを守ろうとしたわけだ。



以上、最近発見された資料に基づきモビルスーツについて考察した。謎の多い、宇宙世紀初期の技術についての理解の助けになれば幸いである。



宇宙世紀0079。それは我々スペースノイトの歴史において、最も悲劇的な年であったといえるだろう。この年の始め、月の真鍮(ラヴランジェ・ポイント2)に位置したコロニー共同隊、サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に対して独立戦争を開始した。後にいっ、一年戦争である。

宣戦布告と同時に、ジオン公国は史上最大の暴挙であるブリティッシュ作戦を実行した。

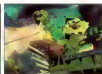
この軍事行動によって、わずか数週間うちに、L1ポイントのサイド4(ムーア)、L4ポイントのサイド2(ハッテ)とサイド5(ルウム)、L5ポイントのサイド1(ザーン)の各コロニー群の住人が、モビルスーツ・ザクによる毒ガス攻撃によって虐殺されている。また、地球連邦政府の軍事的拠点であったジャブロー(地球南アメリカ大陸)の破壊を阻んで、サイド2のコロニーの1基に核パルスエンジンが設置され、これが地球に落された。しかし、途中で崩壊したコロニーは数箇の塊となって落下し、これによって地球のオーストラリア大陸の3分の1、北米アメリカ大陸の4分の1が消滅した。

ブリティッシュ作戦という名称は、旧世界において強国として一世を風靡した大英帝国(グレートブリテン)が、植民地(コロニー)を失う事で国力を衰退させていった事にもなった命名といわれる。すなわちジオンは、地球連邦側の植民地を「切り取る」ことで、その国力の弱体化を狙ったわけだ。

しかしながら、この作戦による直接的、間接的な死傷者数は、50億を越えたといわれる。また、貴重な遺伝子資源であった多くの動植物群が、「コロニー落し」による大破壊によって絶滅してしまっ。これほどの暴挙は、人類およびスペースノイトの歴史を通して、他に例を見ない。

一年戦争に関する考察

A Study of the One Year War



渡者は、50億という数値が、現在の我々の世界の人口に比べて微々たるものであることから、この戦艦の悲惨さには、なかなか思い及ばないかもしれない。しかし、たとえば宇宙世紀以前の時代において、もっとも規模が大きく、もっとも悲惨であった世界大戦(第二次世界大戦(旧暦1939~1945年))でさえ、その死者はおよそ6000万人で、これは当時の人口の3パーセント未満であった。

それに対してフリティッシュ作戦による死者は、全宇宙人口の50パーセントに達する。

これほどの殺戮と破壊が行われながら、文明が途絶えることなく生き長らえられたのは、ほとんど奇跡といっていいかもしれない。

この事から、ジオン公国の真の狙いは、単なる植民地の切り取りではなく、地球連邦側の文明基盤を破壊し、先端テクノロジーを独占することを意図していたとも考えられる。

フリティッシュ作戦によって、ほとんど真滅に近い打撃を受けた連邦軍であったが、士気は全く衰えておらず、残存兵力を直ちに集結して、L4ポイントのサイド5付近で反撃に出た。このルウム会戦における戦力比は、連邦3に対してジオン1で、連邦の勝利は確実と思われた。

しかしながら、ここで連邦軍は大敗を喫してしまう。ジオンが投入した新兵艦、モビルスーツ・ザクの機動性は、連邦の想像を遥かに上回っていたからだ。そしてこの時、連邦総司令官レール將軍も、ジオンの真面目となる。

この予想もしなかった敗北に、地球連邦政府内部では、一時、降伏もやむなしとの意見が大勢を占める状況になっていた。そして、ジオン有利に停戦交渉がまともうとした矢先、奇謀的に脱出を果たしたレール將軍による「ジオンに兵なし」宣言が行われた。

ルウム会戦における損害は、ジオン公国にとっても甚大であった。熟練兵の大半が戦死し、物資供給もままならぬ状態だったのだ。その様子をつぶしに見たレール將軍の言葉によって、連邦政府は徹底抗戦を決定する。

そして、2月末、宇宙空間での核兵器及び化学兵器使用の禁止などを取り決めた、南極条約が結ばれ、戦いは膠着状態に入っていく。

古科学文脈に描かれたスペース・コロニーの社会は、旧地球という限られた世界にまつく困難を取り除くものだった。豊かなエネルギー資源や、汚染のない環境は、覇権主義や領土政策を無意味なものとし、宗教や思想信条の違いによる対立も、「別居」する事で避けられると考えられていた。しかし、理想と現実とは、とくか食い違うものである。

少なくとも黎明期の宇宙都市においては、物資の片寄りと経済的な不均衡が、少なからず存在したようだ。とくに、初期のコロニー建設者たちは、地球に対する終わりのない負債によって、がんじがらめに締め取られていた。

初期のリスクの多い宇宙環境の中で、命を賭して物作りに励んできたコロニディアにとって、自分たちの労働の大半が、旧世界の支配者たちによってかすめ取られていくことは、許しがたい屈辱と感じられたに違いない。

そんな社会状況にあつて、最も古くからコロニー建設に従事してきたL3共同体のメンバーの中から、独立の気運が高まっていた。

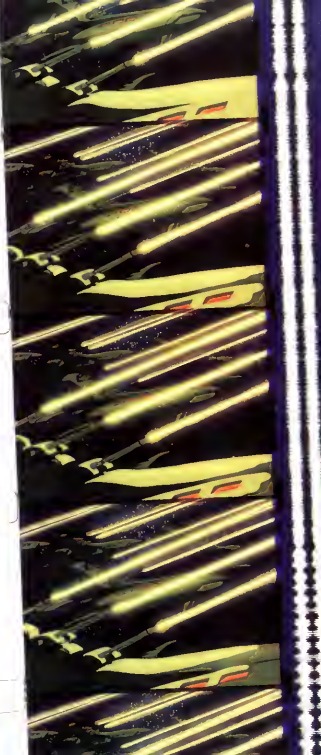
そして9050年代、ニュータイプという概念を打ち出したジオン・ズム・ダイクンにより、サイド3の共和国独立宣言が行われたのだ。この「無血革命」は、奇跡に近い偉業だったといわれている。

植民地政策を当然のものと考えていた当時の連邦にとって、莫大の利益を生むコロニーの独立は、容易に認められることではなかった。歴史の常としては、この場合、圧倒的な武力による鎮圧が行われて当然だったはずだ。

しかし、ジオンは卓越した政治力を発揮して、地球連邦による軍事侵襲を回避し、宇宙市民による初めての独立をなしとげたのだ。

もちろん、連邦にとってジオン共和国の独立は、決して心地の良いものではなかった。

隔あらば軍事侵襲をと、画策しなかったわけではない。だが、ジオン共和国は、未だ独立を果たせない他の宇宙市民や、地球の知識階層から、一つの理想社





会の実現だとして強い支持を集めたため、連邦政府としても不用意な行動はできなかったのだ。

しかし、その微妙な安定期は、0062のジョン・ダイクンの急逝によって、あまりにも早く幕を閉じた。一説によると、これは自然死ではなく、暗殺であったともいわれている。

彼の死を看取ったデギン・ザビは、自ら次期指導者に任命されたとして主張し、直ちに政権を奪取する。そのジョンの死を予見していたかのような周章周到に、暗念を持つ者も少なくなかった。とくにジョンの性格をよく知る奥近たし(共和派)は、デギンが次期指導者に任命されたのは、彼こそが暗殺者だと知らせるジョンのメッセージなのだと考えた。しかし、このような不協和音は厳しく弾圧され、宇宙紀元0065、ついにザビ家の支配するシオン公国が誕生する。そしてそれ以降、シオン公国はひたすら狂気への道を歩みはしめることとなった。

それはいかなる狂気だったのか。これを理解するには、ニュータイプという概念を、もう一度振り返る必要がある。

ジョン・ダイクンは、ニュータイプとは、宇宙に適応した人類の革新であると宣言した。

これは、押取られていた宇宙市民たちの誇りを回復し、新しい宇宙環境に適応したスペースノイドの芽生えを認識せよという、強烈なメッセージだった。宇宙に生まれ、宇宙で暮らす我々は、重力に境を置かれることなく、新しい世界を切り開いていこう。これがジョンのニュータイプ思想の根幹であった。

生物学的に見ると、ニュータイプとは、人類がたどってきた進化傾向が、新しい環境において、強く現れた姿だったといえる。

人類(ホモ・サピエンス)は、旧地球に生息する、霊長類と呼ばれる動物グループに属している。この霊長類の特徴は、他の哺乳動物に比べて、体重比で平均2倍の脳を持つことだ。中でも人類は、同体重の哺乳類の平均に比べ、11倍もの巨大な脳を持っている。

一方、人間の脳重は、成人で体重の2パーセントほどだが、消費エネルギーは摂取エネルギーの20パーセントに達する。つまり、脳とは恐ろしく燃費の悪い臓器なのだ。このような非効率的な器官を、人類はなぜ進化させたのだろうか。

この謎は、地球のイギリスの心理学者、リチャード・バーンとアンドリュウ・ウィッテンによる社会脳仮説で説明できる。

霊長類社会の最大の特徴は、複雑な政治的駆け引きが存在することだ。たとえばサルは連帯を作る、ライオンなどの群れを作る動物も協力関係を作ることはあるが、それは厄介な状況になったときの、一時的な同盟にすぎない。ところがサルは、詳細な社会知識に基づき、将来の必要を予測して、数ヶ月前から協力関係を設定できる。

サルの世界の政治抗争は、まるで人間の権闘のようだ。たとえば派閥抗争で仲間がやられているのを見ても、他気味で助けにいけなかったりすると、後からやられた仲間に関心をもち入れたりする。あるいは、不協和音にあるチャンパージーは、尻尾のクワイマックスで上げる大きな声を、意図的に抑制したりもする。

これらの行動を行うためには、サルたちに、他者の心を推測する能力、すなわち洞察力がなくてはならない。つまり霊長類は、複雑な社会で生き延びるために、洞察力を発達させた動物なのだ。社会で生き延びるための社会法則は、自然の中で生き延びるための自然法則より遥かに難しい。その社会の複雑さに対応すべく、霊長類の脳は増大してきたとするのが社会脳仮説だ。

こうしてみると、ニュータイプは霊長類がたどってきた洞察力の進化の流れを、さらに進めた存在と考えることができる。

洞察力に優れた彼らは、政治に関して、旧人類以上に複雑な駆け引きが可能だった。すなわち、ジョン・ダイクンの卓越した政治センスは、それで説明できるかもしれない。

また、洞察力は他者への感情移入、共感や同情を可能にする力でもある。文学や芸術、スポーツ観戦などで感動できるのも、洞察力があればこそだ。このことからすると、あのアムロとラファが、戦場の場面での一瞬の交差だけで、お互



いを深く理解しあえた理由も理解できる。さらに洞察力は、限られた情報から全体をイメージすることでもある。これは素晴らしい直感力であると同時に、妄想と現実の区別が付かなくなる危険性も孕んでいる。あの悲劇のシャ・アズナブルを始め、多くのニュータイプや強化人間たちの精神が不安定で、成熟した人格に育つ事が稀だったのは、それに起因するのかもしれない。



いすれにせよ、ニュータイプは宇宙の子であつた。それを育てていくことは、人類がスペースノイドへと革新することと等価なのだ。

しかし、サビ家はこの思想をねじ曲げ、宇宙移民こそ、選ばれた民であって、世界を支配する資格を持つとした。ジオンの理想を、歪んだプラトの拡大化をうがわず、アジテーションとして使っていたのだ。

そしてそれは、ジオン国民以外の劣等な遺伝子の持ち主は根絶して当然という、優生思想の発達へとつながっていく。世界の半分を破壊して平穏としていられる精神は、このマインド・コントロールによって作られたのだ。

優生思想は、民族から遺伝的に劣ったものを取り除き、優れたものを選抜して、人間の改良を目指すものだ。かつて、地球のナチストたちはこの考えに基づき、精神病者や先天難病をもつ人々を断種被害し、さらにその考えを拡大してユダヤ人を排除した。

優生思想は、動植物の品種改良の成功を基盤に誕生した考え方。作物の収穫量を増やしたり、病気に強くするといった改良は、歴史の中で非常に成功した技術の一つだ。この手法を人間に適用して、人の優良品種を作るのは、一見うまくいきそうな感じがする。

しかし、この考え方には決定的な落とし穴があるのだ。

品種改良が成功するのは、その目的が明確に設定できるからだ。ところが、人の品種改良には、その目的が設定できない。できると思うのは、実は幻想なのだ。

たとえば、より優れた性質を持たせるとしても、その優秀性の中身が何かは、状況によって大きく変化する。仮に頭を良くすると、その頭の良さは何なのだろう。

知能指数か。それとも記憶力なのか。記憶力だとして、それを高めた結果、種な思ひも忘れられず、気分が落ち込んで自殺しやすい人間になるかもしれない。洞察力の優れた人間を生み出そうとすれば、妄想的で自滅しやすい人間になる可能性もある。ある性質が優れていると思うその内容は、しぜん、ある時代、ある環境においての、一面的で限られた優秀性に過ぎない。

進化はこれまで、ノリエーションを増やす方向に動いてきて、どうやらこれは生命が達する終極の限り、必ず起きる変化らしい。つまり、それこそが生そのものといえる。しかし優生思想は、人間にある偏狭な性に押し込み、変異を赦さないという点で、生に反する行為といえるだろう。

スペース・コロニーは、同種の民族、同種の思想の持ち主が別居する事で、無用な対立が避けられる世界と考えられた。しかし、これはかえって、歪んだ思想に同調するものを、選別する結果を生んでしまった。異なる意見の戦いのない純粋な世界は、実は恐ろしく危険なものだったのだ。宇宙市民の一つの理想社会として生まれたジオン共和国が、やがてザビ家を中心とした狂気にまみれ、おぞましい殺戮に陥り立てられていったことは、宇宙史における最悪の悲劇であった。我々はこれを、歴史の教訓としなければならぬだろう。



第1話「ガンダム大地に立つ!!!」

サイド7にジオンの偵察部隊が侵入する。連邦のV作戦基地をシャアが見つけたのだ。折しもサイド7には最新鋭戦艦ホワイトベースが入港し、モビルスーツ・ガンダムをテストしていた。偵察部隊はガンダムの機密を奪うため、ザクで強襲。住民は逃げ場を求めてホワイトベースに脱出する。父テムが開発したガンダムのマニュアルを偶然手にしたアムロは、住民たちの命を守れた喜びみからガンダムを起動させ、ザクを撃破する。

第2話「ガンダム破壊命令」

ザクは撃破したものの、サイド7はいまだムサイからの攻撃を受け続けていた。乗員を失ったホワイトベースでは、負傷したパイロ艦長に代わってブライトが指揮を取り、ミライが操艦を受け持つ。セイラはサラウとともに民間人の捜索に出るが、そこでガンダムの情報を集めていたシャアと邂逅。二人は互いに慕えばれになった兄妹では、と感ずる。ついにホワイトベースは発進するが、その前にシャアの乗ったザクが立ちちはだかる。

第3話「敵の補給艦を叩け!」

寄せ集めの乗員と避難民を乗せたホワイトベースは、ルナツーの連邦軍前線基地に道路を取る。が、後を追ってくるムサイからの攻撃は不思議と途絶えたままだった。もしやムサイは補給を待っているのでは、というミライの予感に聞けたブライトは、アムロとリュウに出撃を命じる。応戦に出てきたシャアに二人は奮戦、戦場はルナツーへと移り、カイとハートもガンタンクで出撃。老練ガンダムのザクを倒し、ミデアの撃沈に成功する。

第4話「ルナツー脱出作戦」

ルナツーのワッケイン司令は、避難民の収容拒否、ブライト、アムロらの拘留という厳しい処断を下す。機密兵器の無断使用がその理由だ。ホワイトベースは没収され、ガンダムは封印される。そこへシャアが嚴重な警戒網をノーマルスーツで突破してきた。ゲートは破壊され、マゼラン艦は基地の入口を塞ぐように大破する。ブライトたちは、パイロ艦長の助言で出撃を許され、ホワイトベースでシャアの攻撃をしりぞける。

第5話「大気圏突入」

ルナツーを脱出したホワイトベースは、サラミス艦の護衛で地球に向かう。が、シャアは執拗に追跡を続け、大気圏突入の際を狙って攻撃を仕掛けてきた。アムロはガンダムで出撃、突入直前までザクと闘うが、ホワイトベースへの補給に失敗。同一層のところで耐熱フィルムを使い、ガンダムが燃え尽きてしまうのを防ぐ。しかし、地球のガルマ・ザビと連絡を取ったシャアの策略で、ホワイトベースはジオンの勢力圏に降下してしまう。

STORY DIGI

第6話「ガルマ出撃す」

地球へ到着したホワイトベースに、ガルマ中隊のドップが襲いかかってくる。シャアから、ホワイトベースとガンダムは連邦の最重要機密、と吹き込まれたガルマが、ジオン勢力間からの脱出を招みにきたのだ。アムロとバヤトはガンタンクで出陣、ドップの破壊に成功するが、ザクとマゼラ・トップを相手にした地上戦では苦戦。ガンダムの発達で辛くも勝利をおさめる。しかし、ルナツーから戦いづめのアムロの疲労は極限に達していた。

第7話「コアファイター脱出せよ」

ホワイトベースは、アムロの提案でコア・ファイターを乗道軌道で発射する。ジオンのレーダー網を突破して、連邦本部に救援を求めるのだ。しかし、射出時の重力に耐えられなかったアムロは飛行中に気絶。気がつけば目前にジオンのゴムサイが待ちかまえ、ドップの編隊からも攻撃を受ける。アムロは愕然し、ガンダムでシャアと闘う。一方、ガンダムのデータを調べたガルマは、それが戦闘機中心の多用途ミhilスーツであることに驚く。

第8話「戦場は荒野」

グレート・キャニオンを航行中のホワイトベース艦内で、避難民の一部が降りたいと騒ぎだす。一計を案じたブライトは、ジオン軍に休戦を申し入れ、避難民を運ぶ輸送機にガンダムを搭乗。避難民を降ろした後、敵の背後をガンダムで突く作戦に出る。一方、避難民の下船を確認したジオンの偵察機からは、荒野へ踏み出したベルシア母子に難難キッが囁とされる。だが、母子が目指すセント・アンジェは、艦隊で廃墟に変わり果てていた。

第9話「嗚へ!ガンダム」

相次ぐ戦闘で疲れ果てたアムロは、ガウ攻撃空母への戦闘準備命令を拒否する。苦戦されるな、とアムロを慰めるブライト。が、シャアを越えられる男なのに見損なった、とアムロにアムロは奮起。ロケットノズルを使い、ガンダムで空中戦に挑む。ドップで出撃していたガルマは、シャアが無敵機に補工をしたため、ガウのメガ粒子砲でガンダムを仕留める機会を造る。ホワイトベースはマチルダ率いるミデア輸送機からの補給を受ける。

第10話「ガルマ散る」

ガルマの恋人イセリナは、前ニューヨーク市長エッセンバツハの娘。が、前市長はジオンを憎んでおり、結婚を許してもらうには功を立てるしかない。ニューヨークを越えられれば、ホワイトベースは連邦の制空権内に入ってしまう。焦るガルマに、シャアは、南天野球場に隠れたホワイトベースの位置を告げて伝える。ガルマのガウはホワイトベース正面に誘導で、一か所を浴びる。ガルマはシャアの裏切りを悟り、華々しく散っていった。

ST #01~10

WHITE BASE

◎地球連邦軍ベガス宇宙空母「ホワイト・ベース」

アムロ・レイ

■**White** モビルスーツ「ガンダム」パイロット。同モビルスーツ開発者テム・レイ博士の子息。もともと軍医ではなくサイド7コロニー内のハイスクールに通う学生であったが、シオン軍の同コロニー襲撃中に発覚中のガンダムに搭乗し「ジオン軍モビルスーツ「ザク」を撃破」準戦状態に陥ったサイド7駐留軍に急遽パイロットとして現地動用された。軍との正式な経路が通らなかったため、正規の軍医としての任官こそ遅れたものの、復讐後の経験はシオン側のエースパイロット、「赤い彗星」「海い巨星」を次々と撃破するなど非常に優秀らしく、そのドラマチックな誕生物語とともに、連邦初のエースモビルスーツパイロットとして広く世に喧伝されることになった。しかし本人の気性はやや内向的神経質で、軍組織内では従順な士気とは異なり強い所属感ホワイトベース自体、半官の乗組員がサイド7難民からの現地動用であるという異色の存在であるため、逆にそうしたキャラクターが評価され、彼の才能も顕在化していった側面があるようだ。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム
機動戦士ガンダム: 逆襲のシャア

ガンダム

■**White** 1 50m/1kg 47 43.4%

■**White** サイド7コロニーでテム・レイ博士の開発チームの手で機密裡に開発されていた3体の連邦軍試作モビルスーツのうちの1体（他にも同機種の同型機種が存在したとされる）。同コロニーへのシオン軍の侵襲事件により初の実戦を経験。連邦の当初の計画では、シオンの汎用性を主目的に開発されたモビルスーツ「ザク」に對し、より大出力のエンジンを有し、共通のコア（コア・ファイター）をベースに、ハーツ機密によって機密的に特化した3種のモビルスーツを戦術展開させるというものであった。本機はそのうち白兵戦用として考案された機体で、3機中もっとも豪華らしい戦装を達成したため（これは当初の開発計画が量産ベースにするには非常にハイコストであったためでもあるが）、連邦のモビルスーツ生産計画自体がガンダムタイプをベースに、構造を簡略化した汎用型モビルスーツ「ジム」一体の生産へと変更された。ガンダムタイプは生産数、運用事情などの点でそれぞれ諸般あり、一体何機か実戦投入され、どのように戦場で使用されたかが現在でも広く論議されている諸の多い機体である。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話





ガンキャノン

カイ・シデン

ガンタンク

カイ・シデン

■Notes サイド7で現地で開発されたホワイトベース所属のモビルスーツパイロット。大型特務作業機種の免許を持っていたため、アムロとチームを組み、中距離支援型のモビルスーツ・ガンキャノンに搭乗する。シニカルな性格と意地の持ち主で、同僚がホワイトベースを降りようとしたが、船降での現実には触れ続け、人間的に成長していった。一年戦争後は重傷を蒙っている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム

ガンキャノン

■Weight 5m Weight 51.5t

■Notes サイド7で開発中だった3機のモビルスーツのうちの1機。ガンダムよりも重装甲、重武装で、中距離での援護射撃用というのが開発コンセプトだが、機動性を特長とするモビルスーツとしては、やや中途半端な機体であるため、量産には至らなかった。のちに設計思想を受け継いだ「シンキャノン」がつくられている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

ガンタンク

■Weight 9m Weight 80t

■Notes サイド7で開発中だった3機体の1機。連邦軍でのモビルスーツ開発でいちばんはじめに具体化した機体だが、設計思想としては従来の戦車の域を脱してあらず、他の2機に比べると旧式の感を脱しきれない。運用目的としてはその重武装を生かした後方からの支援射撃と対空支援だが、機動性の底劣さは致命的で、量産ベースとはならなかった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

ハヤト・コバヤシ

■Notes サイド7で採用されたホワイトベース所属のモビルスーツパイロット。当初軍への反感心を隠さなかったが、結局はホワイトベースのクルーとして結核まで戦う。アムロとはハイスクールの間柄生で、ひそかにライバル心を燃やしていた。パイロットとしてはおもにガンタンクに搭乗。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance: 機動戦士Zガンダム、機動戦士ガンダムA.Z.

リュウ・ホセイ

■Notes サイド7事件後のホワイトベースのモビルスーツパイロットとしては珍しい、正確な教育を受けたパイロット候補生の生き残り。その孤高な孤高な性格でホワイトベースクルーのまとめ役的存在だったが、アジアでのジオ軍部隊の格闘戦の経験が戦いに対し、ガンタムの盾になる形で燃焼。その死はホワイトベースの他の乗組員たちに大きな影響を与えた。パイロットとしてはおもにコア・ファイターに搭乗。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

WHITE BASE

◎地球連邦軍ベガス級宇宙空母「ホワイトベース」

ホワイトベース

■Notes 連邦のモビルスーツ開発計画に併せて開発されたモビルスーツ運用のための宇宙空母。これは当時シオン側でも発想しなかった画期的な「ムンセプト」であり、その他にも大気圏突入、艦艇、ミノフスキークラフトを使った大気圏内での運用など、革新的な技術が多数盛り込まれた新世代の軍用宇宙艦だが、そのため正に生産コストが高騰し、現実には艦艇に投入された同型艦の数は少ない。艦内にモビルスーツハンガー、モビルスーツ転出用カタパルトを有し、宇宙、地上を問わずモビルスーツの運用母艦として機能するよう設計されている。ベガス級でもっとも著名なのはやはり「V作戦」のために開発された一番艦「ホワイトベース」だ。サイド7へのシオンの急襲のため、半数以上が民間人というクルーの手で運行され、こもかわらず劇的な戦果を上げた同艦の物語はあまりにも有名である

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話

ブライト・ノア

■Notes もともとはベガス級宇宙空母一番艦「ホワイトベース」に配備された士官乗組員だったが、サイド7襲撃事件によって、ホワイトベースの士官クラスの乗組員が全滅に近い状態に陥ったため、艦長代理として同艦の指揮をとることになった青年。もとより経験もなく、艦内にはサイド7市民があふれかえる状態どころか責任を負わざるを得なかった彼は、初期には優秀な士官やヒステリックな性格をのぞかせることもあったが、次第にその責任を自覚的に引き受け、優秀な指揮官へと成長していった

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話
/ Other Appearance: 機動戦士Zガンダム
機動戦士ガンダムZZ、機動戦士ガンダム:
正義のシリア

ミライ・ヤシマ

■Notes 日系の名門、ヤシマ家の令嬢。父親は元連邦政府高官で政治的に強い影響力を持つ人物。サイド7でシオンの襲撃に遭い、スペースグライダーの免許を持っていたため、現地政府でホワイトベースの操縦手となる。以後、父親の影響により、ホワイトベースを離れるかと思われた時期もあったが、終戦まで航行。その神がかり的な連戦技術で艦の危機を何度も免れている

First Appearance: 機動戦士ガンダム
第2話 / Other Appearance: 機動戦士Zガンダム
機動戦士ガンダム、正義のシリア

セイラ・マス

ブライト・ノア

ミライ・ヤシマ

ホワイトベース



コア・ファイター

カブ・ハウイン
レツ・コ・ファン
キッカ・キタモト

ハロ

セイラ・マス

■**Role** サイトで現地徴用されたホワイトヘースクルーの一人でもちに通信オペレーターをつとめるが、のちにGファイターなどのパイロットもこなした。シオン・ズム・ダイクンの忠告もシオンの「奇い騒動」の縁ともいう。あまり他人とは打ち解けようとならないが、ホワイトヘースのクルーとは家族的なつながりで結ばれるようになる

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

機動戦士ガンダムZ

フラウ・ボウ

■**Role** アムロのカールフレント・ジオンの襲撃により、両親や祖父を失い、ホワイトヘースで食糧品の搬送や後方での補給を担当するうちに、ホワイトヘース・ブリッジで通信オペレーターを担当するようになる

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

カツ・ハウイン

■**Role** 難民の少年。サイト/襲撃により両親と死に別れてホワイトヘースで収容される。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

レツ・コ・ファン

■**Role** カツと同じくサイト/難民の少年。母なる民間人であるが遭うはホワイトヘースと最後まで行動をともにした

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

キッカ・キタモト

■**Notes** カツ、レツと同様、サイト/難民の少女。3人組いちばんのムードメーカー

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

ハロ

■**Role** アムロ・レイが製作したマスコット・ロボット

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

Other Appearance 機動戦士Zガンダム

機動戦士ガンダムZ

機動戦士Zガンダム

逆襲のシャア 機動戦士Vガンダム

コア・ファイター

■**Role** モビルスーツ運用システムの「コア[核]」となる戦闘機。これを中心にパーツ換装で3種のモビルスーツを運用する。発想としてはモビルスーツの派出カプセルの延長だが、その意外な高性能からのちに単機での運用が検討された

First Appearance 機動戦士ガンダム 第2話

WHITE BASE

◎地球連邦軍ベガス宇宙空母「ホワイトベース」

Gアーマー

■Notes 「ガンダム」の戦術運用のためのトランスポートおよび増加装甲、武装システムとして開発された特殊パーツ「Gパーツ」をモビルスーツガンダムにフル装備した形態をこう呼ぶ。これはガンベリーのような単なるトランスポーターではなく、ガンダムのパーツとあわせて多目的な運用を主眼に開発されたシステムで、Gパーツ自体が前後の2つに分割され、コア・ファイター、ガンダムの上半身パーツ、下半身パーツとの組み合わせで様々な用途に対応するよう設計がなされている。コア・ファイターを軸にしたモビルスーツ運用計画自体が試作段階で頓挫したため、艦内ベースにはなりえなかったが、実験的にホワイトベースに実装記憶され、ガンダムのサポートメカとして様々な形で活躍した。Gアーマーはその運用法のうち、もっともモビルスーツトランスポーターとしての思想が色濃く出た形態で、その行動範囲の広さが特徴になっている。

・劇場版には未登場。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話

Gファイター

■Notes 「Gパーツ」のみを組み合わせ、独立した戦闘機として運用する形態。エンジン出力が高く、モビルスーツを乗せて飛行する。シオンにおける「トドギ」のような使用法も見られた。トランスポーターというよりは戦闘機的な「Gパーツ」の運用法。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話

Gブル

■Notes 「Gパーツ」前部とガンダムの上半身で構成された運用形態。要領中でキャタピラで地上を走行する。一應の戦術的な運用法だが、上半身パーツを使用するためモビルスーツとしてのガンダムが使用不可能になるため、あまり実戦では使用されなかったようだ。

・劇場版には未登場。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話

Gスカイ

■Notes 「Gパーツ」後部とガンダムの下半身パーツで構成された運用法。ペイロードが広く、機動できる弾薬量が多いため、長距離射撃支援機として使用。この形態もガンダムが使用できない。

・劇場版には未登場。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話





Gブル・イージー

■Notes 「Gパーツ」前部とコアファイターの
みで構成される「Gパーツ」の運用法で、用途
はGブルと同様だが、この形態だとガンダム自
体もモビルスーツとして使用できるため、実際
にはこの形態で運用されることのほうが多かつ
た。

◆劇場版には未登場

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話

Gスカイ・イージー

■Notes 「Gパーツ」後部とコア ファイター
のみで構成される「Gパーツ」の運用法で、こ
れもGスカイと別様の運用目的で使用され、よ
り実用的な形態のものとしてGスカイよりも多
用された。「Gパーツ」の運用法としては、こ
の他にガンダムに「Gパーツ」後部のみを装着
して増進ブースター的に使い、モビルアマー
的な運用をおこなった例が知られている。

◆劇場版には未登場

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第23話

ガンペリー

■Notes ホワイトベースとセットのような形で
構成された遠征の大空軍内用モビルスーツラ
ンスボーター。一種のVトル機であるため、
比較的狭い場所にも着地可能で、モビルスー
ツ運用の活動範囲を広げるものと期待された。も
っとも、実際にはかなり大きなペイロードを持
つその機体特性から、輸送機的に使われること
も多く、時にはミサイルなどを積んで戦闘に参
加することもあった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第8話

オムル

■Notes ホワイトベースのメカニック 政治的
な事情から、ろくに補給も受けられずに放浪さ
ざるを得なかった艦の状況をよく支えた艦下の
力持ち的存在。パイロットたちから強く信
頼されていた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第7話

オスカ

■Notes ホワイトベースのブリッジに勤務する
オペレーターのひとり。訓練生として乗組して
いたが、サイド7襲撃事件により正規のオペレ
ーターとなる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

マーカ

■Notes オスカと同様、ホワイトベースのブリ
ッジクルー。機も訓練生として乗組し、サイド
7襲撃事件のブリッジ要員の交代により正規の
乗組員として駆りたされた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

シャア・アズナブル

■Notes シオン軍のエースモビルスーツパイロット。その驚異的なモビルスーツの機動から連邦のパイロットたちに「赤い騎兵」と呼ばれて恐れられた。士官学校時代にザビ家の3男ルマ・ザビと同席となり、そこで情交をもちにしたガルマの強い推挙と戦場での手強い功績から、軍組織内で急速な昇進を遂げ、サイド7襲撃事件の際には創設20歳にしてすでに一旅の指揮を任されていた（この時点での階級は少佐）この事件は、彼がコロニー内へのモビルスーツを使った強行偵察をおこなったことに端を発したものであり、ここで遭遇したホワイベースとガンダムを度は同席に押されるように終戦間際まで追い続けることになる。「敵の傷を癒すため」という名目で異段からマスクを着用するなど、謎めいた行動の多い人物としても知られ、ガルマ・ザビ戦死に責任があったとして一時謹慎処分が付されていた。シオン・ズム・ダイクムの通兄であったとの説もある。謹慎から復帰して以降も不協調とホワイベース部隊との摩擦が多く、ニュータイプ理論が発表されて以降は「ニュータイプ同士引かれあうのだ」などと言われたが、これはむしろシャア本人のこだわりだろう。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話
/ Other Appearance: 機動戦士ガンダム、
機動戦士ガンダム: 逆襲のシャア

ザク(シャア専用)

■Height: 17.5m Weight: 74.5t

■Notes シオン軍の主力モビルスーツであり、戦争初期のシオンの優位を決定づけた新型兵器「モビルスーツ」の実用化第一号。これはそれを指揮官用にチューンナップした機体で、外観上の相違点は頭部につけられた識別用の「ツノ」(中隊長マーク)のみであるが、若干エンジン出力が高くなっており、通信機能なども強化されていたと言われる。特に全身を鮮やかな赤でペイントされたシャアの専用機は、戦場でのカテゴリー・スベック以上の動きと戦場で(シャアの機体は通常型のザクの3倍のスピードを誇ったという「伝説」が残されている)、敵には深い恐怖を、味方には強い信頼を抱かせ、指揮官用のザクはパイロットたちにとって一種の憧れの対象になっていた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話



ZEON'S ROYAL FAMILY

©ザビ家とシャア



デキン・ザビ

■Notes ジオン公国の「公王」。コロニー・スマのダイクンとともにスペースコロニー居住者の地球連邦への経済的、政治的な疎隔を不穏とし、サイト3において地球からの独立運動を展開。初のコロニー国家シオン共和国の設立に尽力した。ジオン・ズムの死後は「公王」を名乗り、国家の中核に自分の力を重ね、中央集権的なファシズム国家へと政体を変え、国名も「シオン公国」とし、地球連邦に対して独立戦争を開始した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第10話

ギレン・ザビ

■Notes デキンの長男。独立戦争開始時には、すでに「公王」デキン・ザビが国家の象徴としての立場に確立していたため、実質的な指導者として公国の運営を任されていた。IQ240という天才であり、現在も残されている戦時の演説フィルムや数々の著作での発言から、今でも天才的な運動政治家と見なされている。ファシズム・ジオンの実質的な中核である人物。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第11話

キシリア・ザビ

■Notes デキン・ザビの長女で、地球連攻作戦の指揮を任されていた公国軍のトップの一人。もっとも純粋な軍人というよりは軍官僚、政治家としての側面が強く、機動戦の指揮と同時に、優れた外交手腕で地球での占領政策を展開し、地球連邦に伴う各コロニーとの外交的な折衝もこなしていたらしい。その指揮下には情報組織も含まれていたとする説が有力。公国の実質的なナンバー2であったとされる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第11話

ドズル・ザビ

■Notes ギレンやキシリアといった国家経営を仕切った能吏タイプの兄弟たちと比べ、純粋な軍人素質のデキン・ザビの2男。宇宙軍の戦術という役割以上に、軍の訓練の代弁者といった色合いの濃い人物。政治的な野心を持たず、豪傑風でスリキリした性格の彼は、なによりも部下に愛される存在だった。形式上はキシリアと軍の指揮権を分けてあっているが、実質的な軍部のトップである。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第2話

ガルマ・ザビ

■Notes デキン・ザビの3男であり、地球方面軍の指揮をとっていた。来っ子としてデキン公王に溺愛されたが、占領地域においては地方の有力者と積極的につながりを持って、地域住民の反感を抑え込むなど知らない面も見せていた。ただ、兄弟への自己アピールの必要に駆られ、自らの手でホワイトベース追討作戦を前線で指揮し、功を焦りすぎチャアの罠のため犠牲してしまった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第5話

テム・レイ

■Notes: 連邦軍のモビルスーツ開発プロジェクト「V計画」の総指揮責任者。新型エンジンの開発によるモビルスーツへのビーム兵器の搭載やコア・ブロック・システム、自己学習型コンピュータの採用など画期的なコンセプトを多数用意し、連邦のモビルスーツ開発の基礎を築いた。開発最終段階の試験機の実験テストのためサイド7に駐留中。シャア少佐率いるジオン軍の偵察部隊に襲撃され、その襲撃の現場の中で行方不明となった。のちのスーパーベースで「ガンダム」パイロットであるアムロ・レイの父親でもあり、息子と地球からサイド7に連れてきたことでそのパイロットとしての誕生に一段落った人物だとも見える。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話



テム・レイ

ムサイ

■Notes: ジオン公国の海洋艦。ジオン宇宙軍の戦艦艇としてはもっとも多く生産された艦艇で、終戦までその主力としてよく働いた。大型メガ粒子砲3門、小型ミサイルなどの主武器の外、モビルスーツ5機（ザクタイプの場合）を艦内に収容することが可能で、モビルスーツ母艦としての機能と宇宙用戦艦艇としての機能のバランスのとれた艦であると言える。そうした艦としての汎用性の高さから戦時中は艦隊を組んでの運用の他にも、宙域制圧のための哨艦、単艦での偵察など幅広い用途に使用された。有名なジオン軍によるサイド7襲撃事件のときに使用されたのもこのタイプの海洋艦であり、ジオンの軍用艦と聞いて人が真っ先に思い浮かべるのもこのタイプのものだろう。外観上はメインリッジの形状が異なるだけの艦隊運用のために派生機能を強化した増強用の艦艇と、通常型の艦艇の2タイプが存在する。単艦での大気圏突入能力は有しておらず、「コムサイ」と呼ばれる大気圏突入ボットが付属。地球軌道上から地上への連絡、派兵はこれをもっておこなった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第1話



SIDE 7-LUNA II

○サイド7-ルナII



ザク

■Type 機動戦士ガンダム

■Notes ジオン軍の主力モビルスーツであり、コロニー内外での作業機械の発展型として作られた。この機体はなによりも生産性に優れ、その宇宙空間での機動性の優秀さから恐ろしい戦果を上げ、大規模な作戦的な発展で物語作戦を展開していた連邦軍に大打撃を与え、かつての地球上での戦争で航空機が与えたような戦術上の転換を宇宙空間での戦術にもたらすことになった。そのコストパフォーマンスの高さから終戦まで前線では活躍し続けた。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

ドレン中尉

■Notes サイド7襲撃時にシャア少佐の教育を基いていた人物。若くして艦艇指揮を任された少佐のために艦長の補佐役を、特にドズル・ザビ中将が囁き計らって配置した艦長の宇宙船乗り。モビルスーツでの実戦、陣法指揮をこなすことを好んだシャアに代わり、艦艇、部隊の指揮をおこなって、よく彼を補佐した。シャアが地球に降りて以降はその直接的な指揮を離れ、戦争後期にはドズルの下で1艦艇の指揮を任されるようになった。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

デニム曹長

■Notes サイド7襲撃事件でコロニー内に侵入したため捕らえたモビルスーツ小隊の隊長。単純な情勢認識のほしかったのだが、連邦のモビルスーツは発見したものの、部下の暴走から艦艇に突入し、混乱状態の中で突然起動した連邦のモビルスーツの一体（ガンダム）と交戦、その高性能に驚愕しながら戦死した。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

ジーン

■Notes サイド7コロニー内に侵入したモビルスーツ小隊のパイロットのひとり。また訓練を終えたばかりの新兵だったが、立身を図ろうとする野心から戦場での功績を考へるあまり、任務の厳格である連邦からはずれて戦艦を襲撃、起動したガンダムとの戦闘で戦死している。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

スレンダー

■Notes サイド7襲撃時に侵入したモビルスーツ小隊のパイロットで、コロニー内での戦闘からただ一人生き残り、シャアに報告をおこなった。この報告により連邦軍の新型モビルスーツの性能に驚愕したシオンはホワイトベースの直撃を決定。サイド7出航に合わせてシャアとスレンダーはホワイトベースを襲撃するが、ここでスレンダーも戦死。シャアは間近に見たその性能に驚愕する。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第1話

ワッケイン司令

■ 小惑星を改造、つくられた星の衛星基地。ルナ1の基地爆発で、何年経たないところのある所からの連絡軍人。貴族、た船長、オロに代わり、ホイトヘースの指揮を執行して、いたプライド・ノアが、サイト、艦民の保護を要求した。はなはだしい、連邦のセ・ム・ノアに対する、オンの高い危機感を過す評価。で、た後は、ホイトヘースを出てきたシアアの、ケ・ラ的な作戦により基地に危機を招く。とたんばてく、た判断によ、これを回避、の艦艇で、民間人と子供が、のホイトヘースの戦闘能力、対する認識を改め、中尉の指揮するサラリスを護衛しつつ、ホイトヘースを衛星シャロロへある連絡軍本部へ、送り出した。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第4話



ワッケイン司令



リード中尉

リード中尉

■ ルナ1 記録の宇宙艦隊所蔵。部員高。サラリス艦長。ト・ケイ・ノア。ホイトヘース。ロ。到着を先導する。船をたのめる。た。気運突入時の襲撃。セ・ム・ノアの乗組員。作戦によ、大気圏突入。セルを破壊。ホイトヘース。四宮。以降路線の整備。を。短時間た。ホイトヘースの艦艇代行。なり到着の指揮をと。て。て。の艦艇によ、ケンオン古墳地域に降下。て。また。とや。艦民の存在。現地地元の若者ばかりの乗組員。と。生野の軍人である後にと。この時の経緯はあまり居心地の悪いものではな。か。よう。か。地味降下後、連邦軍。テラ補給部隊と接触。新たな命令を受理。関は。シャロロ。到着。持たず。ホイトヘースを。艦。た。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第4話

マゼラン

■ 地球連邦軍の主力艦艇。艦艇設計で。艦を。て。時代。思想で。く。れて。る。め。モビ。艦艇に。は。し。て。て。な。て。ま。て。る。強。門。機。14機。を。を。多。数。搭載。武器は。多い。か。モ。ス。の。駆。動。性。に。弱。み。され。戦。争。初。期。は。の。タイ。ノ。の。艦。艇。を。主。力。た。連。邦。艦。隊。は。大。量。を。機。る。の。に。は。連。邦。の。モ。ビ。を。を。式。採用。は。新。千。改。修。を。受。け。た。モ。の。の。改。修。は。5機。に。た。た。ま。に。連。邦。軍。宇宙。艦。隊。の。力。を。受。け。て。た。た。ま。に。大。気。圏。突。入。前。に。大。気。圏。突。入。力。セル。が。付。属。建造。自体。は。地球。に。な。れ。た。た。た。ま。に。軌。道。上。に。た。た。ま。に。た。た。ま。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第4話



旧ザク

SIDE 7-LUNA II

◎サイド7-ルナII



サラミス

[illegible]

カデム艦長

「ムサイ」は、この組織で再結成した「チャタ
二指連下」のムサイ・武器師兼、ハイ
ビルス」の補給官にこなめた。補給機
補給艦」のムサイの艦船。戦争初期からの古参兵
自分の艦船 対 艦 船の誇りを持つ
る。モビルスーツ・イロイトレ」の意思も持
ムサイへの補給艦に、初防衛も由緒な イロ
ムサイ 艦隊へ 初期防衛のサク「乗って攻撃
ムサイの部隊へ 補給艦自体は完全なものの
は、撃沈、自衛もガ」ダムとの遭遇戦で戦
死を遂げる。

Fast Appearance 機動戦艦 カタ 第3話



パプア

● オ 車の補給。給送用大型双胴コ
二船 片側の テナリ ヲムサイ 隻分
の全生補給可能な駆除艦を両る。ま
ムサイを中とする駆除運用を軸に考えられ補給
艦の あり のち ノ ような新駆艦が登場
た とで 中試とな た。が クオッ
の機造費の拡大で、後方での確々の確保や
セー ヲ用塗資材の給送など、使用してし
たのに対して 戦時補給網などの面で終戦まで
活発に

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第13話

旧ザク

「オ」運動時の「式採用王」

である。この「O型」ザクは、全身を「Z」の動力で「行」なれど、外肢の大幅な異なるが根本的に同一の機体設計が露出する。ゆえに、力が必要なく、低めに抱えられ、この機体内部に「か内臓」するため関節部の駆動が若干鈍くなる。また、大きな推進力がある。

First Appeared in: 雜誌 第 1 期

NORTH AMERICA

○北アメリカ大陸

ドップ

■Notes ジオン軍の大気圏内用戦闘機で、マゼラ・アタック戦車とともにジオンの地上での戦力の中心となった兵器。2門の6連ミサイルランチャーを主武装とし、さらにバレルランチャーを搭載している。コンパクトで生産性のよいことが最大の特徴である機体だが、その反面、搭載燃料の積載量などの問題で行動範囲が広いとは言いえない。ジオンはこうしたこの機体の欠点をガウと組み合わせて運用することで見事に補っていた。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第6話

マゼラ・アタック

■Notes ドップとともに地上戦力の中核を成すジオン軍の戦車車両。上部砲塔が車両部から離脱、自立飛行するという戦車としては非常に変わった構造になっている。この分離した砲塔部を「マゼラ・トップ」、車両部を「マゼラ・ベース」と呼ぶ。主砲の他に武装としては3連装機銃を搭載。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第6話

ルッゲン

■Notes ジオン軍の大気圏内用戦闘機。機体後部に機体のリーダードームを持ち、これを使って対空、対地の索敵捜査をおこなう。他に武装として機銃2門と投下用の爆薬を積むが、本来戦闘用の機体ではないため、戦闘機としての性能はさほど高くない。索敵以外ではむしろモビルスーツトランスポーターとして使用された。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第8話

マチルダ・アジャン

■Notes ホワイトベースへと度々輸送物資を供給したミデア輸送部隊の隊長。ジオンに占領された北アメリカからの脱出を図るホワイトベースと最初の接触を果たし、難民のうち傷病者で艦を降りられなかったものと、リード中尉以下のサラミス乗組員を保護。アジア地区での2度目の接触のあと、ヨーロッパで敵の攻撃により航行不能に陥ったホワイトベースの修理のため、レビル将軍から遠征命令を受け3度目の接触を果たす。この修理の最中にジオンのエース「黒い3連星」の攻撃を受けたホワイトベースを守るため、ミデアで特攻、戦死した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第9話





300

メディア輸送機

Notes 連邦軍が地球各地の局地戦に物資を供給するため使用した輸送機。ローターで上昇、ジェットエンジンで推進する一種のVトル機で、滑走路がなくても離着陸が可能。胴体中央の巨大なコンテナに物資を搭載して輸送する。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第9話

サイド7難民

Notes サイド7襲撃事件により、サイド7住民たちは難民としてホワイトベースに収容された。以降ホワイトベースは一種の難民船となり、彼らはその後洋館内をたらい回しにされる。家を逃れた上に、前線で戦傷に倒れ込められた彼らは、軍の処置に不満を抱き、艦内で暴動を起こした。ホワイトベースの指揮官ブライト・ノアは、難民の不満をうまく見て一掃体制を約し、北米で一部難民を艦から降ろしている。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第2話



ムロとコム

ベルシア親子

Notes サイド7襲撃によって収容された難民の親子。夫の故障であるセント・アンジェーロー人恩子育てのためにホワイトベースを降りるが、娘がそこで見たのはすでに荒野と化していた跡地でしかなかった。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第8話

バムロ

Notes ホワイトベースの難民屋下に居る、自国古蹟地域での兵力削減や難民解放にかこつけた戦力の展開を警戒したジオン軍は、バムロと部下のコムが乗組する偵察機ルグンを襲撃へ送り込んだ。しかし降り立った親子の姿に驚き、引かれ殺戮キットを薬としてやった彼は、その行動を誤解して出撃したガンダムと戦戦となり、撃墜された。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第5話

イセリナ

Notes ガルマ・ザビの恋人で、前ニューヤーク市長の名門エッセンバツハ家の令嬢。地球連邦の名花とジオンの御家司の恋ということで、両家の家族は猛反対しており、ガルマが戦死してはくてもこの結婚が実現したかどうかは疑わしい。ガルマ戦死後に、ガルマの遺囑で連邦の残存兵力とともにホワイトベースに特攻をかけるが、乗っていたガフを落とされ死亡。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第10話

ガウ

Notes ジオンが地上での戦力展開のために使用した一種の飛行母艦。ザクを3機、経路機ドッグも8機搭載する空母型要素で、近接としてビーム砲5門と爆撃用の機雷を装備。地球上でもあまり類を見ない巨大な航空機。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第6話



フィッシュ

ベルシア親子



イセリナ

第11話「イセリナ、恋のあと」

イセリナはガルマを脱ぶためにジオン軍基地を訪問。ホワイトベースに復讐を誓い、ガルマの副官だったダロタ中尉に、ガウへの搭乗を許してもらう。イセリナはガウでガンダムを攻撃するが、ビームジャベリンをマスターしたアムロに撃退される。しかし、ホワイトベースもシヤアの攻撃によって左舷を損傷。参謀への不時帰を余儀なくされてしまう。イセリナは点検のため外に出たアムロに鼓を向け、ガルマの仇! と最後の叫びを残す。

第12話「ジオンの脅威」

ドズル中尉はガルマの仇討ち部隊として、配下のランバ・ラル大尉をホワイトベース攻撃に差し向ける。しかし、アムロはこれまでの戦いの疲れに加えて、イセリナの死に際の際業が忘れられず神経衰弱にかかっていた。護甲、パワーともザクに数倍優る新型モビルスーツ・グフでホワイトベースを襲うラルに、アムロは苦戦する。一方、ジオンではガルマの陣葬が行われ、アムロたちもホワイトベースからその映像を見守る。

第13話「再会、母よ……」

アムロは休暇をもらい、コア・ファイターで故郷に飛ぶ。だが家に母の姿はなく、避難民のキャンプでボランティア活動をしていると教えられる。母との再会も束の間、キャンプにジオンのパトロール兵が現れた。母はアムロをベッドにかくまうが、その時運悪くホワイトベースからの呼出し信号が鳴る。とっさに兵を撃つアムロ。母はアムロの変わりように驚き、非難する。アムロは、母と理解し合えない不満と悲しみを軌いにぶつける。

第14話「時間よ、とまれ」

ホワイトベースはメディア機より二度目の捕縛を受ける。だが、ブライトはマチルダからホワイトベースが戦闘でのデータ収集の実験対象になっていると聞き、不快感をあらわにする。一方、辺境を警備するジオン軍のクワラン曹長は、仲間とガンダムを倒す計画を立てた。手柄を立てれば本國に帰れるからだ。クワランたちはワッパでガンダムに時間爆弾を仕掛けるが、一人で取り外しに挑む命知らずのアムロに、敵ながら喝采を送るのだった。

第15話「ククルス・ドアン of 島」

アムロはコアチェンジの時間短縮を訓練中、空軍のSQSを受信。早急、コア・ファイターで発信地点の島に飛ぶ。そこでザクに乗ったジオンの脱走兵ククルス・ドアンと出会う。ドアンは戦争で人を殺し、罪滅ぼしのために、その子供たちを島に隠れ住みながら育てていたのだ。はじめアムロはコア・ファイターを隠したドアンに反発するが、やがて彼の行為に共感する。アムロはドアンを戦争から離れさせるために、ガンダムでザクを海に沈めた。

STORY DIGI

第16話「セイラ出撃」

マ・クベの主力部隊を叩くイデッサ・デーが近づいた。連邦本部はホワイトベースにカスビ海を渡れと指令を出す。が、艦内で塩が不足し、ホワイトベースは途中、カン割に向かう。そこへランバ・ラル隊がギャロップで襲撃してくる。セイラは命令を無視してガンダムで出撃するが、シミュレーションと実戦の差についていけず、アムロのガンキャノンで殺られる。セイラは捕虜になったラル隊のコズンから、シャアの消息を聞き出す。

第17話「アムロ脱走」

中央アジアを航行中、ホワイトベースはジオンの探知基地を発見する。ブライトはアムロにガンダムでの発進を命じるが、アムロは地形からガンタンクが有利と判断、ブライトの命令を無視する。それが原因で、アムロは脱走した捕虜コズンからホワイトベースの情報を得たランバ・ラルのグフに惨敗してしまう。ブライトはミライにアムロはパイロットとして不適格と相談するが、それを立ち聞かしたアムロは、ショックを受けて脱走する。

第18話「灼熱のアッザム・リーダー」

脱走したアムロをフラウが砂漠に導く。が、アムロはアラフの砂漠に応じず、心を閉ざしたままだ。二人は偶然、キシリアが視察に訪れていたマ・クベの鉱山を発見する。アムロはそこがイデッサ・デーで動く基地だと思い込み、ガンダムで攻撃をかける。キシリアはマ・クベに助けてアッザムで前線、四千度にもなる塩碱地の極にガンダムを隠し込める。しかし、基地の真実であるガンダムはこれを通り、ビームジャベリンで反撃を開始する。

第19話「ランバ・ラル特攻!」

砂漠を放浪中のアムロは、隊を率いたランバ・ラルと砂漠のレストランで出会う。食事をせざるというラルの誘いをアムロは断るが、裁判の制服を着ていたフラウが捕らえられ、ホワイトベースの位置を知られてしまう。ラルの攻撃にホワイトベースは苦戦、アムロはランバ・ラルに向かうが、ラルを倒すことができない。艦に戻ったアムロは、反省の色が見られず、ここから脱走に入れられる。アムロは、ラルに勝ちたいと意固し拘める。

第20話「死闘! ホワイトベース」

アムロの脱走を軽くしようとするブライトに対し、それに不満を持ったカイ、ハヤトたちが艦を降りてしまう。そこへランバ・ラルが白兵戦を仕掛けてくる。マ・クベから教団の約束を反故にされ、最後の手に打って出たのだ。艦内に侵入したラル隊とホワイトベースのクルーたちの激烈な戦いが始まる。ラルはセイラことジオンの元姫・アルティシアがいたことに驚くが、リュウと相打ちになり、爆発を抱き自爆。壮烈な最期を遂げる。

ST #11~20

クランブ

■Notes ドズル・ザビ中将配下のランバ・ラル隊の副官。ラルをはじめとしてこの部隊はあらゆる戦戦に参戦した戦争のプロフェッショナル集団であり、一種の機兵部隊的なキャラクターを持っている。その海千山千の男たちをまとめるのが強烈な個性を持ったラルであり、クランブはその端で実務レベルでの非常に実務的なサポート役に徹している男。実際の部隊運営実務の大半を仕切っている。ラルとともにホワイトベースに白兵戦をしかけ、その戦いで死亡。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第12話

コズン

■Notes: ランバ・ラル隊のモビルスーツパイロット。乗機はザク。同僚のアコース、隊長のランバ・ラルとの3機編隊で小隊を形成する。マ・クベからの情報でホワイトベースの位置をつかんだ連中はシルクロードで探検。最初通過戦に入るが、この戦いでアコースは戦死。コズンも捕虜となる。彼はホワイトベースが嵐山襲撃作戦を展開している中で陸路から脱出し、機密を漏らして逃亡を図るが連戦でラルとの連絡をとっているとこを発見され、艦から脱出しようとしたがバズーカにより吹き飛ばされ死滅した。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第18話

サムソン

■Notes: ジオン軍の大型トレーラーで通常の車輪による移動の他、荷台部分を切り離した運転席部分はホバークラフトとして、単独で飛行が可能。主にモビルスーツトランスポートとして使用されるが、この分離機能を用いて、疑似攻撃機として使用されることもあった。武蔵的には機銃座が2門車体上部に存在。荷台にはモビルスーツ一台を搭載する。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第16話

キューイ

■Notes ジオンの機銃戦車。本来は歩兵兵力の輸送車両だが、その特異な形状を生かしてランバ・ラルがホワイトベースへの突入のために利用した。固定銃座は機銃座が一門だけか載せている兵員の銃火器を攻撃に使える構造になっている。
First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第20話



JAPAN-ASIA

◎日本 アジア



ランバ・ラル

ファット・アングル

■Notes 「ジオン側のミデア」とでもいうべき大気圏内用の輸送機。ミデア四機Vトルーパーであり、滑走路のない場所でも離着陸が可能。モビルスーツを乗数機積むことができるかなり巨大な機体を誇っている。固定武装としては自衛用に機体底が3門装備されている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第16話

ランバ・ラル

■Notes ドズル・ザビの直属の部下であり、ドズルの命を受けて、戦死したガルマの仇討ち部隊として遊撃戦的な部隊を率いる。もともとはジオン・ズム・ダイクンの忠実な部下であったジンバ・ラルの意子であり、その経歴からザビ家残部の成立後のジオンでは冷や飯を食わされたかたちになっていたが、その圧倒的なモビルスーツパイロットとしての、兵士としての能力の高さを賞したドズル・ザビの手で拾われ、その部下となる。戦争初戦の真名は「真い巨星」、「赤い蜂」に匹敵するエースとしておそれられた。ホワイトベース遠征部隊を任され地上に降りて以降は、ガルマに代わって地上進軍の指揮を任されたキシリア配下のマ・クベの非協力的な姿勢によって、補給などの面で困難な立場に陥いやれながらもホワイトベースを追い続け、度々戦況の中で自らの機体「ダフ」まで失ってしまし、遂にホワイトベースに直撃弾を打込んでの白兵戦を仕掛けることになる。彼らはホワイトベースへの侵入には成功したものの艦の制圧には失敗、負傷したラルは捕虜になるのを潔しとせず、自爆を遂げている。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第12話

ザク

■Height 18.2m/Weight 58.5t

■Notes ザクの改良型として開発。量産された白兵戦用のモビルスーツ。ザクの地上での戦闘で得たデータからつくられたモビルスーツで武装、機体とも地球上での戦闘に特化した機体である。そのため汎用性を旨としたザクとは別発コンセプトが異なり、地上戦での指揮官用の機体という色合いが強い。固定武装は左手に内蔵されたマシンガンと右手に内蔵されたヒートロッド（電熱ムチ）。オプション武装としてヒートサーベルとシールドという完全に格闘戦に特化したものになっている。もともともこうしたピーキーな武装はさすがに重産機としては使い勝手が悪く、そのため実際の部隊ではザクの「ズーカ」やマシンガンを持って武装している場合が多かった。ジャブロー機攻作戦などで大動員されたが、ジオンの兵力が宇宙に押し戻され戦線が宇宙に移ってからは、活躍の場を失い、より汎用性をもったザクの遊撃的な変種機である「ドム」や「ゲルググ」に主役の座を譲っている。最初の生産機でありエースの乗機でもあることから「真い巨星」ランバ・ラルの機体ももっとも有名。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第12話

ククルス・ドアン

■Notes: 日本海周辺の「島」に隠れ住むジオンの脱走兵。戦前に巻き込まれ戦を無くした子供たちを集めて育てている。じつはこの子供たちの親は彼が殺してしまった人々で、そのことを深く悔いた彼は軍を脱走して子供たちを引き取ったのだった。ところが、そこに連邦軍の戦闘機が迷い込んだことから、それを追ってジオン軍の戦艦兵隊が到着し、激戦が起きた。ホワイトベースの戦艦がはじまる。最初に無線機で発見してやってきた連邦のラムロ・レイと接触した彼は子供たちを守るために、隠していたみずからザクで降下した母国のモビルスーツと戦い、ラムロと協力して敵の生活を守ろうとする。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第15話



ククルス・ドアン



ラムロ・レイ



ロラン

■Notes: ドアンの育てる子供たちのひとりで、ドアンとの戦艦に戦艦を失っていたラムロを介抱する。もともとは自衛隊気味のところのある子供だったらしいのだが、島の自然とドアンや子供たちとの生活によって惹かれ、戦争への嫌悪と自然の美しさをラムロに語る。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第15話

カマリヤ・レイ

■Notes: アムロ・レイの母親。息子と夫をサイド7に送り出し、ひとり地球で家を守って暮らしていた。ジオンによる地上侵襲後は占領地域の農民キャンプ内でボランティアとして働いていたが、そこにジオン占領地からの脱出を助けるホワイトベースが飛来。連邦軍のモビルスーツパイロットとなった息子アムロと再会するが、ジオンの兵士と接触し戦艦になった際にひとを救う息子の姿にショックを受け、彼をなじめる。戦艦後、彼女はアムロと一緒に暮らして欲しかったかと願うが、なにかが決定的に変わってしまったことを知ったアムロはこれを拒否、以降離別する。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第13話

ワッパ

■Notes: ジオンの一人乗りホバークラフトで地上戦での歩兵戦力の展開、輸送、戦艦に使われていた。ある程度の高さまでは上昇が可能であるためクワラン隊長たちがガンダムへの襲撃に備えて使用した。戦闘力云々というよりは機動性のみが特徴的な機体だが、ホバーであるため靈敏性は単純式のオートバイよりも数段上。固定武装としてマシンガンを一挺搭載している。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第15話



JAPAN-ASIA

日本 アジア



クラウレ・ハモン

■Notes ランバ・ラルの肉親の妻、常にラルと行動をともにし、その傍らにいる。正式な軍医というわけではなく、あくまでラルの随行者という立場ながら、部隊の副官的な立場で指揮をとることもある。単なるラルの恋人としてではなく、部隊内ではその指揮能力や状況判断に対し深い信頼が寄せられている。こうした組織の在り方はラルの部隊が傭兵部隊的な性格を色濃く持ったためであり、必ずしもジオンの軍組織がこうしたイレギュラーな体制を許容する傾向的なものであることを意味しないが、連邦軍ではこうした指揮官のわがままとも見える行動が許されるとは考えづらい。ハモンはホワイトベース追撃に際しても、ラルとともに地球に降下、モビルスーツでの出撃が多い彼を部隊指揮の面でサポートした。ラルの死後は部隊の生き残りを集め特攻作戦を敢行、指揮用に使っていたギャロップに爆薬を搭載し、ホワイトベースを運送れにすることを狙ったが、ガンダムによってその計画は挫まれ戦死している。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第12話

タチ中尉

■Notes ラル陣の士官のひとり。ホワイトベース追撃作戦を生き延び、ハモンとともにホワイトベースに最後の特攻をかける。少ない戦力を巧みに配置し、迅速な指揮でよくハモンを助けるがこの戦闘において戦死。なお、ランバ・ラル陣のこの最後の作戦ではホワイトベース側でもガンダムの真実となってリュウ・ホセイが戦死している。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第21話

コミュ

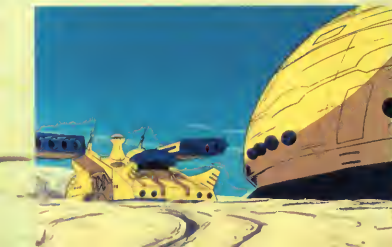
■Notes ジオンの連絡機、一種のリトル機なので場所を選ばずに離着陸が可能。拡散した地球上の各戦線の連絡を保つため頻りに使用された機体である。キシリアの集を受けたマ・クベがランバ・ラルの補給要請拒否を伝えるためにこれでウラガンを派遣した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第20話

ギャロップ&カーゴ

■Notes: ランバ・ラル陣が移動基地として利用していたジオンの小型輸送機。ホバークラフトであるため陸上にすくなく、荒野での進軍劇となったホワイトベース追撃戦をよく支えた。モビルスーツや戦車などを搭載し、輸送物資を運送した「カーゴ」と呼ばれるコンテナを連結することで自主的な作戦行動の移動拠点として使用可能。コクピットは緊急脱出ポッドになる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第16話



EUROPE

◎ヨーロッパ

レビル將軍

■Notes 連邦軍の将軍。戦争初期にシオンのエース「黒い三連星」の手で乗艦を破壊され、脱出ボートで艦からの脱出を図ったところをシオンの捕虜となる。南極における休戦条約締結時に自力で脱出、連邦不利のまま条約が締結されようとしたところで帰還し、「シオンに兵無し」と演説したことで連邦の士気が回復した事実はあまりにも有名な。かなりの戦略家であり、マテルグ中尉に補給物資を届けさせ続けたり、航行不能に陥ったホワイトベースに一台で技術者を派遣したりするなど、正義軍ではないが新世代の力の象徴ともいえるホワイトベースを影から援助し続けた。保守的な地球連邦上層部においてはめずらしく開明的な人物だが、これも演義のときの経験からくるものかもしれない。オデッサでホワイトベースが正式に戦力と認められてからも、彼らを独立部隊として既存の軍組織内には組み入れず、一貫して後援人のような立場をとり続けた。

First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第23話

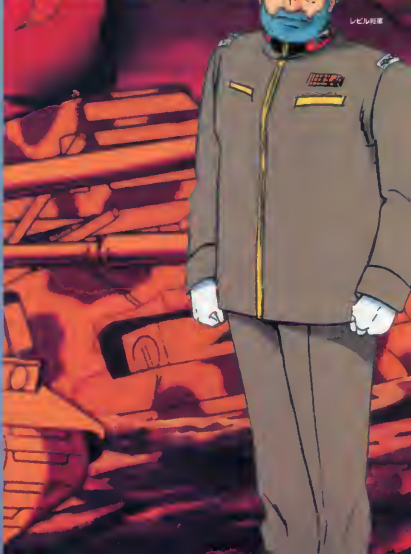
マ・クベ

■Notes キシリア配下の士官。キシリアから地球最大の鉱物資源採掘基地の守衛を一任され、ガルマ戦役後は最大拠点を持っているため、実質的なアジア・ヨーロッパ方面軍の指揮官となる。士官というよりは文官的な発想の軍人で、採掘基地の長官という人事も、おそらくそのためだろう。むしろ、軍人気質を殊しく誇る発想があり、ドズルに派遣されてきたランバ・ラルの野望を嫌う。地上に降りたキシリアとともに新兵隊アッザムの実験テスト中、ガンダムと遭遇し戦死したが、兩人ともに脱出。ランバ・ラル隊の全滅以後は彼が直接ホワイトベース追討の指揮をとって、配下の特殊部隊や「黒い三連星」を派遣、一時は艦を航行不能にまで追い込むが、最終的には進退を許す。その後にはマ・クベの占拠地域は連邦軍の大反撃作戦を受け、地上の拠点を放棄、宇宙へと逃亡した。この時、南極条約で使用禁止が誓われた水爆を使用しようとしたことから、彼は歴史的な悪名を残している。また、地球上での対敵諜報活動の統括責任者でもあり、連邦軍内部に多数のスパイを送り込んでいたスパイマスターとしても知られている。

First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第16話



ビザ・トロー



レビル將軍



アッザム

■Notes: ジオン軍が開発中の新兵装「モビルアーマー」のプロトタイプ。この段階ではまだ移動自在な発想が強い。路を8門備え、対地用と思われる特殊兵器「アッザム・リーダー」を備えている。移動は主としてミノフスキーラフトを使用した飛行によっておこなわれ、4本の腕部は格闘時の機体支持のためにある。探知基地のひとつで機体の実験テスト中にホワイトベースを撃沈したアムロ・レイと接触。ガンダムと戦ったが、連戦のうちに機体高度を稼いだキシリアはマ・クベとともに基地を放棄して脱出。以後アッザムが実験投入されたかどうかは定かではない。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第18話

エルラン中將

■Notes: 連邦軍将官で、レビルの補佐役をつとめている。慎重で保守的な高貴な人物だが、じつはマ・クベに裏切られ、ジオン側に運送されたスパイである。連邦軍のヨーロッパ専任部隊「オデッサ作戦」の日程やホワイトベースの軌路などの機密情報を自身の副官ジューダックを通じてマ・クベに渡し、「オデッサ作戦」でその能力こそジオンに返還する約束になっていた。土壇場で訓練飛行中のアムロとセイラにジオンとの連絡を見とがめられて逮捕。連邦はこの情報を活用してオデッサの遂行に勝利した。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第23話

ジューダック

■Notes: マ・クベ配下の情報員でエルランとの連絡係として連邦軍に潜入。ホワイトベースの修理のために派遣されたミデアの情報をマ・クベに伝えるなど背後からホワイトベースを追い詰める役割を果たした。これによってミデアはグフ部隊によって捕縛され、ガンダムの破壊で早くもランデブーを果たしている。エルランとともに『オデッサ作戦』時に逮捕。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第23話

ビッグ・トレー

■Notes: 連邦軍の大型実験艇で「オデッサ作戦」時にはレビルがここから連邦軍の指揮を執った。正面に大型砲を2門備える他、8台の砲塔を有する「路の戦艦」のような性格の機体。ホバークラフト推進で高い臨海性を誇るほか、強力な通信装置を有しており部隊指揮に達する。

First Appearance: 『機動戦士ガンダム』第25話

EUROPE

ヨーロッパ



ダブル・ログ爆撃機



ダブル・ログ爆撃機



フライ・マンタ戦闘爆撃機

ダブル陸戦艇

■Notes: 海邦軍の「ビッグ・トレー」にあるジオン側の大規模戦艦。砲塔2門、機関砲2門と武装面ではビッグトレーより若干見劣りするが、指揮能力は同等で、機動力はこちらが上。機体の四方の脚状のダンパーは起陸時の機体支持用のものであり、普段は埋込していない。オデッサではマ・クベが水爆ミサイルを積み込み無謀な発射をおこなっているが、ガンダムによって被害を回避され、爆発は回避された。
First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第25話

ドラゴン・フライ連絡機

■Notes: 海邦軍の連絡機で地球各地へ飛出した前線への連絡に使用される機体。ジュグックがマ・クベのもとへ報告に行くために使用していたが、訓練飛行をおこなっていたアムロとセイラに、その行為を見とめられスパイ行為が発覚するきっかけとなった。
First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第25話

デブ・ログ爆撃機

■Notes: 海邦軍の爆撃機。海邦軍軍の中核をなす機体のひとつ。対空ミサイル、対地ミサイル、投下爆弾をそれぞれ機体に持ち、豊富な搭載量と対空、対地それぞれで一定のパフォーマンスを有するのが特徴。
First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第25話

フライ・マンタ戦闘爆撃機

■Notes: デブ・ログ同様海邦空軍の主力のひとつ。ミサイル、機銃などを搭載し、ジャブロー宇宙艦にも配備されている。
First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第25話

セキ技術大佐

■Notes: レビルの命でマルダとともにホワイトベースの修理のために派遣された技術将校。破壊したメインエンジンとミノフスキークラフトを修復し、オデッサ艦へのホワイトベースの兵隊参加を実現した功労者。以降、ホワイトベースに留まり、ベルファストに離るまで、艦のメンテナンス責任者となった。
First Appearance: 「機動戦士ガンダム」第25話





ドダイYS

■Notes ももとはジオンが地上制圧用に開発した爆撃機なのだが、その特徴的な形状からモビルスーツトランスポーターとしての可能性が感じられ、若干のテストと改修の上でモビルスーツの運搬や作戦展開に使用されることになった。機体下面にモビルスーツをぶら下げたり、機体上面にモビルスーツを乗せて飛行することで、ジオンのモビルスーツの行動範囲は飛躍的に拡大した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第22話

黒い三連星

■Notes 連邦の要人、レビルを生け捕りにしたことで知られるジオンのエースチーム。ガイア、オルテガ、マッシュの3名で、ジェットストリームアタックと呼ばれる独特の攻撃フォームで連邦軍の戦艦を次々と沈め、おおいに勇名を馳せた。キシリア配下で「オデッサ作戦」目前に戦力増強の一環として地球へと送られる。新型モビルスーツ「ドム」を与えられる。マクベによってホワイテース追討に送り出された彼らは、その後編み立てでホワイテースのパイロットたちを誘拐するが、苦戦するガンダムを助けようと思ったままカチルタのミデアの特攻に遭い、隊を見せたところをガンダムによってマッシュを失う。残ったふたりはオデッサで仇討ちを狙うが、ガンダムの予想以上の動きに反撃をくらって戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第24話

ドム

■Height: 18.6m/Weight: 62.6t

■Notes グフに続くジオンの新型モビルスーツで一種のホバークラフト走行をおこなうことで地上での機体長甲、高機動を実現した画期的な機体。本来はザクの地上での運動性、武装、装甲強化をコンセプトに開発された機体だが、その基本設計の完成度の高さをのちに機師「バーニア」などを改修し宇宙用にチューンアップされたモデル「リック・ドム」が量産された。固定武装としては胸部にセットされた近接ビーム砲（低出力で攻撃用というよりは牽制用のもの）および肩中にセットされたヒート弾。オプション武装として手持ちのバズーカが用意されている。強力なビーム兵器を搭載していないが、その基本性能は非常に高く、実質的なザクの後継機として戦争末期には「リック・ドム」タイプが多数生産された。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第24話

61式戦車

■Notes 連邦軍でジムの量産が実現するまで地上戦の主力をつとめた戦車。2連装砲塔が主武装。もはや時代遅れの戦車と認めない兵器だが、オデッサ戦ではモビルスーツの配備が完了していなかったため戦力の中核をなした。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第25話



ミハル・ラトキエ

■Notes 北アイルランド、ベルファストの街に住む被災孤児。幼い弟と妹との3人暮らしで、生活のためにシオンのスパイとして連邦軍基地の機密を収集していた。そこにオデッサ攻撃隊までのダメージを修復するためにホワイトベースが飛来し、彼女の運命は狂い始める。ホワイトベースの警備員に横腕がさし、船を降りたカイ・シデンに近づいた彼女は、彼を家へと連れ帰ってそれとなく機密を盗る。ホワイトベースを逃してベルファスト沿岸にいたシヤアは、彼女にホワイトベースへの潜入を命じた。侵入した艦内で、ホワイトベースへと戻ったカイと再会した彼女は、薄々その正体を察していた様にかくまわれるが、大西洋上で連軍組合に附したマッド・アングラー隊にホワイトベースの機密を盗る。これをきっかけに行われた襲撃に責任を感じたミハルは、カイとともにガンヘリーで出撃。敵を撃退するが爆風を受けて洋上に散った。遂にその存在を知らなかった彼女の死を悲しむのは、カイたちひとりだった。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

ジルとミリー

■Notes ミハルの幼い弟と妹。ベルファストの街で3人で暮らしていた。誰がなにか知らないことをやっていることに気づきがついている。そのためか他人にはあまり心を開かない。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

デッシュ連絡機

■Notes 連邦軍の機密連絡機。レトーム状の機体には実際にレーダーが組み込まれており、連絡機として使用する他、海軍任務にも使用される。レビル将軍がベルファストへの機密に使用した。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

シーランス

■Notes マッド・アングラー艦隊の連絡用の小型高速艇。潜水艇から地上への上陸や海上での連絡任務などに使用される。一種の高速ボート。特にこれといった武器はない。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

IRELAND- THE ATLANTIC

◎アイルランド—大西洋





シーランス

マッド・アングラー

コン



フラナガン・ブーン

マリガン中尉

マッド・アングラー

■Notes マッド・アングラー隊にキシリヤに拾われて戦線復帰したシャアが、配備されたマッド・アングラー隊の旗艦。モビルアーマーも収納できる巨大な格納庫を有する。ジオン軍が艦内停泊して巨大船の大型融水庫で、魚のような外見をしている。魚雷なども搭載しているが、その巨大なパイロートを生かし、水中戦用モビルスーツの移動母艦としての働きが顕著だった

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

ユーコン

■Notes マッド・アングラー隊の潜水艦。マッド・アングラー1隻にに対し2隻が随伴。前部甲板部に対空ミサイル発射口を持ち、空中からの攻撃などに反撃する。モビルスーツは2体まで搭載が可能。熱雷発射口も4門あり、マッド・アングラーの護衛役といったところか

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

コノリー

■Notes マッド・アングラー隊の士官のひとり。ブーンの副官。民間人に変装し、ベルファストに住む女スパイ（ミハル）と接触。以後密偵に就いて連絡係をつとめる。豪快な豪傑型のブーンの補佐役という役回り

First Appearance 機動戦士ガンダム 第23話

フラナガン・ブーン

■Notes マッド・アングラー隊におけるシャアの部下でユーコン艦長。密偵に見えるが、ホワイトベースに侵入するために密偵するなど、なかなか器の程がよいところを見せる。マッド・アングラー隊における実働的なシャアの補佐役。ホワイトベースに部下をやらせ、ミハルからの情報も回収後その無碍のために自ら水中用モビルアーマー「グラブロー」に乗って出撃。水中でのガンダムとの死闘の結果、コクピットをビームサーベルで貫かれて死亡した

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話

キャリオカ

■Notes マッド・アングラー隊所属の軍醫。ブーンとともに商業組合員に密着してホワイトベースに潜入した。シャアはキシリヤ配下に降参して以降、こうした「船中からの攻め」を多用するようになっていくが、これはキシリヤの配下に野戦組織が存在しているためである

First Appearance 機動戦士ガンダム 第28話

マリガン中尉

■Notes マッド・アングラー隊のシャアの副官。エースパイロットであるシャアに憧れる新任士官。後の悲劇的な部下だが、その山人精神なげなところがある

First Appearance 機動戦士ガンダム 第26話



スゴック

ファンファン

■ 連邦軍シャブロー基地内で使用されるホークラト。誘導ミサイルと機銃を装備しているが、基地防衛用の配備といえる。地下の広大な鍾乳洞内につくられたシャブロー基地の特徴に応じた移動手段として、側面が大きいと思われるホークラトとはいっても、現実的に言えば「フター」に近いもので、かなりの速度で上昇して移動が可能。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第29話

ゴッグ

■ 「オランダ」の水陸両用車とビル・メーサーの浮遊艇を融合し、門限超え機体の水への浮力を生かすことでこの水中をヒル・ワグ。現状は水中移動時の水の抵抗を軽減するためのもの。ゴッグの構造は、水面を覆って浮遊艇に接続して航行する。水陸両用車と併用し、水中での行動に特化した機体で、エンジン冷却を兼ねてある海水を吸い込んでおこなうことから、地上での活動時間もあまり長しとは言えず、機動性もそれほど高くない。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第29話

スゴック

■ 連邦軍の水陸両用車とビル・メーサーの浮遊艇を融合し、門限超え機体の水への浮力を生かすことでこの水中をヒル・ワグ。現状は水中移動時の水の抵抗を軽減するためのもの。ゴッグの構造は、水面を覆って浮遊艇に接続して航行する。水陸両用車と併用し、水中での行動に特化した機体で、エンジン冷却を兼ねてある海水を吸い込んでおこなうことから、地上での活動時間もあまり長しとは言えず、機動性もそれほど高くない。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第29話

グラブロ

■ オランダ水中用モーター艇と浮遊艇を融合し、門限超え機体の水への浮力を生かすことでこの水中をヒル・ワグ。現状は水中移動時の水の抵抗を軽減するためのもの。ゴッグの構造は、水面を覆って浮遊艇に接続して航行する。水陸両用車と併用し、水中での行動に特化した機体で、エンジン冷却を兼ねてある海水を吸い込んでおこなうことから、地上での活動時間もあまり長しとは言えず、機動性もそれほど高くない。

First Appearance 機動戦士ガンダム 第29話

JABURO

●ジャブロー

ボラスキニフ曹長

■Name: ジャア配下のマッド アングラーのト士官。ゾックのバイロッドで、ジャブローにおいてホワイトベースの航路が消えた地点を探査。隠された海軍艦ジャブロー基地への入り口を発見する。ジャブロー侵入作戦に随行してシャアのズゴックを操縦するが、戦時中にガンダムのビームライフルの会撃を受け死亡。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第29話



ボラスキニフ曹長

ゾック

■Name: ズグック (Zugug) No. 011, 012, 013

■Notes: 攻撃力に主眼を置いて開発されたジオンの水陸両用試作型モビルスーツ。メガ粒子砲を4門搭載し、分厚い装甲を有する(但し戦艦)装甲中、艦武器の影響で劣化する機動性を補うため、地上でのホバー移動を採用しているが、結果として運動性能の貧しい、やたらビジーな機体になってしまった。水中戦対応のモビルスーツとしても異様なやっこ船のような形態をしており、このテスト運用の結果と試作型の完成後徐々に戦場が宇宙へと移ったせいもあって、結局は量産されずに終わった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第29話



ゾック

ズゴック (シャア専用)

■Name: ズグック (Zugug) No. 011, 012, 013

■Notes: ザクIIは独自のチューニングアップを施していたといわれるシャアだが、ズゴックにはそうした過剰は残されていない。ところが実際に運用してみるとシャアの機体は、(他とはいかないまでもズバ抜けた高機動性を示し、バイロッドの技量を引き出す機体性能の違いを見せつけた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第29話

ズゴック (シャア専用)



アッガイ

■Name: ズグック (Zugug) No. 011, 012, 013

■Notes: 生産コストのかさむ水陸両用モビルスーツのなかで、生産性を重視してつくられた機体であるため、武装的にもっとも貧弱で、メガ粒子砲は1門、5連弾ミサイルランチャー 備わらない。そのため、バイロッドの能力次第で強くも弱くもなる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第29話

Mobile Suit Pilot List

◎モビルスーツの主要メカ・パイロット一覧

●=専用機、または自分で操縦したもの
●=代理で乗ったもの
(TVシリーズ1〜30話)

キャラクター	アムロ	カイ	ハヤト	リュウ	セイラ	シャア	ガダム	ガルマ	ランバール	黒い三連星	マクベ	コーカウサ	ボラスネコフ	フカザゲン
シャア	●				●									
アムロ	●	●	● (機体)											
ランバール	●		●	●										
セイラ				●	●									
ガルマ			●			●								
シャア						●								
ガダム							●							
ガルマ						●		●						
ランバール								●						
黒い三連星									●					
マクベ										●				
コーカウサ											●			
ボラスネコフ												●		
フカザゲン													●	

第21話「激闘は惜しみなく」

ラルの意志を継いだハモンが、ホワイトベースに戦いを挑んできた。兵器の不足からザクにマゼラ・トップの砲を持たせ、爆薬を積んだカーゴにギャロップのエンジンをつけるという決死の覚悟だ。独断に入れられていたアムロは、リウウの説得で出撃を許可されるが、カーゴとマゼラ・トップに挟まれ絶体絶命の危機を迎える。そこへコアファイターに乗ったリウウがマゼラ・トップに体当たりを加えて戦死。クルーたちは泣き崩れる。

第22話「マ・クベ包囲網を破れ!」

マ・クベ部隊との戦闘中にブライトが過労で倒れた。ホワイトベースはECM発露器とミノフスキー粒子射出口を破壊され、敵の探知に対してまったく無防備な状態に陥る。ドップの艦隊の襲来に、指揮に不慣れなミライはガンダムではなく、コア・ファイターでの出撃を指示。アムロは苦戦を強いられ、ホワイトベースは飛行不能の損傷を受ける。一方、マ・クベは連邦のエルラン中将とジュダックを抱き込み、スバイ活動を行っていた。

第23話「マチルダ救出作戦」

連邦のレベリル将軍は、マチルダに大破したホワイトベースへの補給及びガンダムの新パーツ輸送を命じる。しかし、それを知ったエルラン中将がマ・クベに通報したため、マチルダのミデア輸送隊は、グフに襲われる。輸送隊からのSOSに、コア・ファイターとガンバリアが発進。アムロはガンダムに空中換装するが、ド・ダイに乗ったグフに苦戦する。マチルダからGパーツを得て格段の機動力を増したガンダムで、ようやく敵を撃退する。

第24話「追撃!トリプル・ドム」

連邦軍ではレベリル将軍がオデッサ・デーの開始を早める指令を出し、キシリアはマ・クベのもとへ直属の兵士・無い三連星を派遣する。ホワイトベースの修理が進むなか、アムロを始めクルーたちは、マチルダとの交流に安らぎを見出していた。そこへ、無い三連星の探るドムが急襲してくる。アムロは三連星のチームプレイに翻弄されて苦戦。マチルダはホワイトベースを守るため、ミデア輸送機でドムに体当たりしていく。

第25話「オデッサの激戦」

マ・クベの偽物資運基地に攻撃をかけるオデッサ作戦が開始された。ホワイトベースには、基地の後方からの突入が命じられる。セイラとGアーマーの横らし運転に出たアムロは、ジオンの前線基地から飛び立つ連邦軍の小型連絡機ドラゴン・フライを発見。アムロはそれがエルラン中将のスバイ活動であることを突き止め、連邦軍の戦況を好転させる。マ・クベはミサイルを発射するが、アムロはガンダムで阻止、三連星のドムを破る。

STORY DIGI

第26話「復活のシャア」

ホワイトベースは北アイルランドの補給基地ベルファストのドックに入る。南米ジャブローに向かうまでの仮修理を行うのだが、ここにはシャア率いるマッド・アングラー隊が駐留し、偵察活動を行っていた。女スパイ・ミハルからホワイトベース出現の情報を得たシャアは、水陸両用のゴッグを差し向ける。アムロはガンダムで応戦するが、バルカン砲もハンマーも通じず苦戦。海中での戦闘でビームサーベルを使い、ようやく撃破する。

第27話「女スパイ潜入!」

ホワイトベースの連邦軍編入で、軍人になることを嫌ったカイは下船。声をかけてきたミハルにカイはスパイの疑いを持つが、戦争で両親をなくした境遇に同情、情報を渡してやる。ミハルからホワイトベースが右のエンジンを修理中との情報を得たシャアは、ゴッグとズゴックを出撃させ、攻撃中にミハルをホワイトベース艦内に潜り込ませる。一方、艦の危機を見ていられなくなったカイは、腰け戻って、ガンタンクを出動させる。

第28話「大西洋、血に染めて」

カイは艦内に潜入したミハルを自室にかくまう。一方、シオン軍のブーンが民間人を襲ってホワイトベースに救助を求めてきた。ミハルから艦の行き先が南米ジャブローと聞いたブーンはグラブプロでホワイトベースに攻撃を開始。アムロはガンダムで発進するが、けた違いのパワーに苦戦する。ミハルは自分のしたことに責任を感じ、カイとガンバリーで出撃。グラブプロを破壊するが、ミサイル発射時の衝撃で大西洋に振り落とされる。

第29話「ジャブローに敵る!」

ホワイトベースは南米の地球連邦軍本部ジャブローに到着、ウッディ大尉に出迎えられる。彼は亡きマチルダの婚約者で、ホワイトベースには逆々ならぬ愛着を持っていた。一方、後を追ってきたシャアは、北米キャルホルニア基地の援軍を得て、ズゴックでホワイトベースのドック近くへ侵入する。ウッディ大尉はホワイトベースを守るため、アムロの制止を振り切り、ホバークラフトでズゴックに挑んでいくが、戦死してしまう。

第30話「小さな防衛線」

ホワイトベースが正式に連邦軍に編入され、ブライトは中尉、アムロは曹長の階級を与えられる。一方、カツ、レツ、キッカは育児センターに預けられることになるが、皆との別れが辛く、センターから脱走。ガンダムの重慶タイプ・ジムの工場で破壊活動を行っていたシオンの工作員に捕らえられる。三人は自力で脱出し、時間爆弾を回収。子供たちを採しにきていたセイラは、逃げる途中のシャアと出会い、軍から身を引けと言われる。

ST #21~30

The 08th MS TEAM

●第08MS小队関連

■局地戦時、機動戦士ガンダム 第08MS小队

■地球上でのジオンと連邦の戦いが最高潮に達し、徐々に地球圏からのジオン戦力の撤退が決定的なものに見えしめた時期。コロニー出身の連邦軍士官シロー・アマダ少尉は地球のモビルスーツ部隊への配属を申し渡され、生まれてはじめて立つ地球への期待に身を震わせていた。おそらくホワイトベースのジャブロー入港前後と思われる時期の東南アジア戦線に配属された連邦の試作モビルスーツ部隊の開始。シムの前線配備から連邦の大反攻がはじまった時期の前線の空気がよくわかる。

シロー・アマダ

■Notes 連邦軍少尉 東南アジア戦線に派遣されたコジマ少佐指揮する大隊における第08MS小队の小隊長。コロニー出身だが、そのモビルスーツパイロットとしての適性を貫かれ、新任士官として地球の前線に送られる。同僚を大量殺害したジオンを激しく憎むが、地球主戦者でもあり、地球への移動中に起こったシオンとの戦いでシオンのMSパイロット、アイナ・ワハリンと接触し、これを殺さなかったことをきっかけに次第に戦争自体の悪さを感じていくようになる。前線では試験的に配備されたガンダムタイプのモビルスーツ部隊を指揮するが、その過程でジオンの試作型モビルアーマー「アブサラス」と因縁めいた数度の戦いを起こさうとなり、一度はこれを撃破、消息不明となるものの帰還。しかし、この時の行動の不透明さから軍上層部にスパイの嫌疑をかけられている。アブサラス最終型との戦戦において敵機の爆発に巻き込まれ生死不明となった。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第1話

ガンダムEz-8

■Height 12m Weight 53.5t

■Notes 戦前で大活躍したシロー・アマダの乗る陸戦型ガンダムを、前線に間に合わせられる部品を使って動かせるような形に改修した、といった機体。このため、この機体は独自に開発されたのではなく、前線での運用バリエーションというべきものである。もっとも、局地には試作機であった同モビルスーツのデータの蓄積があったため、機体そのものは若干のチューンナップがなされている側面があったらしく、固定武装は減ったが装甲と運動性はむしろ強化されていた指揮官機として運用機能も強化され、これらの実験的な機体特性は戦争後期の前線でのモビルスーツ開発に引き継がれた。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第3話P.2



シロー・アマダ



ガンダムEz-8



アブサラス完成型

ギニアス・サハリン

アイナ・サハリン

アブサラス

■Notes ジオンの技術士ギニアス・サハリン博士が開発した長距離巡航戦闘型の巨大モビルアーマー。大出力のミノスキークラフトと大型メカ粒子砲を有し、高度を巡航してジャブローの連邦軍本部を直接攻撃する、という戦術プランが同博士により提出されていた。東南アジアの秘密基地で開発がすすめられていたが、そのあまりに巨大な機体の安定性を維持するのが難しく、またテスト中に連邦の部隊と衝突して試作機を奪われたこともあって、ジオン上層部ではこのプランへの疑念が高まり、地球圏からの戦力撤退の決定と同時に開発プラン自体の価値も否定された。しかし、これを不服とするサハリン博士によって開発は強行され、同基地への連邦軍の最終侵襲の間に最終形態のものが出撃。激しい戦闘ののち、基地は壊滅、この機体も大破した。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08

MS小隊 第4話（初登場）、同第10話（最終型）

ギニアス・サハリン

■Notes 「アブサラス」プロジェクトの開発責任者。ジオン軍少将でもあり、プロジェクト実行のための拠点として東南アジア基地の基地司令を兼任していた。ジオンの名門サハリン家の嫡子であり、そのためのプライドと責任に幼少期から厳格な自分の身体に強いコンプレックスを持っている。「アブサラス」によるジャブロー本部侵襲でもたらされるジオンの勝利を自らの力の象徴として捉え、「アブサラス」完成に異様な執念を燃やす。このため開発プロジェクトの予算が決定されても開発を強行。基地兵力の地球進出や友軍の支援要請もすべて無視して、この機体の開発に集中し、基地防衛のために部下に無謀な戦術を強いるなど、彼の行動は強く批判されている。現在の戦術研究においてはこのプロジェクト自体が多分に空想的なものとなる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08

MS小隊 第1話

アイナ・サハリン

■Notes シン軍の試作モビルアーマー「アブサラス」のテストパイロット。開発者であるサハリン博士の実妹であり、名門サハリン家の令嬢。パイロットとして高機動戦闘に高い適性を示したため、この任務に選ばれた。地球での「アブサラス」の実験テストに先駆け、宇宙でおこなっていた高機動型ザクによるデータ収集時に連邦の兵員輸送船と接触。戦闘となり、連邦のハイコロッド、シロー・アマダと出会う。この出会いでシローと心を通わせた彼女はちに「アブサラス」テスト中にシローと再会。このときふたりはお互いの気持ちを確認し、それぞれで兄の横取り人形として生きてきた彼女ははじめて自分自身の意志を持つ。彼女は「アブサラス」の完成に盲信を誓うが、地球での戦況の状況から基地の兵士を救出させることを要求するが、兄の行動によりこの努力が永遠に薄し、その後の最終戦で爆発に巻き込まれ生死不明となる。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08

MS小隊 第1話

The 08th MS TEAM

◎第08MS小队関連

カレン・ジョシュワ

■Notes 連邦軍東南アジア方面軍コジマ少佐直轄大隊所属。第08小队付き副官。地帯に派遣されたシローにつけられた副官で階級は曹長。ギリシヤなども経験してきた地上での戦闘のプロ。元隊長担当官だったらしいが、軍医だった夫を戦死により夫い戦死傷へと転向。実戦部隊での前線勤務が長いため、新入士官シローの采配に不安を持っているが、責任感が強いため飽くまでフォロー役に徹する。男まさりの性格で過去の経験からシニカルな行動も多いが、シローの理想主義的な行動を「甘い」と断じながらも、その有言実行で献身的な行動に次第に感服感を強めていく。小隊では三機のガンダム陸戦型のうち一機のパイロットを務めている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第1話

陸戦型ガンダム

■Height 18m Weight 52.8t

■Notes サイド7で実験テストのおこなわれた「ガンダム」試作時につくられたパーツを用い、実験的に少数量産された地上戦闘用のモビルスーツ。正式量産型「ジム」の実験段階に向けての実験テスト用的な色合いの濃い機体であり、試作型「ガンダム」ほどの高出力エンジンとは搭載しておらず、試作型とは外観は似ているが中身は別もの、という機体になっている。このため、オプション武装も機関銃やキャノン砲、ロケットランチャーやミサイルランチャーといった実戦兵器がほとんどで、高出力なビーム兵器はほとんどない。他に固定武装として胸部にバルカンを、腕部にビームサーベルを搭載。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第1話

テリー・サンダースJr.

■Notes コジマ少佐配属時にシローにつけられた部下のひとり。有能なモビルスーツパイロット。地球への移住時の騒動でシローにより命を奪われたため、恨みに対して深い原傷を感じ、心算している。これまでの戦闘で彼の配属された部隊は常に3回目の戦闘で「彼をのぞいて」全滅しているため「死神」というあだ名で呼ばれており、復讐者。この事実が深いトラウマになっていた。このため8小隊での3回目の出撃を拒否しようとするが、これを乗り切ることで仲間へのより強い信頼と絆を築ることになった。階級は曹長。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第1話

エレド・マシス

カレン・ジョシュワ

カレン・ジョシュワ

テリー・サンダースJr.

エレドア・マシス

■Notes コジマ大塚配属時にシローにつけられた部下のひとり。陸路は佐長。もともとは軍医になどなりたくなかったミュージシャン志望の男で、ナンバは外見通り性格である。8小隊ではおもにナビゲーターとしてその鋭敏な耳を生かして敵艦を担当、マイクで拾った音とソナーから敵機の位置はもちろん敵の機体の機体まで正確にいいあてて有給さを見せる。作戦した曲が買われて高評価され、有楽天になったところを敵に捕縛される。という事件もあった。しつは整所恐怖症で、このためにMSに乗れない

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ホバートラック

■Notes 連邦軍が地上でのモビルスーツの指揮、戦況支援用に開発した特殊戦術車両。固定武装としてバルカン砲一門を有するが、戦闘用というよりはあくまでMS戦時のサポートをおこなう車両。バッシブソナーによる敵位置の特定、戦闘時の通信サポート、小隊指揮などをおこなう。基本的に連邦初期の地上用モビルスーツ部隊の小隊編成としてはMS3機とこの車両1台で1小隊を構成する。本来はトライバート1、コマンダー1、ナビゲーター1、コマンダー1、の4名で運用するものだが、現実には前編での人員不足でこれ以下の人数で運用がほとんどだった。実際に8小隊では車両要員はエレドアとミケルの2名のみ。エレドア負傷時に人員の補充はなくミケル1名で運用された

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ミケル・ニノリッチ

■Notes コジマ大塚配属時にシローにつけられた部下のひとり。南組は佐長。この部隊での戦後が初戦となる新兵で、移送時の経験からサンダーズ同様シローに心酔している。生地に恋人がおり、常に彼女からの手紙を読んでいる。常に彼女との気持ちか離れていくことに悩み、それが原因でシローと衝突する。モビルスーツ・パイロットになることに強い憧れを持っているが、小隊での担当はおもに指揮車の運転および砲撃

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ホバートラック

機動戦士ガンダム

The 08th MS TEAM

●第08MS小隊関連

ロブとサリー

■Notes コジマ大群衆の第7小隊のモビルスーツ・パイロット（こちらの使用機種は「戦艦用ジム」） 理想主義のシローを笑い、常に8小隊にチョッカイをかけてくる。サンダーズを「死神」と敬慕し、このためシロー、サンダーズと殴りあひとなった 東南アジア高地戦で軍上層に捨てゴマにされ、戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第1話

キキ・ロジータ

■Notes コジマ大群衆地帯に存在するシオン占領軍に対するゲリラが集う村の長の娘。戦争に巻き込まれた。という意図から軍人全般を嫌っていたが、村を救ってくれたシローに強い恋心を抱く。以後ひたすらシローをつけまわし、ゲリラたちの先鋒に立っておりは嫌だが、村の子供たちを気づかう一面もある。いつもシローに子供扱いされている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第2話

バレスト・ロジータ

■Notes コジマ大群衆地帯近くのゲリラ村の長 戦線に巻き込まれて妻と両足を失ったらしく、このことを原因に娘のキキは軍人を恨んでいる。身体の手当てを感ぜさせないカリスマの持ち主で、ゲリラたちを完全に掌握しているが、村に侵入してきたシオンの戦艦兵との衝突的な戦いで命を落とす。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第2話

量産型ガンタンク

■R-131 19th MS Unit 261

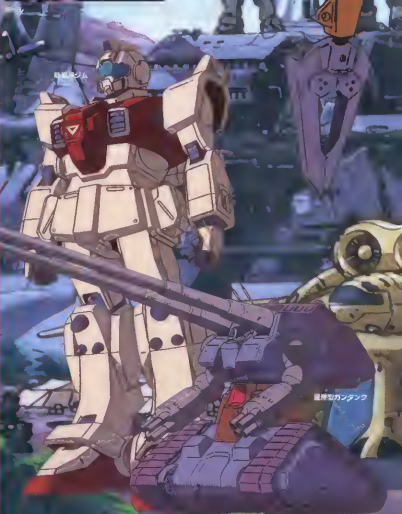
■Notes ホワイトベース搭載の試作型をベースに地上での後方支援用に少数生産されたガンタンクの量産型。コアブロックシステムを廃し、キャノン砲の装弾数や砲弾装薬を改善し、攻撃力を強化している。その代わり機能的には普通の戦車と変わりなくなるともいえる。

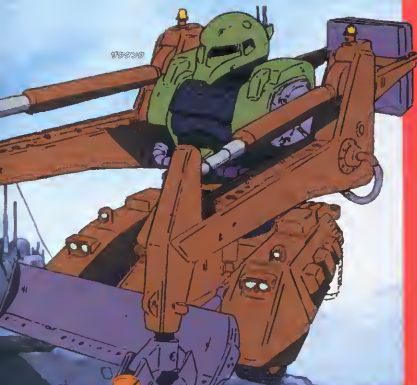
First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小队 第10話

アリス・ミラー

■Notes 連邦軍情報士官。回収されたシオンの新型モビルスーツに関する情報を収集するためにコジマ大群を訪れ、これに関してシローを尋ねる。かつて情をかけた敵から殺された経緯を持ち、シローのかかげる理想論を正面から否定する。

First Appearance: 劇場版 機動戦士ガンダム 第08MS小队：ミラース・リボー





975-7203

コジマ少佐

■Notes 連邦の東南アジア方面派遣軍。大隊指揮官。連邦軍本部の命令で試験的に投入された初のモビルスーツ実戦部隊を指揮する。前例のない部隊の運営の難関に加え、上層部の非人道的な要求と最悪状況の8小隊の行動の間に挟まれ苦悩する中間管理職。無愛想で高圧的にも見えるが、部下の安全を思いやる一面も持つ。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ジダン・ニッカード

■Notes 大隊の兵站部隊長。大隊内の補給責任者で階級は中尉。大隊内でバクチ増を経営したり、期内的で文書を偽造するなどのこづかい振りに余念のないまるで食えないいさんだか、シローの純粋さに好感を持っており、8小隊が無断出撃に及ぼうとした際に命令書を偽造してやるなど、面白いのいい面も見受け。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ボール

■Height 1.8m Weight 1.7t

■Notes 連邦軍が使用する宇宙作業用ボッドに搭載されただけの、宇宙戦用の一種の移動型。「モビルボッド」なる名称で呼ばれることにもある。モビルスーツへの過激的な悪意の具現で「ジム」の実戦投入後も後方支援用に大量に動員された。これは機内防衛艦のパリエーションタイプ

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ジム陸戦型

■Height 1.8m Weight 5.5t

■Notes 量産型「ジム」に先行して陸戦型「ガンダム」をベースに先行生産された一種の試作型「ジム」。機能を地上用に限定している他、ベースとなった機体同様、若干実戦記憶されたものよりもエンジン出力が劣り、オプション装備はロケットランチャー、機関銃、ミサイルランチャーなどの実体弾兵器中心になっている。固定武装としてはシームサーベルを持つ

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第1話

ザクタンク

■Notes 破壊したザクとマゼラ・ヘース（マゼラアタック下部）を使って創設で作成された作業用モビルスーツ「タンク」とはいいても、戦闘用のものというよりは作業用整備であり、おもに大規模したモビルスーツの戦場からの回収作業や基地内での建設作業などに利用されていた。シロによって占領された村から脱出するために派遣となったエドアとミゲルが使用

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第5話



キラー・コジマ

ジダン・ニッカード

アリス・ミラー

The 08th MS TEAM

◎第08MS小隊関連

ノリス・バックカード

■Notes シオン軍照南アジア方面基地付きの試官、降参は大佐。代々サハリン家の侍従武官としての家柄で、早くに亡くなったサハリン家元代当主にかわりギニアズやアイナを後見してきた岳父にあたる人物。サハリン家に対する主従の礼は一貫して熱さないが、兄妹に対しては特別な愛情を持って見守る。モビルスーツ・パイロットとしてもエース級の戦を持っており、グフ1機で8小隊とガンタンク3機を手玉にとって見せた。ガンタンクを全機破壊するかわりにシローのガンダムの手にかかり戦死。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第3話

グフ・カスタム

■Height 18.5m Weight 58.5t

■Notes 地上での白兵戦用のモビルスーツとして開発、重砲されたグフの白兵戦能力を極限まで高めるために運動性、武装をフルチューンした機体。弱点であった連動機からの射撃用装薬がないことをシールドにガトリングガンを取り付けることで解消。ヒート剣、ヒートロッドなどを使いやすくするために右手のマシンガン内蔵もオミットし、外づけになっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第10話

ザンジバル(ケルゲレン)

■Notes アイナが兄を襲撃して用事させた地球脱出用の戦艦「ザンババル」タイプはジオンの戦艦としては初の大気圏突入能力を持った宇宙艦であり、打ち上げ用増速ブースターを装備することにより軌道上への打ち上げも可能。モビルスーツなどの搭載能力も申し分なく、シオンにおけるホワイトベース型宇宙空母の対抗艦隊であるといえる。このため、アイナは基地内の兵士のジオン勢力圏への逃亡用にと無闇し、ユリもこの艦での撤退をめぐって部下と共にアジアへと向かったのだ。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第8話

グフ飛行試験型

■Notes ドムの市バリンクシステムのベースとなった市バリンクシステムの機体を改修し、ミノフスキークラフトを内蔵して短時間の飛行を可能にした実験機。ミノフスキークラフトの小型化が困難かつ高価だったため、何度の実験失敗を繰り返したのち、ごく少数が生産され、そのうちの一部がモビルスーツの不足する部隊に配り出された。

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08MS小隊 第9話





アツガイ

■Height 18.3m Weight 91.6t

■Notes 水陸両用モビルスーツとしては最弱のものにもっとも真逆な機体。生産コストのかきむ水陸両用モビルスーツの中でもっとも生産性を重視してつくられた機体だが、そのぶん余地のあるエンジン出力からくる低い機動性を否かした使い方ができないといつものになっている。そのかわりパイロットの熟練度によっては思わぬ強さを発揮するわけだが

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08M

S小隊 第29話

ザク（陸戦型）

■Height 7.5m Weight 5.6t

■Notes ジオン軍の主力モビルスーツであり、モビルスーツの汎用化第一号機として知られる機体。戦場の舞台が地球上に移るにしたがい、そこでの戦場で得た情報をフィードバックして、ザクを地上戦用にチューンナップしていった。こうして作られた地上型ザクは気密性の保持を放棄し、排気や発熱の問題を考慮して部分的に両足設計がなされている。もっとも、外観上は通常のザクと差はない

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08M

S小隊 第1話

ドム

■Height 18.5m Weight 43.8t

■Notes グフに続くシオンの新型モビルスーツ。一機のパワーアップを行なおうとすることで地上での集装、高機動を実現した画期的な機体。固定武装としては胸部にセットされた拡散ビーム砲（低出力で攻撃用というよりは差別用のもの）および膝中にセットされたヒート剣。オプション武装としてはジャイアントバズが用いられているが、前編ではザクのマシンガンをもそのまま使用したなどともあったようだ

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08M

S小隊 第24話

ユーリ・ケラーネ

■Notes ジオン軍ヨーロッパ方面軍への師団として派遣された武官。年齢は少尉。サハリン兄妹の幼馴染みだが、豪放で悪人気質の人物で、神経質なギニアスとはあまりソリが合わない。ジオンのオデッサでの戦いで宇宙への脱逃のために東南アジア基地へと向かうが、ギニアスの翼にかかり爆死

First Appearance: 機動戦士ガンダム 第08M

S小隊 第4話

第1話「二人だけの戦争」

シロー・アマダ少尉は、サイド2から管任地の地球に向かう輸送船の中にいた。しかし、初めて見る美しい地球の感動も束の間、ジオン軍との戦闘が始まった。シローは苦戦するジムの救援に無謀にもボールで出撃。ザクと相討ちを果たすが、敵パイロット共々、宇宙に漂う焼艦に流される。酸素の残量は2時間。シローは負傷したザクの女性パイロット、アイナを助けながら何とか生還する方法を探す。二人には敵味方を超えた愛情が芽生える。

第2話「密林のガンダム」

第8小隊に管任したシローに、第2小隊を支援せよとの出撃命令が下る。隊長としての指揮振りを示さねばと気負うシローだが、宇宙とは勝手が違い、ガンダムの操縦が思うに任せない。部下のカレンから脱前をけなされてカッとしたシローは、敵を追い込むうち、連邦の防衛圏外に出てしまう。そこはゲリラの拠点でシローはキキという娘と出会う。一方アイナはジオンの新モビルアーマー、アプサラスを開発中の兄ギニアスの出迎えを受ける。

第3話「信頼への献身時間」

第8小隊に丘陵地帯の村を占拠したジオン軍の排除命令が下った。シローは敵のトーチカをカレン、サンダースと挟撃する作戦を取り、背後からの奇襲を受け持つ。しかしシローが迂回してたどり着いた地域はゲリラのバレストが支配する土地。押さえられたシローに約束した攻撃時間が刻一刻と迫る。早く脱出しなければ! シローはバレストとその娘キキにジオンから占拠された村を解放すると約束。ゲリラの協力を得て、作戦を成功させる。

第4話「願上の悪魔」

西部エリアでの作戦行動中、サンダース軍曹が8小隊からの転出要請を言い出た。彼が所属してきた部隊が、死神に見入られたようにことごとく全滅したのを気にしてのことだ。シローはそんなジックスは8小隊で吹き飛ばすと約束するが、そこへ突如、テスト飛行中のアプサラスが出現する。パイロットはアイナ。サンダースは自分が死神でないことを証明するかのようアプサラスに攻撃をしかけ、シローとカレンの援護でこれを退ける。

第5話「破られた待機命令」

ジオンの新兵器アプサラスの存在は連邦に衝撃を与え、シローたちは情報収集に明け暮れていた。そんな中、待機中のエドアとミケルが遊びに出かけた村でジオン軍に捕らわれたとの知らせが飛び込んでくる。アプサラスの修理で、ジオン軍がその村を一時占拠していたのだ。救出に向かうシロー、カレン。監視のすきを突いて脱出に成功したエドアとミケルはジオンの装甲車を奪って逃走。エドアは重傷を負うがカレンの介抱に救われる。

第6話「熱砂戦線」

第8小隊はアプサラスの射撃場と推定される砂漠地帯にたどり着いた。だが、負傷して野戦病院に入院したエドアに代わってホバートラックを操縦するミケルは、恋人8日からの別れの手紙に作戦どころではなかった。案内役で来たキキを冷たく追い返そうとするシロ

STORY DIGEST

一に、女性の気持ちを分かっているという点で激昂する。シローの命令でホバートラックの操縦をサンダースと交代させられたミケルはガンダムに搭乗。そこへアプサラスが出現する。

第7話「再会」

ジオンの射撃場でアプサラスと遭遇したシローは、ミケルを救うためにガンダムで体当たりする。アプサラスにしがみついたガンダムを振り払おうと警告を発するアイナ。殺し合いを免れ、思わぬ場所で見会った二人だったが、行く手には冬のミラヤマ峠が立ちどかっている。力を合わせて生き残った二人は互いの愛を確認し、戦争の無意味さを悟る。そのころ連邦軍はオデッサ作戦に勝利し、地球でのジオン軍の敗北は明らかになった。

第8話「軍務と理想」

生還したシローには軍の厳しい訓練が待ち受けていた。ジオンのスパイ容疑がかけられていたのだ。同じころ、アイナも兄のギニアスからシローと二人でいる写真を突きつけられ、関係を詰問されていた。シローは誤解を言い渡されるが、そんな時、キキの村がジオンに襲撃されたとの情報が入ってきた。第8小隊はキキたちがグリラの意に騙されるため、軍規違反を犯して出撃。キキの父バレストは不幸にも亡くなるが、シローたちは村を守り抜く。

第9話「最前線」

エレドアが復讐した第8小隊は、敵基地を特定する空挺作戦に出撃した。初めての空中戦に戸惑うカレン。ガウの集中砲火を浴びるカレンの救援に向かったシローは、殺戮を避けるため、ガウを盾だけに止める。サンダースはそんなシローにイーサン大佐から監視を命じられているのだと告白する。スパイの嫌疑が晴れていないことに愕然となるシロー。ジオンの基地ではアプサラスの開発中止命令を無視したギニアスがユーリ少将を抹殺する。

第10話「震える山（前編）」

ジオンのアプサラス基地に連邦の総攻撃が開始された。物量による猛攻の前に、アイナのケルゲレンは脱出ルートの確保に失敗。アイナの補代わりを務めてきたノリスは、突撃口を開くため、グフで捨て身の出撃を図る。カレンとサンダースは突如現われたノリスの戦いぶりに驚愕され、シローも絶体絶命の死地に陥る。だが、アイナの名を呼ぶシローにノリスは驚き、一瞬の隙が生じた。シローはノリスを倒した後、軍を抜ける決心をする。

第11話「震える山（後編）」

アプサラスは完成したが、それは多くの兵たちの犠牲を伴うものであった。アイナはそんなギニアスの執念を諒解し、傷病兵を運ぶケルゲレンだけは脱出させようと連邦軍一時休戦を申し出る。が、その行為を告げろようにギニアスはビームを発射。連邦指揮官イーサンは報復のためケルゲレンを撃墜する。アイナは狂ったギニアスによって銃で撃たれるが、シローに一瞬で救われる。シローはアイナと二人でアプサラスに最後の戦いを挑む。

Characters, Guests & Mechanisms

Check LIST

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	映画Ⅰ	映画Ⅱ
アムロ																																
ハヤト																																
カイ																																
リュウ																																
ブライト																																
ミライ																																
セイラ																																
フラウ																																
カツ、レツ																																
キッカ																																
ハロ																																
オスカ																																
マーカ																																
オムル																																
ジョブ・ジョン																																
タムラ																																
サンマロ																																
テム・レイ																																
バオロ																																
ワッケイン																																
リード																																
マチルダ																																
カマリア																																
レビル																																
エルラン																																
セキ																																
ミハル																																
ウッディ																																

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	映画Ⅰ	映画Ⅱ
シャア																																
ドレン																																
キレン																																
キシリア																																
トズル																																
ガルマ																																
デキン																																
デニムジーン																																
カデム																																
イセリナ																																
エッシャーバハ																																
ダロタ																																
ランバ・ラル																																
ハモン																																
クランブ																																
ワッパ隊																																
ドアン																																
コズン																																
タチ																																
マ・クヘ																																
ジュダック																																
黒い三連星																																
マリカン																																
ブーン																																
キャリオカ																																
コノリー																																
ウラガン																																

[illegible]

THE DESIGN WORKS OF GUNDAM

The First Part of The One Year War  0079-0080

RX-78-2 ガンダム

地球連邦軍が密かに開発を進めていた、近接戦闘に主眼を置いた汎用型のMS、開発前は、従来の宇宙戦艦艇による砲撃戦こそが、戦場の勝敗を決すると信じて疑わない軍上層部から予算の無駄遣い的な扱いを受けていたが、ルウム戦役等の戦いにおけるザクの驚異的な戦果を身を持って経験するに至って、最優先の開発が行われた

■DATA

頭高18.0m/本体重量43.4t/ジェネレーター出力1380W/スラスター総推力6660kg/装甲材質超合金ルナ・タタニウム/武装 固定:頭部バルカン×2、ビームサーベル(ビームジャベリン)×2(TV)、耐熱フィルム(TV)、耐熱フィールド(映画)武装 オプション:専用ビームライフル、ハイパーバズーカ、ガンダムシールド、ガンダムハンマー(TV)、ハイパーハンマー(TV)、スーパーナバーン



頭部

人間的な印象を持つガンダムの顔面。コストが高くなるため、後の量産型MSのGMでは簡略化された



シールド前面図



シールド



コクピットハッチ

頭部メンテナンスハッチ

レーザーや通信などの機材や、メイン及び後部カメラがまとめられた部屋。バルカンの弾薬は頭部から補給する



コクピットの移動概念図
コア・ファイターからコア・ブロックへの定数とともに、格闘専用30度回転する構造になっている

耐熱フィルム

実験機であるガンダムのために表面などの機材や、メイン及び後部カメラがまとめられた部屋。これによって全身を包むことにより、格闘で宇宙から地球上への降下を可能にした

ビームサーベル

両腕に2本装備されている。近衛
戦専用兵器。これらもまた知能の役
能では過剰なだけの装備で、ザク
のヒートホークとは比較にならない
破壊力を持っている



ハイパーバズーカ

ガンダムの主力射撃兵器のひとつ。特
にビームライフルは、過剰な威力で
て破壊に成功したもので、作戦では
メオン兵器を破壊させることになった



ビームライフル

ビームジャベリン

ガンダムハンマー

ハイパーハンマー

ビームサーベル基部

Aパーツ

コア・ブロック
ドッキング部

コア・ブロック

Bパーツの中

Bパーツ

コア・ブロック各種パターン

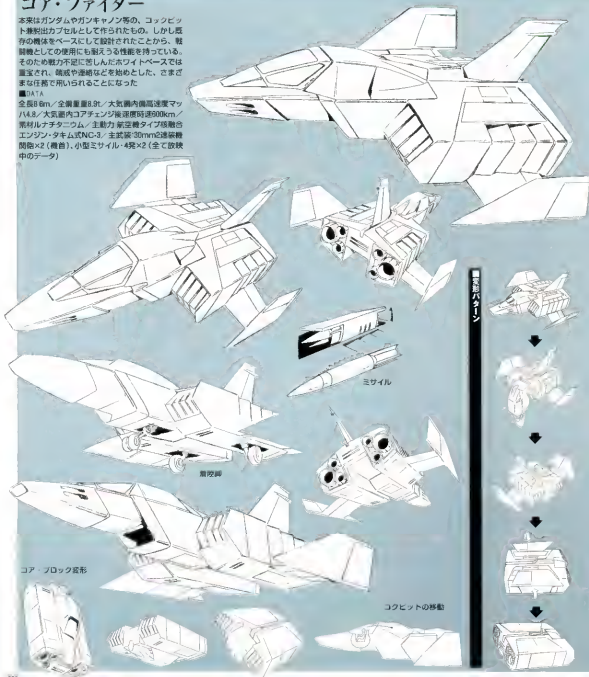


コア・ファイター

本来はガンダムやガンキャノン等の、コックピット兼出力バレルとして作られたもの。しかし既存の機体をベースにして設計されたことから、戦闘機としての使用にも耐えうる性能を持っている。そのため戦力不足に苦しんだホワイ特派では重宝され、陸威や連絡などを始めとした、さまざまな任務で用いられることになった

■DATA

全長8.6m/全備重量8.9t/大気圏内最高速度マッハ4.8/大気圏内コアチェンジ後速度時速900km/素材ルナチタニウム/主動力 航空機タイプ核融合エンジン・タキム式NC-3/主武装 30mm2連装機関砲×2(機首)、小型ミサイル・4発×2(全て放映中のデータ)



機首砲パターン





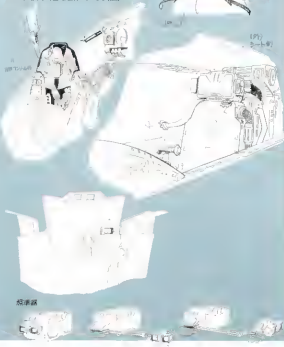
前面



後面



コクピット(各モビルスーツ共通)

ホワイトベース
内出撃パターン

シートベルト



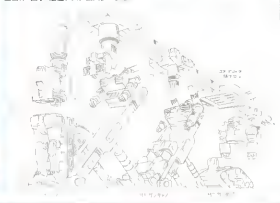
■合体・出撃・艦橋システムパターン1

コア・ファイター
艦橋システム

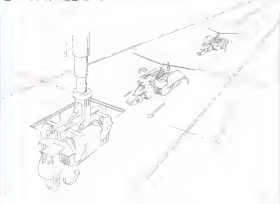
いろいろな状況に対応
するための、コア・フ
ロントを中心とした機
体システム。しかし機
体中の能力低下が著し
いため、必要に迫られ
たくなかった。



■合体・出撃・艦橋システムパターン2



■コア・ファイター艦橋パターン

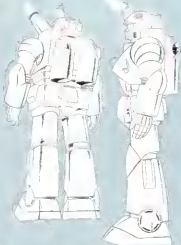


RX-77-2 ガンキャノン

下のガンタンクに続いて開発された、連邦軍の実験用MS。この段階にいたって、ようやく2足歩行に成功したと思われる。しかしまだ高い機動性能を持たずには至らなかったため、実体弾とビーム兵器の両方を備える、装甲の厚い中距離支援型機として完成することになった。とはいえ一部のパーツは、後のガンダムでそのまま用いられている

■DATA

頭頂高17.5m / 本体重量51.0t / ジェネレーター出力1380W / スラスター総推力51800kg / 装甲材質 鋼合金ルナ・チタニウム / 武装 固定・肩部バルカン×2、ビームサーベル×2、前部キャノン砲×2、オプション・専用ビームライフル、手榴弾（映画）、パイロット：カイ・シデン、バヤト・コバヤシ



スプレミサイルポッド



本編で用いられることはなかったが、オプション兵器。多連装ロケットランチャーのように、弾の射圧に耐えている

RX-75 ガンタンク

ジオンで人型兵器の開発が行われていることを通った連絡が、最初に作成した実用に耐えうる機体が、このガンタンクだ。だが2足歩行用の脚どころかナビゲレーターも備えていないため、長距離攻撃用の大口徑砲を持たせ、移動砲台的な運用をするのが唯一の目的であった。当初はパイロットと砲手の2名が必要だったが、後に改修された

■DATA

頭頂高15.0m / 本体重量58.0t / ジェネレーター出力878W / スラスター推力88000kg / 装甲材質 ルナ・チタニウム / 武装 固定・前部キャノン砲×2、オプション・腕部ポップミサイル×2、パイロット：リュウ・ホセイ、バヤト・コバヤシ



砲身



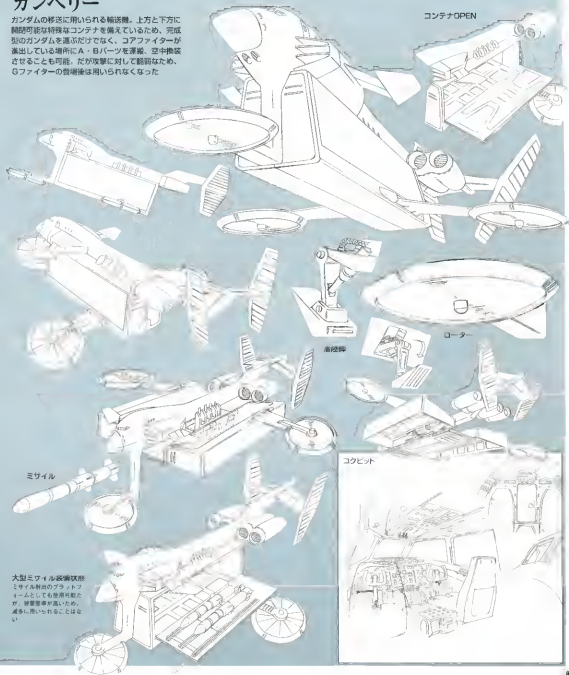
キャタピラ



ガンペリー

ガンダムの移送に用いられる輸送機。上方と下方に開閉可能な特殊なコンテナを備えているため、完成型のガンダムを運ぶだけでなく、コアファイターが突出している場所にA・Bパーツを運搬、空中換装させることも可能。だが攻撃に対して脆弱なため、Gファイターの登場後は用いられなくなった

コンテナOPEN



大型ミサイル發射機
ミサイル射出のプラットフォームとしても使用可能だが、装甲強度が高いため、滅多に用いられることはない

ホワイトベース

ガンダムを始めとした3機種のMSと同時に建造がすすめられた、連邦軍初のMSの運用を前提とした艦艇。この両者の開発を含めてV計画と呼ぶ。6機のMSとその支援兵器を積納できるが、従来の海洋艦並みの攻撃力も含む。さらには人工重力ブロックも備える万能艦である。同型艦が少数建造されたと思われるが、詳細は不明。

■DATA
全長202m／全幅202.5m／全高93m、質量3200t／推進システム 熱核ジェット・ロケット専用エンジンシステム×2／主力武器 580mm二連装主砲1門、二連装メガ粒子砲×2、前部・後部各ミサイルブロック、対空機銃砲18基

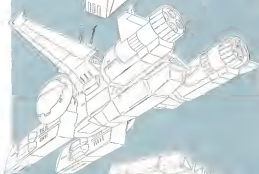


推進システム

同様に大型核融合エンジンと備えるほか、大規模内用のミノフスキー・クワッドも持つ



砲撃システム

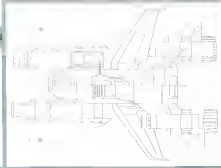


MS発進口

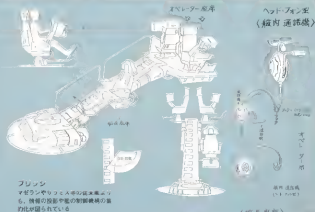
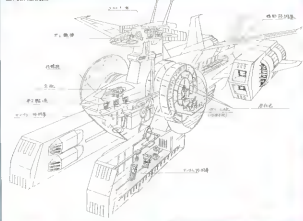
ソニック・連邦軍と同盟を結ぶ戦争時の艦艇でMS用の発進口を備えるのは、ホワイトベースのみ



主砲

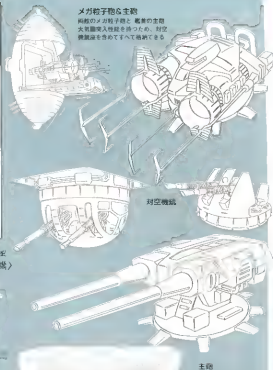


■内部透視図



メカ粒子胞&主胞

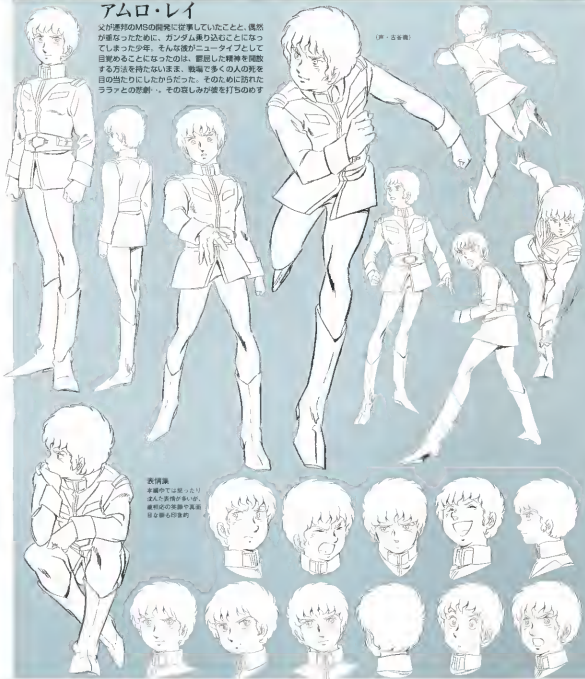
両粒のメカ粒子と、電荷の正副大気圏突入性能を持つため、対応機製造を含めてすべて納めこまる。



アムロ・レイ

父が連邦のMSの開発に従事していたことと、偶然が重なったために、ガンダム乗り込むことになってしまった少年。そんな彼がニュータイプとして目覚めることになったのは、鬱屈した精神を開放する方法を持たないまま、戦場で多くの人の死を目の当たりにしたからだ。そのために訪れたララァとの邂逅…。その哀しみが彼を打ちのめす

(声・古谷徹)



表情集
本編では驚いたり
元々表情が多いが、
最終父の死闘や真面目な顔も印象的

ノーマルスーツのアムロ



連邦軍ノーマルスーツ

これらはみな、俗にパイロットスーツと呼ばれる、運動性の高いタイプの宇宙服。ブリーチ參長などは、旧型を服用している

シートベルト装着時

座席席し、4点式のシートベルトで固定された状態。離着や軌は、シート側のコネクタから接続される

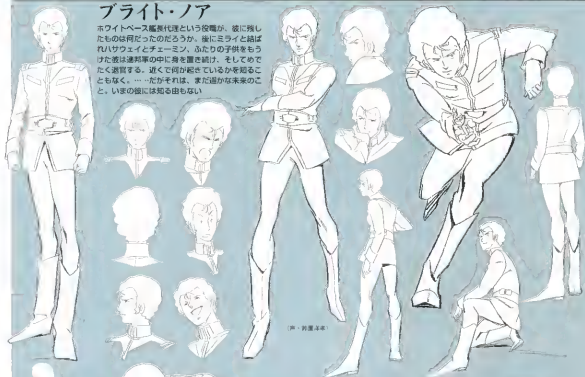


■主要人物身長対比図



ブライト・ノア

ホワイトベース艦長代理という役職が、彼に残したものは何だったのだろうか。座にミライと語ればバサウェイとチェーミン、ふたりの子供をもうけた彼は連判事の中に身を置き続け、そしてめでたく退官する。近くで何が起きているかを知ることもなく、……だがそれは、まだ遠かな未来のこと。いまの彼には知る由もない



（声・野澤幸三）

リュウ・ホセイ

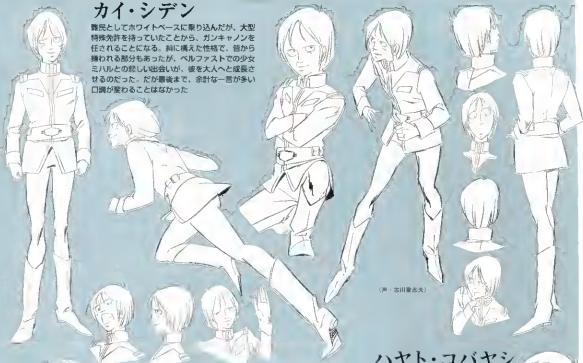
シャアの攻撃から生き延びた、連邦軍のパイロット候補生。ただし、シミュレーターを2回経験したことしかなかったため、アムロやカイの方が適性が高いと評価された時点で、彼はガンタンクやコア・ファイターのパイロットとして戦闘に参加することになった。人望があり、皆の精神的支柱となっていたが、艦を守るために死亡する



（声・飯塚昭三）

カイ・シデン

難民としてホワイトベースに乗り込んだが、大型特殊免許を持っていたことから、ガンキャノンを担当することになる。斜に構えた性格で、昔から機われる部分もあったが、ペルファストでの少女ミハルとの楽しい出会いが、彼を大人へと成長させるのだった。だが最後まで、余計な一言が多い口調が変わることはなかった



(声・宮川智恵)

ハヤト・コバヤシ

サイド7では、アムロやフラウの家の近所に住んでいた同級生で、ガンタンクのパイロット。それゆえ以前からアムロに対するライバル意識を抱いていたが、控え目な性格のためあまり顕著な態度を見せることはなかった。しかしアムロがニュータイプとして突進し始めるに至って自分の無力さを痛感、それをきっかけにして、フラウと親しむようになる



(声・鈴木達彦)

ミライ・ヤシマ

連邦政府の名門政治家ヤシマ家の娘。スペースグライダーの免許を保持していたため、ホワイトベースの操縦を担当する。戦争を望まず、和平交渉を推進していた父が戦火により死亡したため、いたたまれなくなってサイド7に移住していた。親が決めた婚約者がいたが、戦場での経験が、彼女にその男性との決別を決意させることになった



(声：日守新一)



セイラ・マス

ジオンの隠匿者。ジオン・ズム・ダイクンの娘。本名アルティシア・ソム・ダイクン。彼女の身に危険が及ぶことを恐れた父により、兄のキャスバルとともに地上で育てられた。戦争を隔っているが、兄が父の仇を討つために、シャアと名を変えてジオン軍に潜入していることを知り、そんな兄を止めるためにパイロットになる。

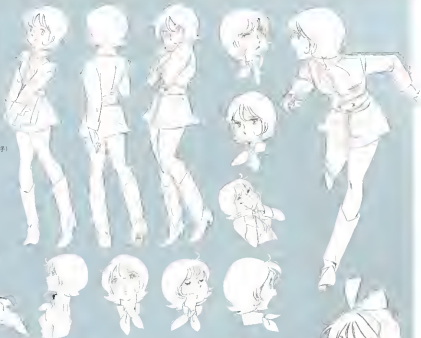


(声：井上喜久)

フラウ・ボウ

何かにつけて母が不在のアムロの世話を焼いていた。お嬢さん。それは初恋のようなものだったのだろうか。戦争に感染しない彼女は、艦の中でキッカたちの親代わりという位置を得ながらも、いつしか兵士に変わっていったアムロとの溝を深めていく。そんな彼女の心の機微を埋めてくれた人、それがイヤトだったのは、当然の成り行きだったのかも知れない

(声・藤原みず)



カツ、レッズ、キッカ

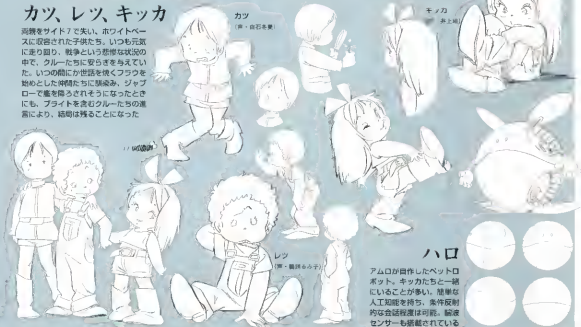
高機をサイド7で失い、ホワイトベースに収容された子供たち。いつも元気に走り回り、戦争という悲惨な状況の中で、クルーたちに安らぎを与えていた。いつの間にか世話を焼くフラウを始めとした仲間たちに馴染み、ジャブローで艦を降ろさるようになったときも、プライトを食むクルーたちの運営により、結局は残ることになった

カツ

(声・白石冬美)

キッカ

(声・井上靖)



1/100のスケール

レッズ

(声・藤原みず)

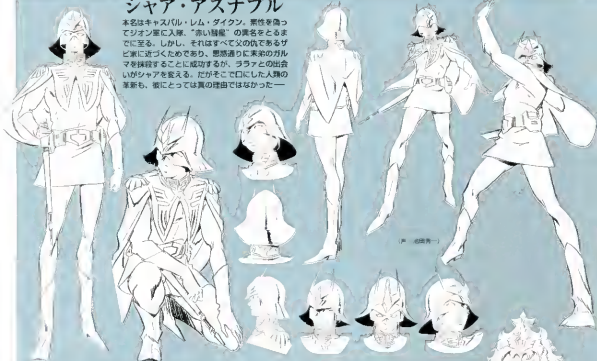
ハロ

アムロが自作したペットロボット。キッカたちと一緒にいることが多い。簡単な人工知能を持ち、条件反射的な会話処理は可能。脳波センサーも搭載されている



シャア・アズナブル

本名はキャスバル・レム・ダイクン。素性を隠してジオン軍に入隊、「赤い彗星」の異名をとるまでに至る。しかし、それはすべて父の仇であるザビ家に近づくためであり、思惑通りに東弟のガルマを排除することに成功するが、ララァとの出会いがシャアを変える。だがそこで口にした人類の革新も、彼にとっては真の理由ではなかった――



(声：森田秀一)

ガルマ・ザビ

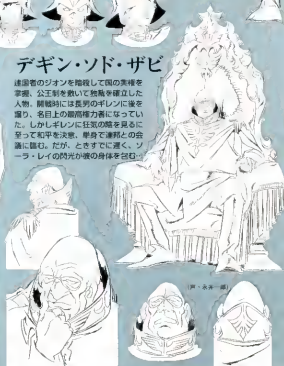
地球方面軍の指揮官をつとめる。ジオン公国を牛耳るザビ家の末弟。しかし母ゆずりなのか、父のデギン公王に可愛がられたためなのか、お坊ちゃん育ちでお人好しの一面があり、結果としてシャアの策謀によって社運な最期を遂げる。占領地ニューヨーク市の前市長の娘イゼルナと禁断の恋に落ち、その成婚のための手みやげとしてガンダムとホワイトベースを贈るなど、ロマンチストな青年でもある。髪を毛を指に結めるのがクセ。



(声：森田秀一)

デギン・ソド・ザビ

連合軍のジオンを陥れて国の実権を掌握、公王制を敷いて独裁を確立した人物。開戦時には長男のギレンに後を譲り、名目上の最高権力者になっていた。しかしギレンに狂気の顔を見るに至って和平を決定、単身で連邦との会談に臨む。だが、とくすでに遅く、ソーラ・レイの閃光が彼の身体を包む――



(声：森田秀一)

ギレン・ザビ

ジオン公國の実質的な最高権力者。増えすぎた人類は、優れた者によって支配されるべきだとの強硬思想を囑え、独立を名目にして連邦政府に対して戦端を開く。コロニーへの毒ガス注入や、コロニー落としなどは、まさにそんな彼だからこそ実現された作戦といえる



〔声・田中康〕

キシリア・ザビ

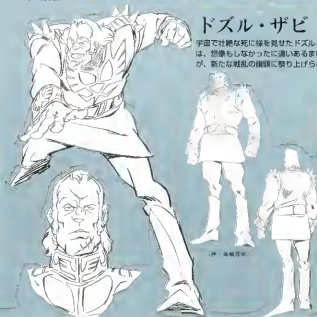
ザビ家の長女で公國のナンバー2の地位を持つ。月のグラナダを拠点にした突撃機動軍の指揮官。早くからニュータイプに目星するなど冷静な分析力を持つが、それはときに冷酷にすら見えるときがある。けれども戦場の奥いき様でフェイスマスクを用意しているなど、神経質な性格も含め持っている

〔声・小山まゆみ〕



ドズル・ザビ

宇宙で壮絶な死に様を見たドズル。だがそのときの彼は、想像もしなかったに違いあるまい。後に愛憎三兄弟が、新たな戦乱の旗頭に祭り上げられてしまうことなど



〔声・高橋秀実〕

■身長対比図



スペースコロニー・サイド7

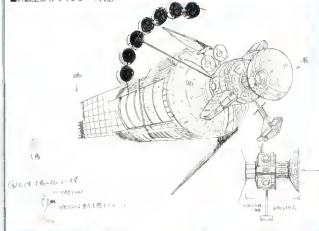
月の反対側へ位置するラグランジェ・ポイントに建設が進められていた。7番目のコロニー群。とはいえ、まだ建設が始まったばかりの段階で戦争が勃発したため、1基目の

コロニーの建造途中である。しかしそのために、ジオン軍の捕獲の攻撃から逃れることになり、ルナツーとあわせて連邦軍の宇宙での最後の拠点として用いられていた

ドッキングブロック透過図

コロニーの軌道線上に設置されているメインの平旋台。コロニー本体のように回転していないため、内部は重力が空知になっていない。上下2層構造になっており、それぞれ進入と空転に用いられる

■外観全図 (ドッキング・バリエーション)



■選抜カプセル入口



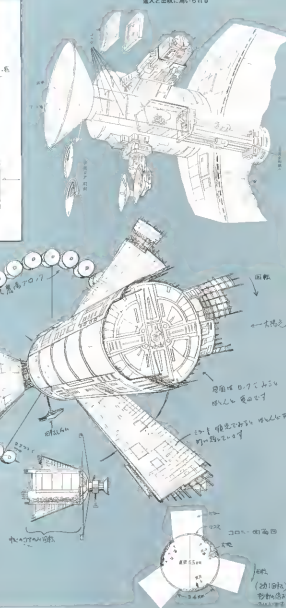
■住宅外観 (スタンダードタイプ)



中流クラスの車道に設置され、コロニー内の家屋。移住を願望に集めるため、かなりいいものを用意されていたと思われる

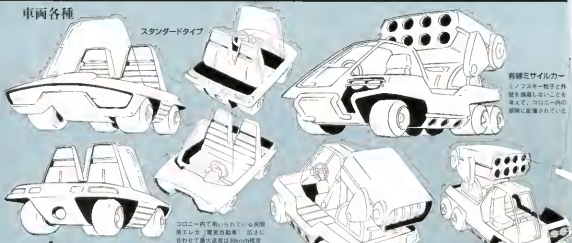
コロニー外観

典型的なオープン型を採用した。サイド7の第1号コロニー「11パンチ」は、人と食糧と食料への影響。という一帯の生活。は全員の神話が崩壊している。閉鎖時には完全に居住作業はストップしていたが、本来ならば外壁を作ったから、円形の居住区を築いていくという。セント工場のような手立てで作業が進められると思われる。最終的には、この規模のコロニー30~40基が、この空域に設置される予定だった



車両各種

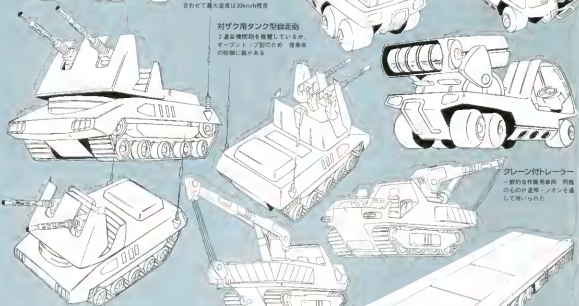
スタンダードタイプ



有線ミサイルカー
ミソフスキー戦士と外
壁を破壊しないことを
考えて、コロニー内の
部屋に設置されていた

コロニー内で用いられている民間
用エレカ（電気自動車） 広さ
に合わせて最大速度は30km/h程度

対ザク用タンク型自走砲
2連装機砲を搭載しているが、
オープントップのため 爆撃機
の攻撃に脆い



クレーン付トレーラー
一般的な作業用車両 同格
のものや星野、ノオンを過
して用いられた

広報車

シャアの攻撃から生き残
った人に、ホワイトヘー
スへの集合を呼びかける
ために使用された

造形車大型トレーラー

ガンダムの移送に用いられた、フラット
トップの特殊車両 内陸エンジン搭載

運転席



ジオン軍MS・MS-06ザク

電波をかく乱するミノフスキー粒子が散布され、レーダーが使用不能となった戦場では、有視界戦闘を前提とする白兵戦用兵器こそが勝敗を決する。そのことをいち早く見抜いたジオン軍が開発した、人型の機動兵器

DATA

頭頂高17.5m／本体重量56.2t／ジェネレーター出力970kw／スラスター推力43300kg／装甲材質超高強度鋼 武装 固定・なし、オプション・ザクマシンガン、ザクバズーカ、ヒートホーク

ジオン軍宇宙

ジオン軍宇宙艦隊の主力として用いられた、初のMSとの連携を前提にして開発された艦。3機のMSの運用が可能だが、ホワイトベースのような射出用のカタパルトは備えていない



シャア専用機

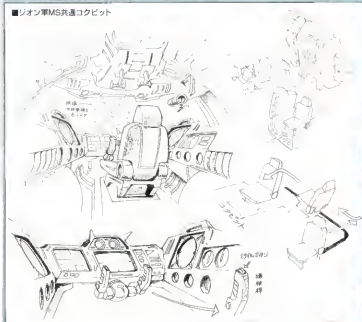


シャア専用機の顔



連邦軍機兵にとっては防物の設備に乏しかったア・バグだが、外観上は他の機兵機と異なっている

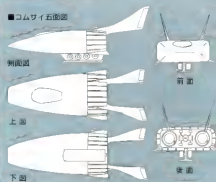
■ジオン軍MS共通コクピット



マシンガン



■コムサイ五面図



巡洋艦ムサイ

ムサイ形状の武装

非常に印象的な姿をしているが、これは正面への攻撃力を重視しつつ、敵機甲の低下を狙ったためと思われる。特に左側のコストの低下をはかった。機体が2段のタイプも見受けられた

シャア専用艦

機体トップが用いていたムサイだが、軍事的には艦橋の形状が異なるだけで、性格的には他のムサイと同一

ミサイル

ランドハッチの開き方

■ムサイ正面図

側面

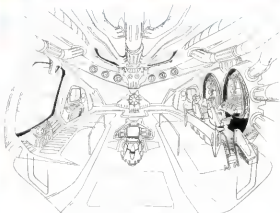
前面

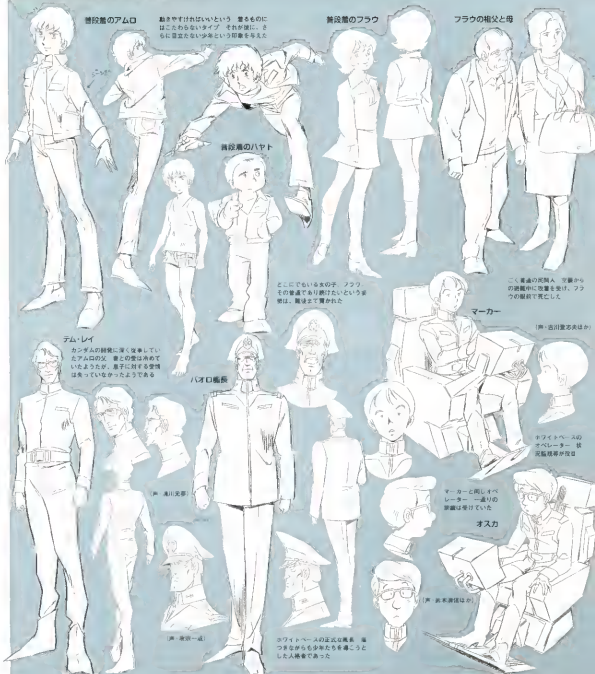
後面

脱出艇コムサイ

ムサイの艦橋内にある小空艇。脱出用兼 大気圏突入カプセルとして用いられる。ザクを2隻収容可能で、機体の地球降陸作戦でも活躍した

■ブリッジ内部

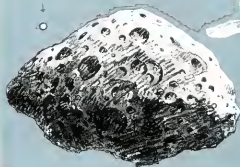




ルナツー

■基地の港の入り口

太陽
↓



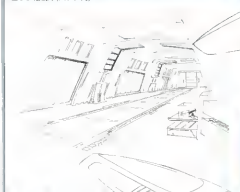
迎撃用対空砲台

サイト3から遠いところであり、連邦軍の宇宙基地に近づかれ、一点突破争奪の戦況の地には、サイト7と名付けて連邦の宇宙での唯一の拠点になっていた



ジオン軍・宇宙補給艦パプア

■ザク格納庫(パプア内)



戦艦を下部に備える独特な形状だが、これは当初のムサイで考案されたもの

東向ガムラギール配座の輸送艦、それでも西側に設置されたクラブを抱えることにより、同時に2軍のムサイに補給できる能力を持ったため、総動員で用いられた

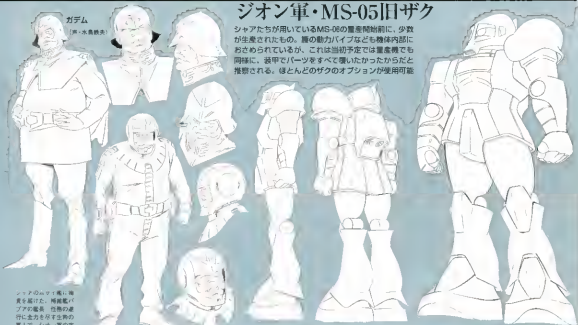
右側部
ボーディング
クラブ

ジオン軍・MS-05旧ザク

シャアたちが用いているMS-06の量産開始前に、少数が生産されたもの。肩の動力パイプなども機体内部におさめられているが、これは当初予定では量産機でも同様で、装甲でパーツをすべて覆いたかったからだと言われている。ほとんどのザクのオプションが使用可能

ガデム

(声・水島精夫)



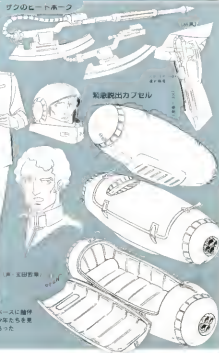
ゾウのムサシの戦い、戦況を悪化させた。何故かパイプの戦況、戦況の悪化に全力を尽くす生物の軍人で、ジオン軍の軍機にはこのような人材も多く見受けられた

フグイン

機体はマッセルの背やフロントセルが小さいのが目立つが、これはその全長の機体の操作性の小ささ、つまり機体の動きを示している

リード中尉

副官



熱Seekingカブセル

(声・玉田俊幸)

当時は、連中や軍人の代表のような人物として描かれていたが、しかし彼等が再登場したときには、それが軍人、軍人の真面目さから出たものだということを示していた

ルナー・イシカワ・ベースに降参したザクスの機長、少年たちを見下していたような顔もあった

(声・飯塚和正)

地球連邦軍・宇宙戦艦マゼラン

ミノフスキー粒子を用いた新たな戦術を實現し、艦載まで艦隊決戦が戦場の様相を決すると信じ込んでいた連邦軍宇宙艦隊の主力戦力。艦上部と両舷の3方向に艦橋を持ち、さまざまな角度からの攻撃に対応できる構造を採用していたが、MSの機動力の前には脆かった

■サラミスのブリッジ



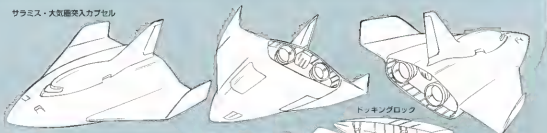
■マゼランのブリッジ



地球連邦軍 宇宙巡洋艦サラミス

3方向に艦橋を備えるなど、マゼランを小型化したともいえる戦闘艦。それだけ火力は劣るが、小さい分だけ使い勝手がよいらしく、その大多数が長期間に渡って使われ続けた

サラミス・大気圏突入カプセル



コムサイ同様、緊急時にのみ用いられる大気圏突入カプセル。ただし高度をがら、こちらにはMGの搭載能力はない

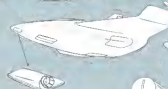


スペースランチ

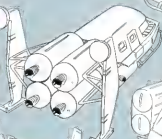


ゾドン巡航船

シャアのムサイに機動兵を支援してきた船。大量の燃料タンクを持つため航続距離が長い



ホワイトベースに搭載されている機動兵の内部。最上でも2隻あり、最終的に乗員の脱出にも使用されている

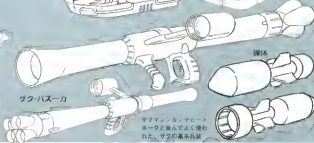


トリアーエスFF-4

機体ながら本編には登場しなかった、ムサシールに改造されている防空用宇宙戦闘機

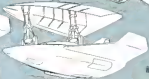


グク・バスコー



ザクマハンガンヤードホークと名入でよく使われた。ザクの基本兵器

ドッキングロック



前輪



後輪



スペースポート

左のスペースランチよりも、さらに小型で航続距離も短い機動艇。そのためキャビンには、座席もついていない



ババア対空機銃

ババアの艦隊の赤用にある固定用の機銃。旧型艦だけあって、これらの新艦もあめかしい



弾体



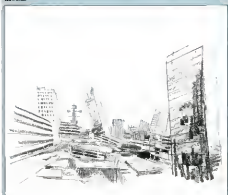
■ガルマの初面基地



■ガルマ基地 司令室ロビー



■虎造



■アストロドーム

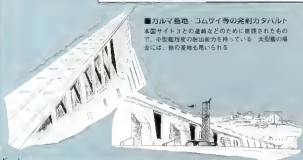


■セント・アンジェ詩



北米大陸に建設された
ジオン軍地球降下
部隊の据り所。ニュー
ゼーランド島からとほ
とと遠くない場所であら
うと推察される。ガウ
攻撃立寄や輸送部隊な
ど、多数の戦力を擁する

■ガルマ基地 コムケイ等の発射カタパルト
本館サイトとの連絡などのために置かれたもの
で、小気力性能の射出能力を持っている。大型艦の場合
には、他の基地も利用される





ガルマ前線基地 官邸

ガルマが金比呂島の町を
陥落としての戦後を行っ
ていた館で、地元有力者
を招いてのパーティー
も、ここで開催していた



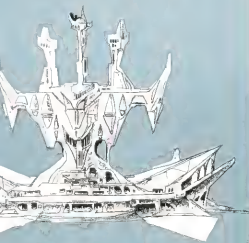
エッセンバッハ邸

新ニューサーク市長の家
イサナもここに住む



ハルコニー

ホワイトヘームに収容さ
れていた難民のベルシア
親子が目撃した。失の生
まれ政略、たがすでにそ
こには多く、怪獣によ
って制された海が横たわ
るだけだった

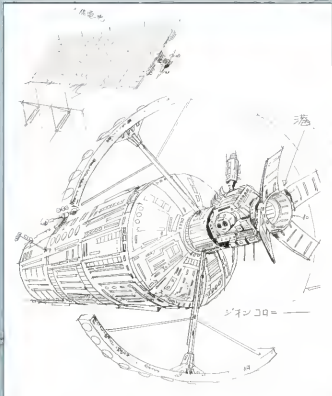


SM シエン シオン公館

サイド3(ジオン公国)

月の裏側に位置する、地球から距離的・精神的
に最も遠いラグランジェ・ポイントに建設され
たコロニー群。そのため以前から独立を萌える
人々が集っていたが、ザビ家によって掌握され

てからは、より一層、連邦政府への敵意をむき
出しすることになった。内部に人工太陽を持
つ密閉型コロニーで構成されており、ギレンは
それを利用してソーラ・レイを建造した



シオン軍・攻撃空母ガウ

長距離移動に適さないMSを、要求された戦場に早く侵入することを目的にして作り出された、戦闘能力を兼ね備えた超大型空中空母。そのため重量もさまじく、18基ものエンジンを備えているにもかかわらず機力が不足していたという。通常、この機体1機に搭載されたMSと戦闘機のドップで、1戦団中隊を構成している

ガルマとガウ

大機体も一気に投入可能なことから、連邦軍兵士から恐れられたガウだが、ガルマは自ら乗り込み、トップで攻撃することを行っていた。機体の先で出せしめられたくない、誰ならはいえ

ハッチOPEN

MSの降下 艦底に吊り下がる。見まきの大型ハッチ 内部に3機のMSを収容できる

ドップ発進口

それぞれに4機ずつ、計16機のドップを格納可能。高機動の付いた機に設置されている高機動・駆動ハッチ

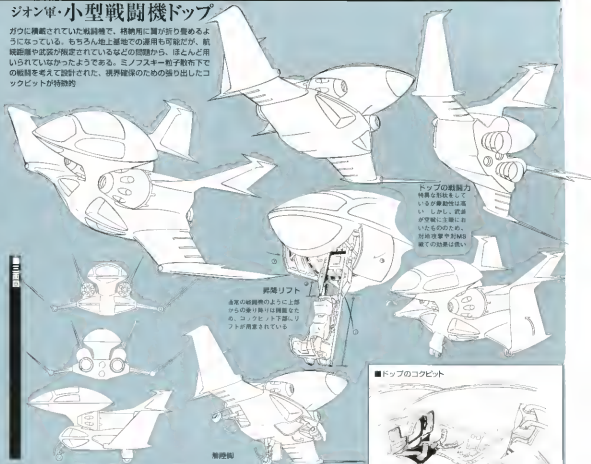
■ブリッジ

■ブリッジ

大型メガ粒子砲

ジオン軍・小型戦闘機ドップ

ガウに模倣されていた戦闘機で、格納用に着が折り畳めるようになっている。もちろん地上基地での運用も可能だが、航続距離や武装が限定されているなどの問題から、ほとんど用いられていなかったようである。ミノフスキー粒子散布下での戦闘を考えて設計された、視界確保のための折り出したコックピットが特徴的



ドップの戦闘力
特異な形状をしているが機動性は高い。しかし、武装が空戦に主眼に
おいたもののため、
対地攻撃や対MS
戦での効果は低い

昇降リフト

通常の戦闘機のように上部からの折り降りは機体となる。コックピット下部にリフトが用意されている

前視図

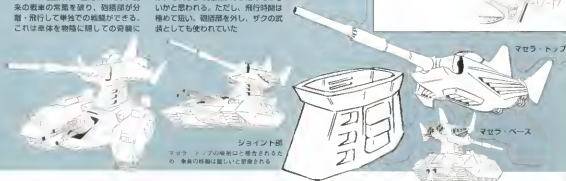
■ドップのコックピット



ジオン軍・機動戦車マゼラ・アタック

ジオン軍地上部隊の主力戦車だが、従来の戦車の常識を破り、砲塔部が分離・飛行して単独での戦闘ができる。これは車体を砲塔に附しての奇襲に

は、それなりの効果があったのではないかとと思われる。ただし、飛行時間は極めて短い。砲塔部を外し、ザクの武装としても使われていた



ジョイント部

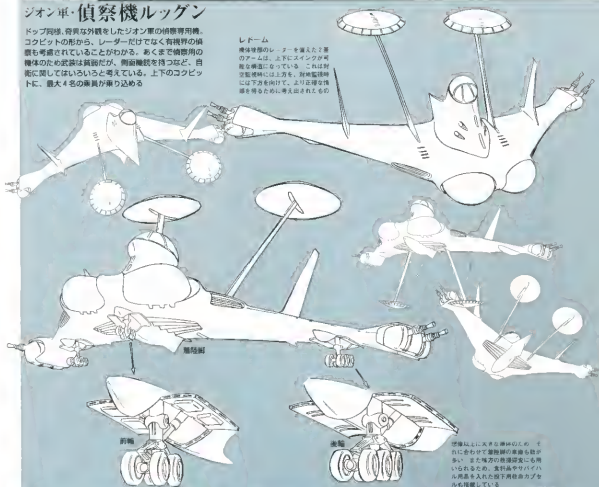
マゼラ・トップの砲塔口と密着されるため、乗員の移動は難しいと想像される

ジオン軍・偵察機ルッゲン

ドップ同様、奇異な外観をしたジオン軍の偵察専用機。コクピットの形から、レーダーだけでなく有視界の偵察も考慮されていることがわかる。あくまで偵察用の機体のため武装は貧弱だが、側面離陸を持つなど、自衛に関してはいろいろと考えている。上下のコクピットに、最大4名の乗員が乗り込める

レードム

機体後部のレーダーを運んだ2本のアームは、上下にスイングが可能で垂直になっている。これは対空監視時には上向き、対地監視時には下向きを向けて、より正確な情報を得るために考え出されたもの

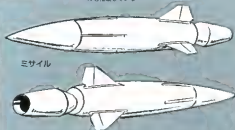
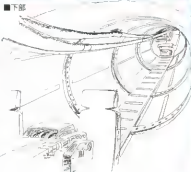


想像以上に大きな機体のため、それに合わせて乗降脚の車輪も数が多い。また機体の機体研究にも用いられるため、食料庫やガソリン用缶を入れた地下用燃料カプセルも搭載している

コクピット



■下部



ミサイル

コクピット

図のように見える機体前部の部分と、上部のコクピットは内蔵でつながっていて、移動も可能である。これにより、より広範囲の機体が可能になった

ペルシアとコーリー

ペルシア
(声・島谷美空)コーリー
(声・青木瑞枝)

セント・アンジェを救済
して艦を降りた母と子
このエピソードでは普通の
兵士の側面さと、母の
愛を込めて描かれた

地球連邦軍・輸送機ミデア

戦時・戦時輸送の双方に対応で
きる、単独離陸降着機能を備えた
大型輸送機。中央のコンテナは
滑走式で、非常時には切り放す

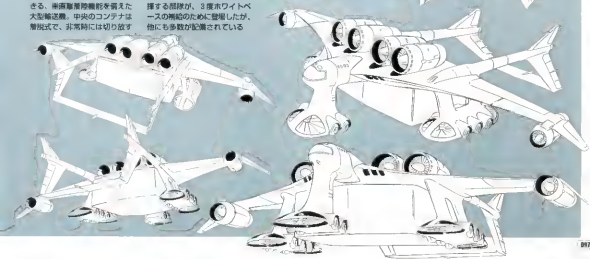
ことも可能。マテルダ中尉が操
縦する部隊が、3度ホワイトベ
ースの補給のために登場したが、
他にも多数が配備されている

バムロとコム

バムロ
(声・永井一郎)
コム
(声・吉川史夫)

救命カプセル

ルツガンで機群中の
バムロとコムが、ペ
ルシア親子の行く先
を察して投下した緊
急用器が入ったカプ
セル。本来は、撃破
された後方パイロント
に用いられる



ジョブ・ジョン



（声・鈴木清信ほか）



なんでもござす。ホワイトヘースの乗組員。一通りのパイロット訓練も行っているらしく、カンペリーの操縦を手伝ったこと、ガンタンクに乗り込んだこともある。言葉の早さが特徴。

オムル



（声・宮川聖子ほか）



ホワイトヘースのメカニクマンのチーフ的存在として、ガンダム等の修理に立ち回っている。並立つぶろこそないが、真のような人物の姿えがあるからこそ、アムロの信頼もあったといえよう。



タムラ



ホワイトヘースの副操を一手に任されている。コックのおしさん。一応軍人だとおられるが、戦闘は得意にあらう。



（声・水谷一郎）

マナルタ中尉

（声・戸田恵子）



戦争に關わりながらも、その中で唯一ものを作ることが出来るから、と獨断独行を遂げたまふるが、そんな彼女がホワイトヘースにこたわり附けたのは、遂に会合から先で、はあま、たが彼女のような人物から死ぬのが、戦争の哀しきである。

軍人A



真面目な道徳軍人。道徳に事かれた包帯が特徴。



ガルマ戦闘スタイル



髪の色に合わせたような黄と
黄色のパイロントーンに身を
包み、印象的なデザインの
ヘルメットを常用しているが
これもまた彼の威風を示すた
めであろう

イセリナ



パーティードレス

肩紋章

エッセンバッハの族、古来
西陣屋のガルマと立場を越え
た恋に落ちる。このような物
語が語られたのも「ガンダム」
ならではといえる

(声・浅野子)

(声・古川登志夫)

エッセンバッハ

(声・飯塚昭三)



メオンに占領さ
れたニューエー
ク市の市長。長
つまり憲法政府
とつながりを持
つ政治家で、そ
れゆえにメオン
を尊敬している

ダロタ中尉

新選基地にてガルマ直
属の部隊に配属されて
いた士官。イセリナと
同じようにガルマの執
行を助けるという立場で
戦う。戦死する

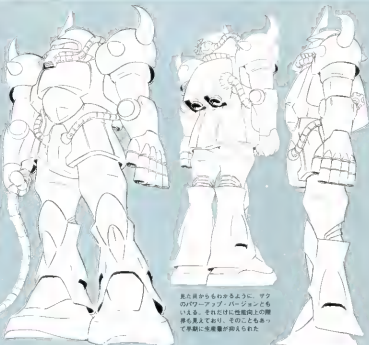


ジオン軍・MS-07グフ

グクの後継機として開発された、陸戦と白兵戦に主眼をおいたMS。右手にヒートロッド、左手にマシンガン内蔵しているため、単体での戦闘力は高い。しかしマニューベーターが特殊なことから外部隊員に制敵を要し、運用に柔軟性が欠けることがわかり、続いて開発されたドムなどに、すぐに主力の座を譲ることになった

■DATA

全高18.2m/本体重量58.5t/ジェネレーター出力1034kw/スラスター推力40700kg/装甲材質超合金鋼、武装固定・ヒートロッド、5連装マシンガン、オプション・専用シールド、ヒートナイフ、ザクマシンガン(TV)、ジャイアントバズ(数機)/パイロット：ランバ・ラル、ヘイブ、マーチほか



足元からわかるように、ザクのパワーアップ・バージョンともいえる。それだけに性能向上の跡も見ており、そのことあって早期に生産量が抑えられた



ジオン軍 機動巡洋艦ザンジバル

長い航続距離と高い戦闘力を兼ね備え、MSの運用も考慮されたジオン軍の新造艦。艦隊行動はもちろん、遊撃隊のような単艦での作戦でも、大いに活躍できるだけの性能を秘めている。それだけに、完成したのは少数にとどまる

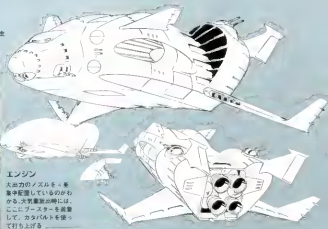
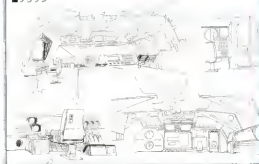
■DATA

全長225m/全幅221.2m/全高70.5m/全重量22000t/手動力：熱核ジェット、ロケットエンジン×4/武装：連装メガ粒子砲、固定式メガ粒子砲×4、2連装機関砲×2 モビルスーツ×12



ビーム砲乱撃を考慮して、主砲は実体弾タイプを採用

■ブリッジ



エンジン

大出力のノズルを4基を配置しているのがわかる。大気圏脱出時にはここにブースターを装着して、カタパルトを使って打ち上げる

ジオン軍・独立戦闘隊

ホワイトベースとガンダムを撃破して、ガルマの仇を討つためにドスルが編成した部隊。いわばザビ家が私怨を晴らすために派遣した者たちであり、指揮を任されたランバ・ラル

は、そのことを十分に承知して戦いに臨んでいた。実直な人物で、部下からの信任も厚かったが、残念ながらこのような指揮官は、連邦軍にはほとんど見受けられない

ランバ・ラル

(声・広瀬正志)

(声・中田幸治)

オー・ダイタンの曾孫だったランバ・ラルの息子。それゆえに、自分のジオンへの忠誠心を示そうとする。しかし、ホワイトベースの中に「アルティマ」がいることは、彼の意思を伝える事象だった

クラウレ・ハモン

ランバ・ラルの内縁の妻。以前はギレンの秘書をつとめていたとの話もある。戦場での自分の役割を心得ており、ランバ・ラル同様に部隊の兵士からの信頼も厚い

ノーマルスーツ

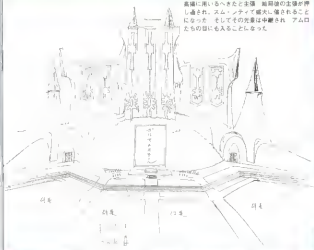
クランプ

ランバ・ラルの副官。彼をよく補佐し、豪華スタイルに身を包んで白兵攻撃を敢行。ホワイトベースを総体絶命の瞬間にまで追い込む

(声・堀内真由美)

■シオン公邸・ガルマ群雄の祭壇

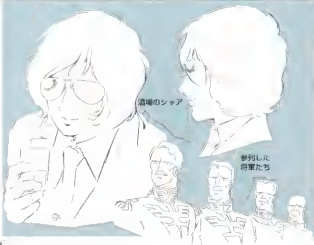
ガルマの葬儀では、女王デギンは静かに家来の平い多しといと驚いていた。たかキレンは秘密基地に用いるべきだと主張。結局は土葬が押し通され、スモ、メティで盛大に催されることになった。そしてその光景は中継され、アムロたちの目にも入ることになった。



■デギンの私室



公室内に設けられた女王の私室。ほとんど無装飾状態で、キレンのやり方についていけないデギンの義母もが、内装からいさよえる。



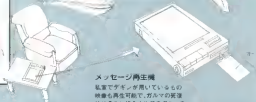
道場のシャア

参列した
将軍たち



素顔のキシリア

種と一体になったフェイスマスクを脱ぎ出した状態。祝典以外の公式の場では、このように素顔をさらしていることが多い。



メッセージ再生機

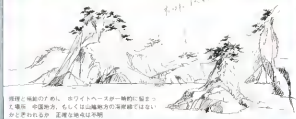
私室でデギンが用いているもの。秘密も再生可能で、ガルマの葬儀ではそこに設置する所、ガルマの顔を使っている。

■盛装状態のアムロ

イカリナの花に豪華な装束を受けた彼を、裏に隠したのは、ランバ・ラルという戦士の出展だった。



■日本の満洲

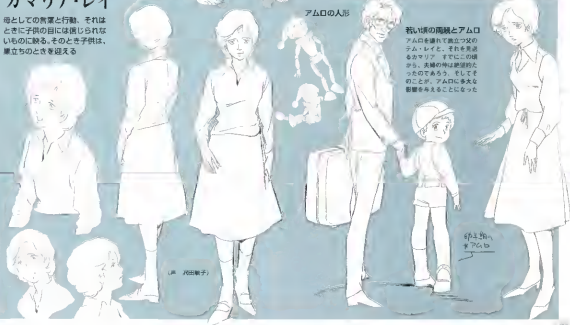


■アムロの夢



■カムリア・レイ

母としての側面と行動。それはときに子供の目には信じられないものに映る。そのとき子供は、離れ立ちのときを迎える



カイ・ミライ・セイラの水着姿
作風の金髪を見て、
涼びてくつろぐ3人。
彼らが居たしどろで
て金髪を手に入れた
のかは謎である

リュウとハヤト
ぶよく胸を刺すとは
いいつつも、リュウ
は大き過ぎるけ

■住民のキャンプ

ジオン軍が設置した避難民収容施設。アムロの母が働いていたところ。ジオン兵が定期的にパトロールしている

■アムロの人物

若い頃の両親とアムロ
アムロを連れて旅立つ父の
カム・レイと、それを見送る
カム・レイ。すでにこの頃
から、父親の母は夢想的な
ものであろう。そしてその
ことが、アムロに多大な
影響を与えることになった

原 沢田敏子
*アムロ

■リオン前基地

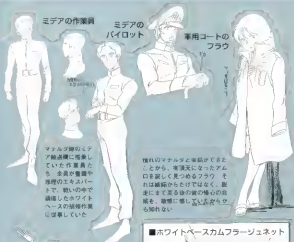
アムロの生軍の近くに設置されていた基地だが、この地域は戦略的価値が低いとして両軍から軽視され、それゆえに清戦状態になっていた。



メディアの作業員

ミディアの
パイロット

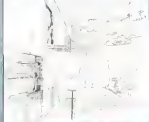
軍用コートの
フラウ



マナルダ卿のミナ
ア船送りに参加し
ていた作業員た
ち。全員が整備や
修理のエキスパー
トで、戦いの中
に壊したホワイト
ベースの補修作業
に従事していた。

憧れのマナルトと恋編ができたこと、から、有頂天になったアムロを寂しく見つめるフラウ。それは結核からだけでなく、脱走にまで至る後の彼の情心の転換を、敬愛に感じているからかも知れない。

■ホワイトベースカムフラージュネット

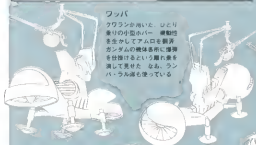


■メディアの危機



2215

クワランが用いた。ひと
乗りの小型ホバー。機動
を生かしてアムロを襲う
ガンダムの機体各部に爆
を仕掛けるといった離れ業
演じて見せた。なる、ラ
バ・ラム海も使っている



クワラン
(戸・市東昭秀)
ギ

YN

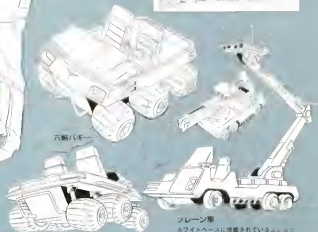


ワッパ隊
ケワランに準い
られた シオン
軍の若年兵たち
顔に憐れむことを
夢見ていた

ミデアの機軸



五、(一)



クレーン車

ホワイトベースに搭載されているエレキで
—— 録音したものである

ランニングシャツのAムロ

出撃の合間の、ラフな姿。一見すると、つなぎのようなパイロットスーツが、胴の部分でわかれていることが理解できる。

自衛した連邦軍パイロット

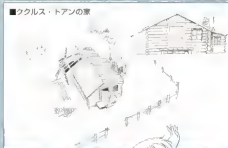
トアンのザクに撃墜され、コノ
クビに縛り付けられていた
被爆機のパイロットたち。アム
ロの広さも虚しくしるは死亡



邊邦雜誌編輯

名称不明、4枚の扉紙と3
巻のエプソンを開える。無
裁断切替機である。

■ ククルス・トアンの家



■タクルス・トアンの劇



ロラン チュアン

トアンを育てている
被災歴史の中では異
年長。そのため、ほか
の子供たちのお母さん
役もつとめている。
健い心が開いた
トアンを。静かに優
しく見守っている。

(著・川島雄三)



パイロット服の
ドアン

観いから選りつつも、
ザクザクと書けない
強を見て、アムロが
選んだ方達は、



ククルス・
ドアン

〔商〕 健丸特

ジオン軍・地球方面軍マ・クベ少佐

キシリアから、地球上での異議確保を命じられていた人物。神経質な性格で、戦いでは正攻法を悪かな戦法だと考えている。それゆえにギャン

に乗り込んでガンダムと対峙したときも、からめ手ばかり用いたが、ニュータイプとして覚醒を始めたアムロに看破され、分相成の死を逃げる

ウラガン

忠実に命令に従うマ・クベの副官。普段は表情を表に出さないが、時折見える険しい目つきが、彼の本性を物語るっている



■マ・クベの器
美希品に飾られているマ・クベの器に好んで自らの身を飾る美希品は、彼を裏切らないといふことをのぞくように



アコース

ランバ・ラルの部下。コズンらとともに戦うが、ガンキャノンの攻撃の直撃を受けて戦死

コズン

ホワイトベースの陣痛に陥ったランバ・ラルの部下だが、隠し持った道具を使って脱走、艦の捕縛を伝える。シャアの消息を尋ねるセイラをジオンの者と看破、脱走を持ちかけてもいた

サンマロ

ホワイトベースの医療室を担当している。外語はおとなしうだが、結構しっかり者

(声・塩沢貴人)

病気の少年

ホワイトベースに命令を伝達に来た少年兵。「防衛に響かぬのか」は、あまりにも有名な



ジオン軍・陸戦艇ギャロップ

独自の行動をとるランバ・ラル艇に与えられた、小型の陸戦艇。中央部の格納庫に3機のMSを収容可能で、ホバーで移動する。左右の窓の部分は、指揮所兼、射出型の射出カプセルになっている

展望台

カーゴ内ハモンの部屋



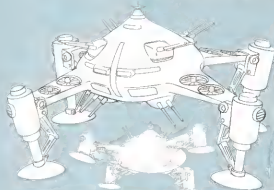
カーゴ

機体物を搭載するほか、兵員の休息所としても機能する。ホバーで自走可能なコンクリート製。ハモンはこれに機体調整して、ホワイヘーメに移送しようとする

ジオン軍・重機動砲座アッザム

月面用の移動トーチカをベースにして開発された機動兵器。コンセプトが後に登場する。MAのベースになったと

いわれている。飛行も可能で、機体下部からはアッザムリーダーと呼ばれる、特殊兵器を射出する

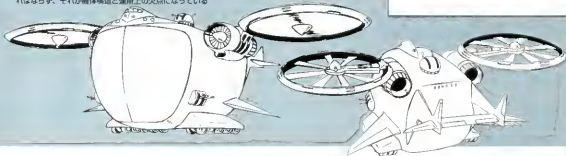
アッザム
リーダー

メカ和子砲

ボール型弾頭

ジオン軍・輸送機ファット・アングル

大型の輸送機で、MSを立った状態のまま輸送可能。これほどの機体は、他に類を見ない。ただそのためには巨大なファンを両翼に備えなければならず、それが機体構造と運用上の欠点になっている



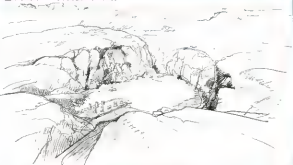
■アッザムのコクピット



コート姿

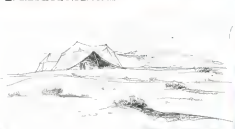


■ホワイトベースが隠れていた谷



アムロが脱走したとき ホワイトベースが警戒していたゾンドの近くの深谷 荒涼とした谷の奥に砂漠地帯の真ん中に位置する そのため、他に隠るものはない

■アムロが立ち寄った老人の天幕



■ゾンドの町



過酷なハイパーゴラウが走る小型バギー 車輪を下面に付けることにより、ハイパーにもなる

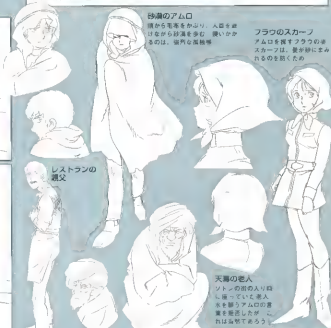


砂漠のアムロ

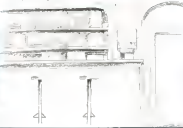
晴から夜まで走り、人目を避けるながら砂漠を歩む。深いかなるの、遠くを旅する

フラウのスカーフ

アムロを救ったフラウのスカーフは、髪が砂にまみれるのを防ぐため



■ゾンドの町のレストラン・カウンター



変形機装のラル稼

マ・クハへの襲撃により機装を受けられなかったランバ・ウルが、最後の手段として顔で、自兵隊のための装備を開発した事

フラガンの外動機

宙宙は着用していないマントをつけ、さらにヘルメットをかぶり、いかに軍人らしい格好になっている

タチ中尉

ハモンを捕獲してホワイトベースへの物資降下を指揮したランバ・ウル隊の将校

(声・永井一郎)

ハワード

劇中から戻ったアムロに反発して一時的に艦を降りた少年

マクシミリアン

ハワードたちと同様に一隊に艦を降りた、整備班長の要員員

モリタ・トモ

シュダック

シン軍と西進していたエルラン中隊の部下で、通譯員を担当していた男

(声・二又一三)

メカマンのユニフォーム

他の者とは異なるメカマン用のノーマルスーツ。動きやすさと堅牢性の軍用を備えている

自決した少年A

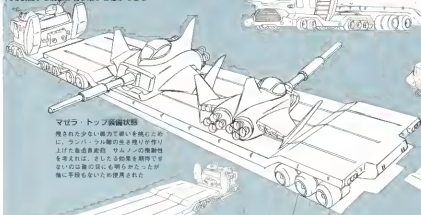
ランバ・ウル隊が仕向けた白刃戦により自決した、ホワイトベースの乗組員

潮死のリュウ

海を越えて仲間を救うリュウが溺れたかったと、それは

ジオン軍・大型輸送車サムソン

MSなどの大型機材の搬送に用いる巨大トレーラー。連装機関砲2門を装備する前部は切り離すことができる



マゼラ・トップ装備状態

機された少ない動力で動くために、ランパ・フル稼働の生る機りが作り上げた急激な加速、サムソンの機動性を考えれば、おしる他案を期待できないのは目のにも明らかだったが毎に手段もないため使用された

トラクター部

手榴弾

ジオン軍が用いる、典型的な機つと手榴弾

ギャロップのエンジン破損

ギャロップの脱出カプセル
カプセルの射出装置、破損のノズルは足跡を残す
機動性で劣る機動性で劣る

ジオン軍・揚兵戦車キウイ

運び出した車体に兵員を乗せて、敵に肉弾するたのに考慮された車両、ジオン軍の戦車車両である

マゼラ・トップを乗せたカーゴ

マゼラ・トップ砲

四角部分を外して、ザクの両手を兵器に改造した攻撃

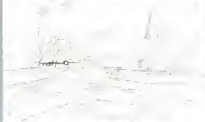
ザクのミサイルポッド

弾頭は設置して使用される。オプションのミサイルポッドはサイロポッド、連射力はあるが照準が難しいため、移動する敵を攻撃することは非常に困難と思われる

■マ・クベの鉱山



■マ・クベの鉱山基地



ジオン軍・人型陸戦艇ダブデ

地上戦艦とも表現すべき。移動式の砲台。内蔵二は雷撃用も設置されている。主砲発射時には4基のダンプで、砲を固定する必要がある



マ・クベ基地の大型メガ粒子砲

地上戦艦型のメガ粒子砲だが、移動の必要がないため、強力なビームを射出可能

ジオン軍・連絡機コミュ

ひとり乗りの最小型連絡機。計装室と機体部分が分離するため、手帳に持っていることができるのが長所。機動性も良好



■ダブデ艦機内

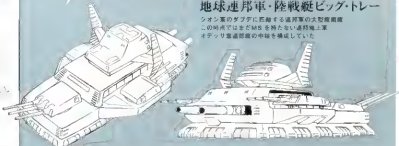


■ビッグ・トレー艦機内



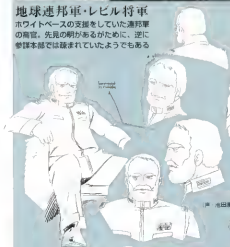
地球連邦軍・陸戦艇ビッグトレー

ジオン軍のダブデに匹敵する連邦軍の大型戦艦。この時点ではまだMSを持たない連邦地上軍。オデッセイ軍艦隊の中核を構成していた



地球連邦軍・レビル将軍

ホワイトベースの支援をしていた連邦軍の高官。先見の明があるがために、逆に参謀本部では疎まれていたようでもある



声・池田勝

病床のブライト

激戦から倒れた姿を見たとき、連年軍医の人物だということを知った人も、多いのではないだろうか



ジュダック

109ページとは異なり、連邦軍の服をまとった姿



クリンク中尉

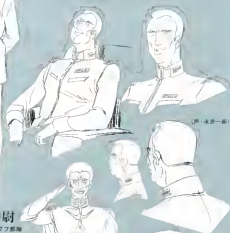
ド・ダイに乗ったグフ部隊で、マサルトを盗撃した部隊のパイロット。戦死

声・池田勝



地球連邦軍・エルラン中將

将軍級の人物が敵と内通しているならば、兵士は一体何のために戦うのだろうか？ そのことを彼は考えたことはないに違いない



声・永井一郎

マサルト



アムロ



セキ



セイラのノーマルスーツ

Gファイターの配置により、ついに彼女もパイロットとして戦場へ



セキ 技術人佐

ホワイトベースのエンジンを担当した人物

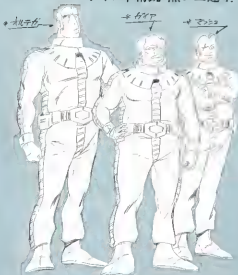
声・鈴置洋孝

敵艦防衛機構

敵艦全エンジンの内部は、敵制下で占拠されている部分があるため、入るときには防護服を適用する必要がある



ジオン軍精鋭・黒い三連星



(声: ガイア=飯塚一彦 セット=高木正也)

開始時からエースパイロットとして名を馳せた3人組。機体の選定、ブルーを基調したフェニクス・ストリーム・アラクノクとも付けた三位一体の技を得意にしている



ジャイアント・バス

ドム用に新機に設計された、大口徑ハズカ、ザクのものより遙かに撃破力が大きく、ドムの主兵器として用いられた



ジオン軍・MS-09 ドム

新技術をふんだんに投入して作り出された、グフに続く量産型のMS。大出力の格闘合エンジンの搭載と部品の小型化により脚部にホバーを装備、そのため重層級の戦体であるにもかかわらず、ザクなどの従来機を遥かにしのぐ俊敏な動きを見せる。非常に完成度が高い戦体だといえる

■DATA

全高18.6m / 本体重量62 t / ジェネレーター出力1200kw / スラスター推力58200kg / 装甲材質高強度鋼 / 武装 固定・ビートサーベル、近接ビーム砲、オプション・ジャイアントバス/パイロット: ガイア、オルテガ、マッシュバロ



ドダイYS

■ジオン軍・ドダイYS

ガウを用いることなく、地上のMSに長距離砲撃能力と飛行性能を付与するために考案された機体。人が乗り込んで操縦することもできるが、MSからの遠隔操縦機能も搭載している

■コクピット



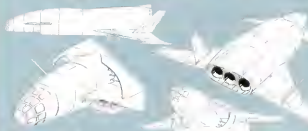
ミサイル

■コクピット



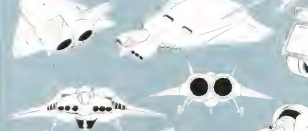
連邦軍・61式戦車

GMの量産・配備が進められるまで、連邦軍地上部隊を支え続けた主力戦車



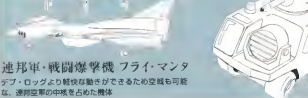
連邦軍・重爆撃機 デブ・ログ

大量の弾薬を搭載する攻撃機。オデッサの戦いでは多数が投入された



連邦軍・戦闘爆撃機 フライ・マンタ

デブ・ログより軽快な動きができるため空戦も可能な、連邦空軍の中核を占めた機体



■ジオン軍前線基地用人工衛星

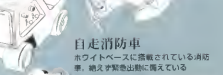


地球上へ降下するための軌道を整えており、比較的低い軌道に設置されている



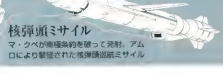
連邦軍・軽連絡機トラゴン・フライ

戦いの直前、エルランから得た情報を、ジュダックがジオンに送るときに用いていた



自走消防車

ホワイトベースに搭載されている消防車。絶えず緊急出動に待っている



核弾頭ミサイル

マ・クベが唯の強敵を破って発射。アムロにより撃退された核弾頭巡航ミサイル

◎ガンダム・パワーアップパーツ

Gファイター

ガンダムの汎用性を、さらに高めるために開発が進められていたメカ。A・Bふたつのパーツで構成されていて、ガンダムと組み合わせることで、さまざまな状況に対応するほか、上部にガンダムを乗せて飛行することもできる。大型メガ粒子砲を始めとした、多くの武器を備えているため、単機でも戦闘能力は高いが、その場合は一撃離脱がメイン戦法になる

格納状態

ホワイトベースなどの艦艇での運用を考慮して、格納時には機体両側のパーツをスライドして全長を短縮。さらに翼をスイングさせることにより、全機が狭める用途が活用されている

カタパルト

キャタピラ

飛行スタイル

左右のハーノを後退 翼を展開して飛行するため 格納状態とは印象がかなり変わって、よりスマートに見える

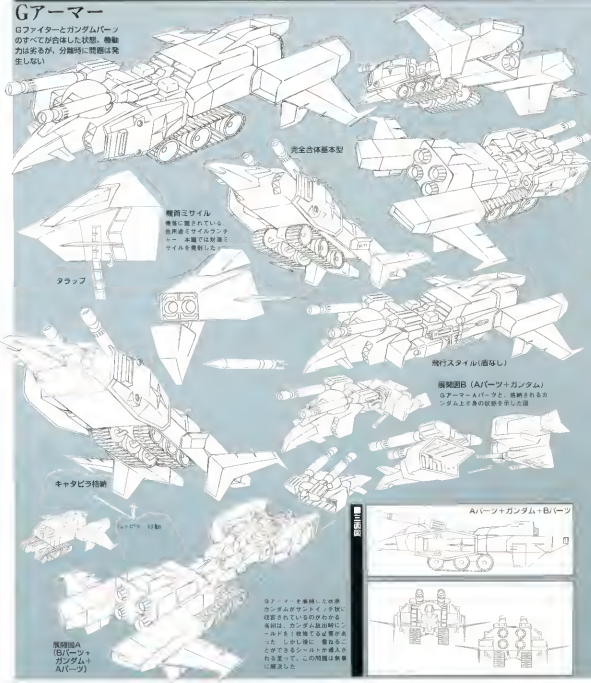
機体下部

Gファイター 機にはダブルでの運用時に用いるキャタピラをスライドして、半格納状態にして、半格納状態でも機を跳ね上げれば、キャタピラを使用しての運用ができる

◎ガンダム・パワーアップパーツ

Gア-マ-

ロファイターとガンダムパーツのすべてが合体した状態。機動力は劣るが、分離時に問題は発生しない



機筒三サイクル

機密に置かれている。他用途とサイランチャーター 本題では対潜ミサイルを費射した。

タラップ

キャタビラ格納

1975-76 3110

飛行スタイル(盾なし)

展覧図B (Aパーツ+ガンダム)

④アーマー・Aパーツと、格納されるカ
ンダム上主身の試験を示した図

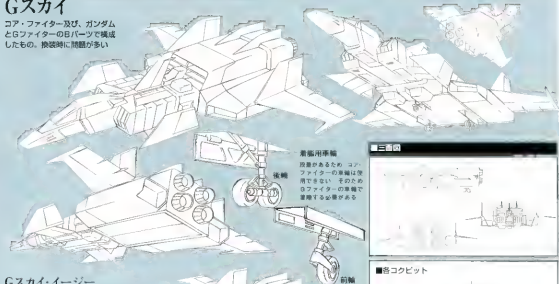
展開図A
(Bパーツ+
ガンダム+
Aパーツ)

A/ブーツ+ガンダム+B/ブーツ

3. アーマーを奪回した次は、カンダムがサントインテに収容されているのがわかる。真相は、カンダム脱出時に、ワールドを破壊する必要がある。しかし後に、奪回することができるとのシールドが導入されるまで、この問題は無解に陥った。

Gスカイ

コア・ファイター及び、ガンダムとGファイターのBパーツで構成したもの。換装時に問題が多い



着艦用車輪

設置のあるため、コア・ファイターの車輪は使用できない。そのためGファイターの車輪で置換する必要がある

後輪

前輪

■三三三



Gスカイ・イージー

ガンダムBパーツを用いないGスカイ形態。単独での運用に適している



Gブル

Gアーマーの前半分で構成された陸戦モード。換装時に問題がある

■三三三



■各コックピット



Gスカイ



Gファイター



Gスカイ・イージー



Gブル

Gブル・イージー

Gアーマーの上半身だけで構成したGブル形態。ビームライフルがないため、火力が低下してしまう

ミハル・ラトキエ

生きるためと自分に言い訳して、スパイになった少女。それがミハル……。だがカイと出会ったことにより、彼女はそんな自分との別れを決定した



(声・陳映宜)

フラナガン・ブーン

マッド・アングラマーに所属する。潜水艦ユーコンの艦長。パイロット上がり



ブーンの海兵スタイル

(声・二又一広)

コノリー

ミハルに命令を出すブーンの部下

(声・二又一広)

キャリオカ

ブーンの部下。ジョン脱りが強い



ミハル脱走後

(声・金野一恵)

ミリー

(声・井上麻)

ミハルの妹。幼いが、生きるための覚悟は、一途り身につけている

ジル

(声・松岡洋子)

同じくミハルの姉。姉の死後、彼らはこうなったのだろうか。

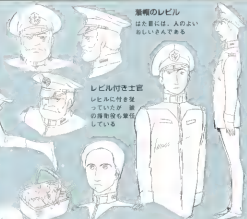


カラハ

ズゴックのパイロット。アムロと艦に突っ込んで出撃したカイの目に映れる

軍帽のレビル
は太君には、人のよいおしきさんである

レビル付き士官
レビルに付き従っていたが、艦の乗組員も乗務している



■カイの表情集



ミハルとのエピソード以降、それまでにはない強がれ方がされるようになったカイ。それに合わせて、これまでは見ることがなかった表情が描かれた設定が用意された

ジオン軍・MSM-07 ズゴック

試行錯誤の結果、短期間のうちに数多くの機體が作られることになった。ジオン軍の水陸両用MS。その中でもトータル性能が最も高く、白熱戦でも陸上専用MSに決して引けを取らないといわれていたのが、このズゴックである。シャアが新たな自分の乗機にこの機體を選んだのも、そんな性能の高さを感じていたからではないだろうか

■DATA

頭頂高18.4m / 本体重量55.1t / ジェネレーター出力2480kw / スラスター推力83000kg / 装甲材質チタン・セラミック複合材 / 武装 固定・頭部8連装ミサイル砲、胸部メガ粒子砲、×2、オプション：なし / パイロット：カラハ、ゴダールほか

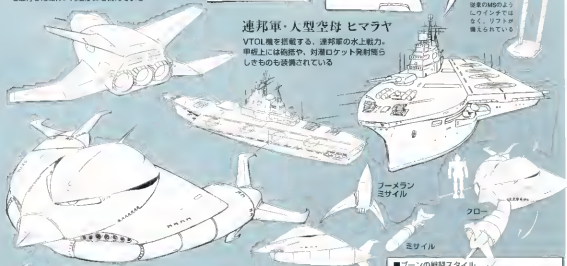


連邦軍・対潜攻撃機 ドン・エスカルゴ

ベルファスト基地に配備され、接近したユーコンの攻撃を散行した機体。対潜弾を備えている

連邦軍・人型空母 ヒマラヤ

VTOL機を搭載する、連邦軍の水上戦力。甲板には砲塔や、対潜ロケット発射筒らしきものも装備されている



昇降リフト
従来のMSのようにウィンチではなく、リフトが備えられている

ジオン軍・MAM-07 グラブロ

大型で高い機動性能と長い航続距離を誇る、水中戦専用MA (モビルアーマー)。アムロたちが初めて対決したMAでもある。その性能を生かし、ホワイトベースに多大な損害を与えた

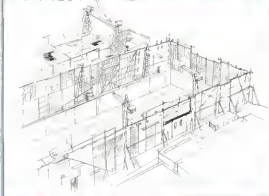
■DATA

頭頂高40.2m / 本体重量324.1t / ジェネレーター出力11000kw / 装甲材質鉄鋼高強力鋼、武装 クローアーム、装設ビーム砲、ミサイル8門 / オプション：なし / パイロット：ブーン

■ブーンの戦闘スタイル



■ヘルファスト基地・ホワイトベース用ドック



基地司令



ミハルたちの写真



ミハルの家

ヘルファストの向を走らす正に雷つ、ミハルたちの家。幾らが壊れ、炎を上げる場所であった



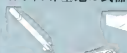
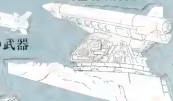
■破壊されたヘルファストの市街



ヘルファスト基地の武器



大型ミサイルランチャー



多連装ミサイルバナー



大口徑重砲中車

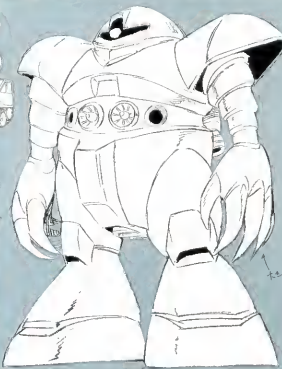
ジオン軍・MSM-03 ゴッグ

腕部のメガ粒子砲で敵の動きを止めて、巨大な力爪で切り裂いてとどめを刺す戦法が得意なMS。パワーもあり、ガンダムが繰り出したハイパーハンマーの衝撃さえも、受けとめていた。なお胸は標準式で水中行動時には収納可能

■DATA

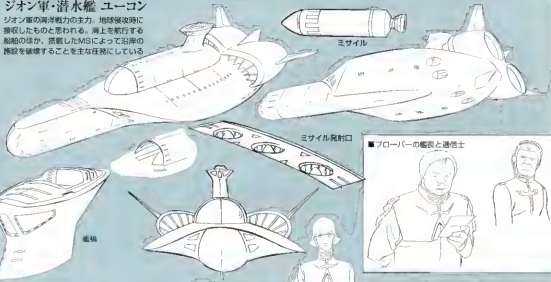
頭頂高18.3m / 本体重量82 t / シェネレーター出力1740kw / スラスター推力121000kg / 装甲材質チタン・セラミック複合材 / 武装：固定・腕部メガ粒子砲×2、角雷発射管×2、フリーゼーソード

■共通コックピット



ジオン軍・潜水艦 ユーコン

ジオン軍の海洋戦力の主力。地球解放時に使用したものと思われる。海上を航行する船舶のほか、搭載したMSによって沿岸の施設を破壊することを主な任務にしている

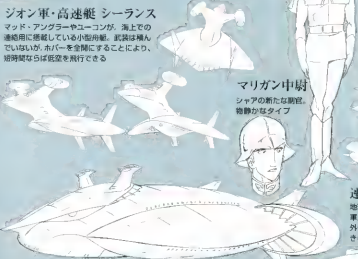


■ブローパーの艦長と通信士



ジオン軍・高速艇 シーランス

マッド・アングラーやユーコンが、海上での活動用に搭載している小型用艇。武装は種んでないが、ホバーを全開にすることにより、短時間ならば底空を飛行できる



マリガン中尉

シャアの新たな副官。
物静かなタイプ



ジオン軍・情報収集艦 ブローパー

密かに連邦軍領空に近寄り、通信などの傍受を行うことを目的にした潜水艦。任務の性格上、潜水したまま長期の行動ができる構造になっている

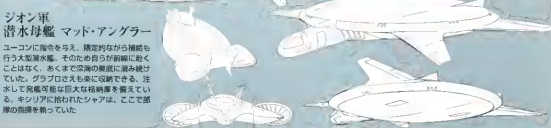


連邦軍・連絡機 デッシュ

地球上の各地に点在する連邦軍の基地を結ぶ、長距離連絡機。軍用機とはいっても亀の甲冑状の機体内部は広いため、予想外に居住性は高い。そのため将軍クラスの高官が移動するときには多用されていた

ジオン軍 潜水母艦 マッド・アングラー

ユーコンに指令を与え、随時的ながら補給も行う大型潜水艦。そのため自らが前線に赴くことはなく、あくまで深海の奥底に潜み待機している。グラブロさえも案に収納できる。注水して発艦可能な巨大な格納庫を備えている。キシリアに拾われたシャアは、ここで部隊の指揮を執っていた



■地下入口



■入口ハッチとガントリー



■ジャブロー内工場



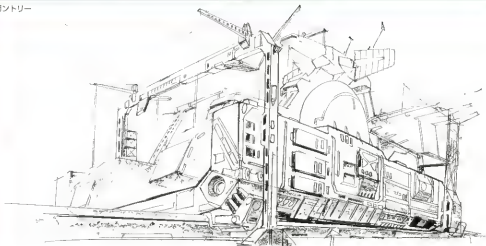
連邦軍・ジャブロー基地

南米アマゾンの原生林の地下に見えられた、広大な空間の中に建設されている。地球連邦政府と連邦軍の中核施設。天然の要害ともいえるここを外部から完全に破壊するには、核兵器がそれに匹敵する威力を持った兵器が必要で、ジオン軍がコロニー落とし作戦を実施したのは、まさにそのためであった。しかしここにもった政府高官や軍の上層部は、宇宙に目を向けることのない、自分だけとは地球にしがみつく人々。本来ならばジオンを非難などできる資格のない者たちだった。そんな彼らに敵役を命じられ、プライトを始めとしたクルーたちは悲しい怒りを抱く。怒しみにも似た、深いあきらめとともに…

■基地中央部

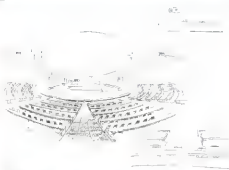


■ガントリー

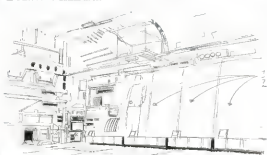


ガントリー

■会館前



■モビルスーツ製造工場内部

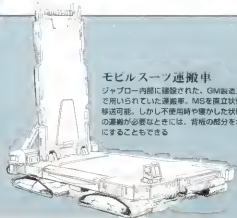


■地上監視用トーチカ



モビルスーツ運搬車

ジャブロー内部に建設された、GM製造工場
で用いられていた運搬車。MSを直立状態で
移送可能。しかし不使用時や壊かした状態
での運搬が必要ときには、背板の部分を水平
にすることもできる



ウッディ大尉

婚約者のマチルダの死にもめげず、逆に彼女との思い出を心の糧にして生きようとしていた、強い人物。彼のスジを通した行動は、アムロに大人の男としての生き方を教えるものだった (声・田中秀幸)



アムロ



結婚式のイメージ



アントニオ・カラス

ジオン軍の攻撃に対する反撃を担当する。ジャブローの防衛指揮官 (声・二又一成)

ボラスキニフ

ゾックに乗り込んで、シャアとともにジャブローに強襲を仕掛けたパイロット (声・戸谷公次)



セイラのアンダーブラウス姿

女性兵士(ウェーブ)が、軍服やアンダーブラウスの下に着用する。アンダーウェアのセイラ



女医先生

キカたちをヨムの診療室で看護していた医者



愛猫たち



ゴップ提督

死亡したミライの父を知っていたため、彼女に親しげに話しかけてきた連邦軍の提督



はにかの三人
(カズ、レツ、キッカ)



ジオン軍の工作員

破壊工作を実施するため、シャアに雇い入れてジャブローに侵入した工作員たち。いずれも一掃されたような男ばかりだが、ほぼ全員が死亡した

コーリン育児官

ジャブローの育児所の責任者。未来の戦争ならではの職場人物



ませた少年



しばられた三人



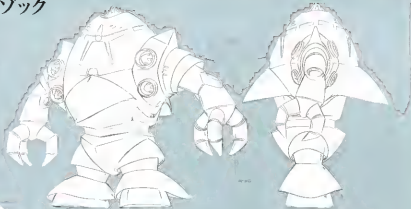
(声・加月三郎)

ジオン軍・MSM-10 ズック

防弾と火力を重視したMS。しかし巨大の特徴は前面と背面が完全に対称型をしていることで、これは低下した機動性を補うためであった。だが、ビームライフルの連撃をコクピットに受け、その破壊力を存分に発揮する前に撃破された

■DATA

頭頂高23.8m/本体重量167.8t/ジェネレーター出力3849kw/スラスター・推力253000kg/装甲材質チタン・セラミック複合材・武装 固定・頭部メガ粒子銃、胴部メガ粒子砲×8、オプション・なし/パイロット・ボラスキニフ



連邦軍 ホバークラフト ファンファン

狭い地域での戦闘に適した、小型の戦闘用ホバークラフト



ジャブロー内エースクーター

何気なく使っていたもの。不陸地走行性に優れているため、石の多いジャブローでは重宝されていたに違いない

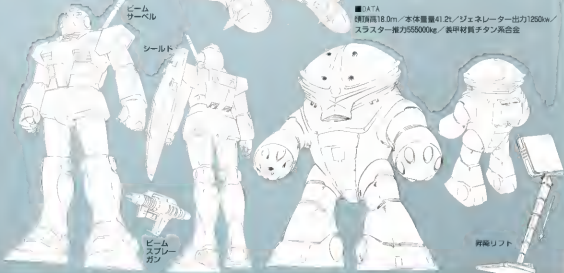


連邦軍・RGM-79 ジム

ガンダムで得たデータを基に、ついに連邦が作り上げた量産MS。ただし性能はジオンの新型機より劣る。これは質より量の選択をしたためだった

■DATA

頭頂高18.0m/本体重量41.2t/ジェネレーター出力1250kw/スラスター推力555000kg/装甲材質チタン系合金



ジオン軍・MSM-04 アッガイ

なんともユーモラスな外観をしているが、陸地行動性に優れているため、シャア麾下の工作部隊が使用した。キッカたちは知らずにこの機の上を歩いた

■DATA

頭頂高18.0m/本体重量41.2t/ジェネレーター出力1250kw/スラスター推力555000kg/装甲材質チタン系合金

開降リフト

シロー・アマダ

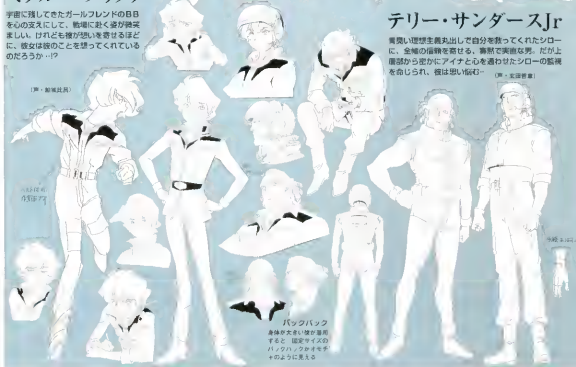
第08MS小隊の指揮を命じられた新任士官。ジオンの高ガス攻撃を目の当たりにしながらも、糧らを単に憎悪の対象として見なかったことが、彼の性格を物語っている



(声・堀山真央)

ミケル・ニノリッチ

宇宙に残してきたガールフレンドの目を心の支えにして、戦場に赴く姿が勇まましい。けれども彼が想いを寄せるほどに、彼女はそのことを望んでくれているのだろうか…?



バックバック
身体が大きい彼が着用すると、固定サイズのバックパックがカサカサのように見える

テリー・サンダースJr

冒険理想主義者出で自分を持て余したシローに、金庫の信頼を寄せる。真摯で実直な男。だが上層部から密かにアイナと心を通わせたシローの監視を命じられ、彼は思い悩む

(声・宮田重男)

身長 1.65m

カレン・ジョシュワ

戦場のシビアな身を以て体験したため、厳しい表情を崩さない彼女。しかし、体当たりで愛情を示すエレディアに対して、いつしか心を開いたのは、シローの影響も大きかったに違いない



（原・小畑 正典）

エレディア・マシス

どこか不真面目な雰囲気を感じつつも、ジオン軍に捕らえられたときにミケルと見せた限り含みは、敵の目を欺くためとはいえとも仕舞。気がいが入ったときの顔のすこさをかいま見せていた

（原・藤原啓治）



ジダン・ニッカード

はた目には情争い、そして何よりも酒が好きなただのオヤジだが、実は遠く大隊の戦況を一手に担っているというのだから、世の中は恐ろしい。司令官のどっち上げなども、いとも簡単にやってみせた



イーサン・ライヤー

シローの行動に不信を抱いて隠微された審問会に出席。その中でたどりと柔和な表情を見せていた連判軍の参謀。だが彼が一番シローを痛めておらず、後の戦いでも兵たちに非道な命令を下す



コジマ大隊長

いつも怒鳴り散らして、不機嫌そうな表情を浮かべていたが、真を死地に追いやるイーサン・ライヤーの指揮に反発して、スジを通したときの姿はあっぱれである

（原・高橋一樹）

RX-79(G) 量産型ガンダム

RX-78ガンダムからRGM-79GGMの生産に至る間に、限定的ながら量産された、地上戦専用のガンダム。そのためコア・ブロック・システムなどは省略されているが、膝部・パーツなどはコストがかさむ試作ガンダムに近いものが採用されている。生産ラインの簡便化とともに、徐々に配備数は減少していった

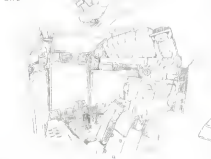
■DATA

全高180m/本体重量52.8t/ジェネレーター出力52000kg/装甲材質ルナ・チタニウム合金/武装：固定・胸部バールカン砲、ガトリング砲、マルチランチャー、オプション・ビームライフル、ビームサーベル×2、100mmマシンガン、180mmキャノン、ミサイルランチャー、ロケットランチャー



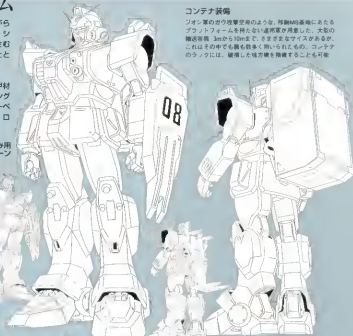
■コクピット (GMと共通)

コア・ブロック・システムを省略しているため、緑のGMと共通のものの多いといわれている。4面のメインモニターに監視の状況を確認でき、想像するよりも境界は広いのではないかとと思われる



コンテナ装備

ジオン軍のガウ型機のような、移動基地にあたるプラットフォームを持たない連邦軍が用意した、大型の輸送機。3mから10mまで、さまざまなサイズがあるが、これはその中でも最も多く用いられたもの。コンテナのラックには、破壊した機方を搭載することも可能



胸部内部
輸送機が収められ
対人用27mm連射
銃を装備する

RX-79(G) Ez-8
ガンダム Ez-8

アプサラスとの戦闘で半壊したシロー機だが、回収はしたものの生産ラインの簡便化からパーツが不足していた。そこでGMや簡便化したジオンMSのパーツを用いて補修されることになり、その結果生まれたのが、このEz-8である

■DATA

全高180m(推定) 本体重量53.5t(推定)
武装：固定・胸部バールカン、ビームライフル、ビームサーベル×2

RGM-79 (G) 陸戦用先行試作型GM

陸上用の量産型ガンダムの生産が終了して、宇宙用GMの量産が開始されるまでの期間に作られた機体。そのため両者の特徴が入り混ざっているのがわかる。シオン軍秘密基地攻略部隊の主力として用いられた

■DATA

全高18.0m/本体重量33.8t/武装 オプション・ビームサーベル、ロケットランチャー、100mmマシンガン、ミサイルランチャー

ロングレンジ
ビームライフル

陸軍用に用いられた、長射程のビームライフル。これを装備したGMを、スナイパー・カスタムと呼ぶ。使用には多量の冷却剤が必要である

ビーム
ライフル

宇宙戦用装備

RB-79K ボール

GMの配備が進むまで、連邦宇宙軍が保持する唯一の機動兵器だったボール。いろいろなタイプが存在するが、シローが用いたこの機体は、作業用としての要素が強い

ホバートラック

RX-75 ガンタンク(量産型)

ホワイトベースに搭載されていたものよりも、長砲身のキャノン砲を装備して、火力が向上している

■ホバートラックの車内

■ボール・コクピット (GMと共通)

アイナ・サハリン

アイナにとって兄のギニアスとは、一体何だったのだろうか。だがとにかくも、シローとともに死ぬことを決意したとき、彼女は人形であることをやめた。明るい未来に希望を託して…



(声・井上喜久子)

キョロロト

■下着設定



■子供時代



ギニアス・サハリン

彼にとっての悲劇は、何者も彼の心の支えにならなかったことであろう。それゆえにアプサラスという権柄を作り、その中に自らのしかばねをおさめることになった。自暴自棄とはいえども、不悔としか語りようがない



(声・星水善) (声・星水善)

上履なし

ノーマル
スーツ

ノリス・パッカード

サハリン家と縁を持つ、真面目で一般的な人物。彼の振るグアの弾薬由る戦いには、シローを始め何者も太刀打ちできなかった (声・市川崑)



■ジオン軍制服



ユーリ・ケラーネ

ノリスとは正反対の性格のジオン軍将官。とはいっても、部下思いの点では同じ



キキ・ロジータ

水浴び中に会ったシローに、なんとはなく憧れてしまう姿が可愛い。たぶん、これが彼女の初恋だったであろう。父バレストの死は、そんな彼女に大人へと成長することを強制する



■ゲリラたち

村を襲われることを防ぐため、戦を手に取って戦うことを決意した村民たち



バレスト

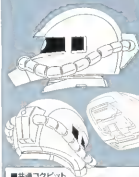
ゲリラを平らげる強面の人物。しかし、娘のキキに対してだけは甘い。ザクの攻撃により死亡した

MS-06J陸戦型ザクII

本機は宇宙戦用として開発されたザクから、アロジモーターなどの装備を外し、さらに各種の改造を加えて地上用に改修した機体。使用される状況に合わせて、多くのバリエーションが存在している

■DATA

頭高17.5m／本体重量56.2t／武装：オプション・120mmマシンガン、280mmバズーカ、ヒートホーク



■共通コクピット



ザクを母体としたジオン軍MSに、共通して使用されているコクピット、食料スクリューを用いているほか副運動も標準と並んでおり、是れ等のものにより高い機動性を誇る。また、MSの運用に際しては、ジオン軍に一日の長がある、ということだろうか



ザクバズーカ&ザクマシンガン
ザクの本来の 宇宙用のもの
とは若干異なる



乗り込み用クレーン



MS-06RD-4 高機動型ザク

テスト用に、プロトタイプの本機の脚部を装着したもの。当然搭載している核融合エンジンも、パワーアップされている。明らかに上半身と下半身のバランスが違ってくる。MSに用いられている技術の急激な進歩を知ることができる

MS-06K ザクキャノン

支援輸送用にザクの肩に大型砲を装備したものだが、この機体は下半身を破壊したためか、戦場内に固定して用いられている

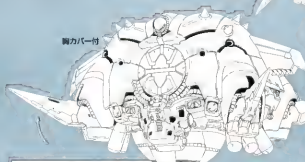
MS-06V ザクタンク

ザクのボディとマゼラ・ベースを使った作業車両。もちろん正義のものではなくて、前線に必要に応じて作り出されたものである

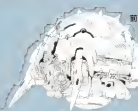


アプサラス

連邦の中核ジャブローに侵攻するため、地上のジオン軍秘密基地で建造が始められていた超大型MA。ただし責任者のギニアスの本当の目的については定かではない。なぜなら建造すること自体が、彼の目的だったようにも感じられるからである



胸力バー付



前



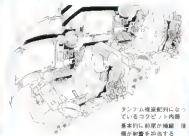
後

肩砲姿勢

ミノフスキークラウドを攻撃から保護するため、両腕に100mm砲を装備している機體を運用した機體時の状態



■コクピット



ランダム機体配列になっているコクピット内部基本約1.0mの距離で機體が制御を可能にする

中央の巨大なミノフスキークラウドが目を引く

下図



格納形態

長い胴部や突起物を機体内部に収納した状態。このままの形態でも、飛行は可能である



下図



横



■コクピット



アプサラス(完成型)

押し寄せる連邦軍の砲撃の中から飛び立った。アプサラスの完成型。主砲やザクの頭部を流用したセンサー部分を除き、実験時とは置くに異なっている



脚部展開状態

連邦軍軍に入ったアプサラス。対応した2機のミノフスキークラウドを操作することにより、巨体にもぐりこめ機動力を発揮する

名話ゲストキャラクター設定

輸送艇乗員

シローたちが乗りこんでいた、輸送シャトルの乗員。シローがボールで出撃するのを止めようとした (1話)



ナビゲーター

輸送シャトルで航海や通達、戦闘などを担当していた、通達所の女性兵士で、訓練兵士も兼任している (1話)

マサド大尉

ノリス大佐の副官で、服の上着の下で銃を隠し、さぞや大変だったであろう。98小隊とザリラの攻撃により撃死 (3話)



Q6小隊メンバー

やさぐれ部隊といった印象の、シローが率いる第6小隊と知り、敵軍基地上空に、派遣するMS部隊のメンバー



グリラたち

パレストの指揮のもと、ノリス軍に対してグリラ活動を望める村民たち。敵軍の攻撃を受けているわけではない (3話)



ノツボ

チビ

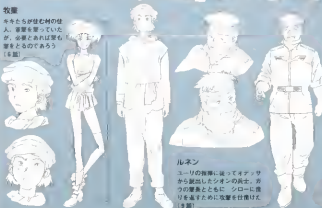
ヒゲ

マリア

ミケムとエドドアをかくまっていた。ジオンの解放下で暮らしていた民間人の女性 (5話)

牧童

キキたちが怪む村の住人。言葉を覚えていたが、必死とあれば言葉も覚えるものであろう (5話)



ルネン

ユーリの指揮に従ってオデッサから脱出したジオンの兵士。オウの乗組とともに、シローに復讐を遂げるために攻撃を仕掛けた (5話)

本来の姿のグリラたち

敵軍襲撃に巻き込まれているが、これが彼らの本来の姿である。反メオンのたが、受けているのはあくまでも生活を守るため、彼らを攻撃する敵軍に対しては、同じく生活は脅かされていない (8話)



トップ

部下のアスとデル
と一緒に、ザウに
来てオデッサ方
面のラオス教団員
(3話)

デル&アス (右)

トップに賛い。キキともの村にたどりついたジョン
兵。デルは温厚な性格だが、アスはモウ
ルを失った悲憤な人物(3話)

ガウの艦長

ユーリの命令で
兵員を満載してオ
デッサを脱出した
ガウの艦長

バリー

ルネンとともに
ガウの艦長が実質
した。ソロ一機、
の攻撃に活躍した
(3話)

ジョン艦長

ジョン輸送艦の隊長
で、基地の兵員に危険
な事態を与えていた
(3話)

ニエーバ

秘密基地でアブラ
ッスの捜索に没頭
していた少年兵

ミデア隊の機長

輸送艦隊長の命令を受
けた機中隊を編成した。
ミデア隊の指揮官(3話)

ジョン軍女性兵

製出機の開発に合
意できないという。
グフに奪ったノリス
の遺体をアテナ
に返した人物(10話)

アリス・ミラー

「ミラーズ・リポート」に登場し
た、連邦軍諜報部の監察官。雲
山で救助されたシローの行動に
疑問を抱いて彼を訪問。無理矢
理答えを得ようとする(劇場版)

ジェイコブ

アリス・ミラーの部
下。同じく「ミラー
ズ・リポート」に登場。
彼女に不審感を抱
かれていた(劇場版)



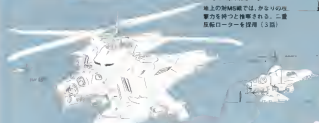
連邦運輸船

第1話でシロー・オミタルたちが乗っていた、連邦軍の人員・貨物利用の宇宙輸送船。非武装で後進用推進器も隠れている



ジオン軍戦艦ヘリ

海上の対MS戦では、かなりの攻撃力を持つと推察される。二重反転ローターを採用 (3話)



ジオン軍輸送船

小形戦艦機のドックと似た独自の形状を持つ。大気圏内輸送機。航空機の設計ノウハウを利かしたジオン軍が、実戦の場にて生み出したものであろう (2話)



ホバーカーゴトラック

非武装輸送車のため、荒地での機動性能が高く、いざとなれば前部足跡に陥作することも可能 (2話)



ドダイ II

従来のドダイの設計を真似て、機力と機動性能の向上がはかられている (4話)



ゲルゲレン

アブラハムの開発を進める研究基地に入会していた。ザンパル機の機動点検機



ガウ攻撃空母

ユーリの命令により、イデッパ近郊の女士たちの救出に用いられた機体。捕獲している (8話)



MSM-Q4 アンガイ

水中に潜んでシローの基地を襲ったものの、右ミサイルレーダーを失っていたが、カレン機を行動不能にする (7、8話)

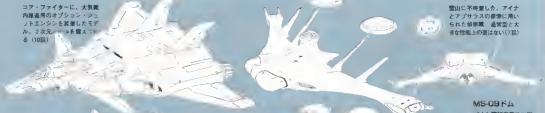
ジェット・コア・ブースター

コア・ファイターに、大気圏内陸運用のオプション・ジュートエンジンを装着したモデル。7次元・コアを載せて6 (10画)



ルグッン

雲山に不時着した、アイナとアプサラスの乗機に用いられた試作機。通常型と大きな性能上の差はない(7画)



MS-04ギザク

李に台ガス集束の最新機を誘う。同機初めにコロニー内作戦の無差別攻撃に用いられた機体



MS-09ドム

ジオン軍補給基地に配備されていたドム。基本的には通常の機体であると思われる(2画)



ガンヘリー

アプサラスとの戦闘で大敗・行動不能に陥ったローのガンダムを改修するために登場 (7画)



MS-07B

陸戦用標準タイプ

連邦軍攻撃隊の前進を阻止するために出撃した。ノリスが搭乗していた機体 (10画)



MS-07H

グフ・フライトタイプ

攻撃するアプサラスに対してに襲撃。しかしフライトタイプとはいっても、その飛行能力はそれほど高くはない(11画)



ガトリングシールド

ノリスが搭乗するタイプの機体に装着されていた。シールドと一体化可能な多銃身砲



ミゼア

MSの定数降下が可能をように、コンテナやエンジンに食糧の搭載を施したタイプのミゼア (9画)



第3話「敵の補給艦を叩け！」

ルナツーに向かうホワイトベース。途中、シャアの乗るムサイ艦が補給を受けている艦に討つて出ること。アムロのガンダムを筆頭に、リュウはコア・ファイター、カイとバトはガンタンクに搭乗して出撃。アムロはザクをひきつけおき、その隙にバトたちが補給艦を撃破した。素人パイロットと思っていた敵のモビルスーツの闘いぶりに驚き、敗北を嘆き補給艦の艦長ガダム。新型兵器とはいえ、素人の操作でここまで戦えることに感念を抱くシャア。悔しいアムロは、またもブライトにダメ出しをされ、腹を立てる。

キャラクターの微妙な芝居が、ドラマにコクを与えていく第3話。セイラとブライトのエレベーター内の会話はおかしい。セイラをちらっと覗き見るブライトだが、神経質で優柔不断な点を露呈させられこんでしまう。「艦長に聞いてみれば」のセイラの一言もキツイ。補給艦奇襲の経緯を語るミライの状況判断の的確さと対比されてかわいそうな感じ。戦うか否かの多数決のときの苦悶の表情も入念。カツ、レツ、キッカという子供がはやって闘いに参加しようとする様子は、巻き込まれた民衆人のやるせないさを感じてしまう。執拗にアムロの闘いぶりを否定するセイラに怒りつつ、フラウの存在に羨望となる気持ちの切り替わりも、あくまで淡々と描くことで逆にドラマを感じさせてくれる。

第4話「ルナツー脱出作戦」

ルナツーに入港したホワイトベースだが、基地司令官のワッケインは避難民の保護を拒否、軍の襲撃に晒れたブライトたちを一方向的にとがめ拘留してしまう。そのころシャアはルナツーに潜入、ホワイトベースとガンダムを奪うべく攻撃を仕掛ける。シャアの仕掛けた機雷の爆発で電子ロックがはずれ、ブライトたちは監視された部屋から脱出。ホワイトベースとガンダムの封印も解いた。しかし、ルナツーのマゼラン艦が機雷のために停止、ルナツーの入り口を塞いでしまった。苦戦を強いられるワッケイン率いる連邦軍。ホワイトベース艦長バオロの機得で参戦を認められたブライトの要求により、マゼランを襲撃させるワッケイン。その煙嵐がザクヤムサイを退けた。なんとか生きながらえたホワイトベースの面々だっ

たが、若者を見守ってくれたバオロ艦長は静かに息を引き取っていた。

脱出作戦ということで、生身の人間が大活躍。キッカとアムロのコンビネーションなどが小気味良い。監禁から逃れたときに並んだアムロたちを見て、ああ5人組（主人公、リーダー、太った人、ひねた人、チビな人）だあとちょっと感心してしまった。生きるのに貪欲なカイに、連戦してるリュウ、神経をとがらせまくるブライトなど、監禁中のそれぞれの過ごし方。ガンダムで戦闘シーンよりこういうところに目がいてしまう。大人の事情が描かれた第4話、ワッケイン少佐は徹底的に「悪い」ヤツに描かれている。艦長の宇宙舞でアムロが行方不明の父に思いを馳せる。やがて来る再会のとき（第33話）を考えると胸が痛む。

第5話「大気圏突入」

ホワイトベースはルナツーから地球に向かう。リード中尉の指揮する連邦艦サラムスのカプセルで、大気圏を突入することになっており、防衛が手薄になるのを狙ったシャアが攻撃を仕掛けてきた。4分間でホワイトベースに戻るというリミットのなか、出撃するガンダムだったが、時間内にホワイトベースに戻れない。大気圏突破の方法をマニュアルからみつけたアムロは、幸くも燃え尽きること回避する。地球に降りたホワイトベースだが、そこはジオンの勢力方面だった。シャアの連絡でホワイトベースを迎え討つべくガルマ・ザビ大佐率いるガウ攻撃空母とドップの艦隊が現れる。

白熱のサイババル戦。大気圏突入しながらのスピーディなメカ戦と、キャラクターの感情の動きの絡み合いが絶妙。「これで何度目なんぞ?! アムロ!」というアムロのシャアに対する率直なあせり。武闘がどんどんなくなって、燃え尽きながらもしれない恐怖。「少佐……シャア……」と叫ぶジョン・パイロットの声。ガンダムが耐熱フィルムをかぶって地球に降りる姿は牛若丸を思わせる? 今観ると、メカアクションなどにけっこう日本の心を添っていた。

今回は孫と老人のエピソードが描かれているが、戦闘に巻き込まれてしまう名もない少年たちなど、ガンダムでは執拗な



エレベーター内の会話
「サイド7に来る前は、どこにいたんです?」に答える必要を求めたらしい? (46分)「宇宙に当たった……初めてなんですよ」「エリートでいらしたのね」「真面目ですか?」「真面目でしよう。ブライトさん」



キッカとアムロのコンビネーション
ルナツーの戦士たちに襲われ、勇躍できないホワイトベースの面々、救出したアムロのセリフアとアイ・コンタクト?に反応。キッカの可愛らしい顔がこれ



30分5人組
特撮やアニメの場面はヒーローものには「8人組の活躍。というのがあり、外見上は「ガンダム」の主要キャラも、無敵の主人公（アムロ）、ひねくれた者のブルー（カイ）、太ったヒーロー（リュウ）、子供のグリーン（バト）、リーダー格のブロンズ（ワッケイン）というキャラクター配置に似ている。しかし、実際はその「ターン」を担っていたことも決まってくる



敵艦突入時の宇宙舞からガンダムを救出する。フィルムは敵艦の機雷に破壊されている。第4話(1)では敵艦が破壊され、必死ガスエアーを放出して機雷攻撃にバリア一つくる。本邦フィールドが破壊した

前戦で捉えた機體が重々しい。カイトを助けに現れた、塵のところに立つガンダムも高き然としている。20年前のアニメ技術の則に、ガンダムは兵隊の巨大感や質感まで感じさせるようなつくりになっているなと改めて感じる。

第9話「翔べ!ガンダム」

清邦軍の一方的な命令にいらだちながらも、海を目指すホワイトベース。物資の不足による食料制限に不満も募り、艦内の空気はぎくしゃくしていた。アムロはそんな環境に嫌悪を感じ、部屋にこもってしまう。ブライトはアムロに怒鳴る。「貴様なら、シャアを越えられと思ったのに」。その言葉に刺激され、接近してきたガルマ軍に立ち向かうアムロ。ロケットノズルの翼射を利用した空中戦を展開。見違えるような闘いぶりを見せるアムロに、ホワイトベースのブリッジは沸いた。一方、自ら出撃したガルマだったが、シャアの乗艦で連携プレーに失敗、ガンダムを取り逃がしてしまう。勝利を収めて帰還したアムロは、補給物資を届けに来たミデア輸送機のマチルダ・アジャン少尉の姿に、心をときめかすのだった。

子供の食事を盗み喰うような年寄りにいらだつ、罵うのもいやになるわ、アムロの精神状態は悪化していく一方。トマトをかじるアムロを見て、「ブレンパワード」にトマトがでてきたシーンと言わせてしまった。童話作品の中で、トマトは安らぎというか生活の象徴なのだろうか？ ブライトともめて心を挫かれたものの、シャアを引き合いにいざれ闘う決心をするアムロに、人は相対する人がいて変わっていかれるんだと思わされる。敗つ切れたのちのガンダムの大活躍シーンは凄々しい。そして、マチルダさん登場。「アナタはエスパーかもしれない」のセリフは、のちにニュータイプへの伏線だったのか？と熱心なファンの間で語られることになる。

第10話「ガルマ散る」

ガルマは、ザビ家の一員としての誇りにかけても、そして恋人イセリナとの想いを全うするためにも、ホワイトベースを討ちたいと思っていた。ガルマー世代の闘いがはじまった。全天候域域内に隠れたホワイトベースの作戦を見抜いたシャアは、わざとガルマをそこへ向かわせた。ガンダムの誘導にの

せられ、ホワイトベースと鉢合わせになったガルマの乗ったガウは、予想もしない一斉攻撃を浴びる。はじめてシャアが自分を陥れようとしていたことを知り、愕然とするガルマ。「己の生まれの不幸を呪うがいい」。ガルマ必死の特技に、ホワイトベースは機体を上昇させて危機を逃れた。ガルマの消えゆく思考の中に浮かぶのは、イセリナの実顔だった。

シャアのやな奴描写の連続攻撃。前回でも、ガルマをうまくいいくるめていた様子が見えに勝たない。ガルマがお人好しすぎたのではあるが、「前編でラブロマンスか。ガルマらしいよ、おぼちゃん」なのだ。誠信機、夜の戦闘、巨大ガウがホワイトベースに迫る光景など、今回はビジュアル的にハデで楽しい。ガルマの計略を聞いて、デギン・ザビが「使者の前で杖を落とす」というというナレーションは、ガンダムならではの独特の濃厚な言い回し。永井一郎さんの声もマッチしている。

第11話「イセリナ、恋のあと」

ガルマ戦死の報を受け泣き崩れたイセリナだったが、復讐を決意しダロク中尉とともに出撃する。ビームサーベルをジャベリンに変型する方法を会得中のアムロに迫り来る、ガウの3機編隊。そこにはイセリナが乗っていた。ガンダム、ガンキャノンが迎撃、ホワイトベースはシャアの乗ったルグガンにエンジンをやられ、砂漠に不時着を余念なくされる。砂漠での闘いとなったアムロらは、ガンタンクも伴ってガウ2機を撃破。最後の1機はイセリナが自ら操縦し、ガンダムに捨て身の体当たりをかける。ガンダムにダメージを与えたガウのcockpitから現れ、自分に銃を向けたのが女性と確認し、衝撃を受けるアムロ。そのイセリナは「ガルマ様の仇!」と叫び、力尽きて砂漠に落ちる。アムロはこの謎の美しい女性を、砂の中に埋葬する。その頃シャアは、ガルマをむざむざ戦死させたことによりジオンのデギン公王(ガルマの父)に左遷を命じられていた。

なぜ「」なのかが、気になるサブタイトル。ガルマ戦死の知らせを聞いてズムシティに集結するザビ家の人々。ギレン、ドズル、キシリア、そしてデギン。みんなすぐく闘がコワイ点



トマトをかじるアムロ
かつて、キングレコードから発売された「機動戦士ガンダム」のドラマCDでは、アムロがトマトにかぶりつくシーンの原案がジャケットを飾っている



マチルダさん登場
セイフと想い出アムロ、いやガンダム、ファンはそこがこれでもあったマチルダ。驚く女性の先鋭的なキャラといえるかも？



シャアのヤバ奴描写
第8話で、おびやかガウの機體に集結するシャア。近距離戦を無視したのに、甲斐とほけるおたりの小僧顔がたまらまさん



シャアのヤバ奴描写
第8話で、おびやかガウの機體に集結するシャア。近距離戦を無視したのに、甲斐とほけるおたりの小僧顔がたまらまさん



シャアのヤバ奴描写
第8話で、おびやかガウの機體に集結するシャア。近距離戦を無視したのに、甲斐とほけるおたりの小僧顔がたまらまさん



シャアのヤバ奴描写
第8話で、おびやかガウの機體に集結するシャア。近距離戦を無視したのに、甲斐とほけるおたりの小僧顔がたまらまさん

シャアのヤバ奴描写
第8話で、おびやかガウの機體に集結するシャア。近距離戦を無視したのに、甲斐とほけるおたりの小僧顔がたまらまさん

アムロの放煙の近くに陣り立ったホワイトベースは、しばしの休憩を取る。その際、アムロは母に会いに行くが生家は母の姿はなく、書ばらった連邦軍の残党がとくろをまいていた。故郷は連邦軍に見放された兵士たちによって荒らされた散乱となっていたのだ。避難民キャンプで働いている母と再会し、喜びを味わったのもつかの間、パトロール中のジオン兵に遭遇。アムロは自分の身を守るために兵を銃で撃つ。その行為がとがめる母。母の愛情を恨み返しにくれるアムロだった。

第12話「ジオンの脅威」

アムロと父を手配に行かせ、自分ひとり地球に残るという考えが既にこの母のどうしようもなさをモノ／＼語っていた回想シーン。久々に会った親子アムロに、母はまたやるせない仕打ちを与える。理められることのない互いの生き方の違いに、ホントウの母との決別をするアムロ。アムロがこれでもかと苛まれる辛い回だ。

という水着のセレクトの差も、普通なら反対じゃないの?という、予想を裏切られた展開として書かれる。

第14話「時間よ、止まれ」

ジオンの前線基地に待機するクワラン艦長ら、若手兵士たちがガンダムを倒す作戰を考案。それは、一人乗りのワッパを使い、ガンダムに時限爆弾を取り付けるというものだった。ホワイトベースに補給を乞う。帰還するマチルダのメディア放送機をザクから奪うため出撃したガンダムに、ワッパがまとわりつく。爆弾を付けられたことに気付いたアムロは爆弾をはずしはじめる。いつ爆発するかわからない爆弾取り外し作業を見守るしかない。ホワイトベースのクルーたち。「アムロ以上にできる人がいて?」。ミライの悲情の言葉に涙するフ라우。しかし、ついに我儘で勝手に手助けに向かうブライトたち。ギリギリのところですべての爆弾を除去することに成功する。その一部始終を見ていたジオン兵たちは、自分たちの作戰を打ち破った本人の顔を確認して確信しよう、と、青年団にならず、赤いアムロの前に現れる。

第13話「再会、母よ…」

順火に降いたちよつとイイ話シリーズ? ジオンの若者とアム



ギンギンと満天の

[illegible]

水曜日のせしごと

ところで、この水筒（キツカたちのもある）やカイのラジカセは、ホワイトベースの備品だったのでしょあ？

口たちの間を通じた交流がある意味でさわやかだ。青年
団に化けたジオン兵に驚くつくブライトも、ニュータイプだっ
たらよかったのという感じもある。

「モルモットはおいや?」のマチルダのセリフや、マチルダに
心引かれるアムロに嫉妬したフアラウが、コートをはいて立っ
ているシーン、肩と血気のバランスを持て余す若者兵の状態で、
ダメージを減らすことを優先に考える人々、そのためアムロ
が人柱となるのをブリッジから見守るホワイトベースのクル
ーたち。「ガンバレよ、パイロットさん」「いいなあ地球の人は
気楽だ」というセリフ等が何かと心をくすぐるこの回は、宮野
監督が唯一、脚本も執筆している。

第15話「ククルス・ドアン」の鳥

連邦軍の緊急信号をとりえたホワイトベース。コア・ファイ
ターで発進地点へとむかっていたアムロは、島の砂浜に落ちた戦闘
機と、しばらくはいる戦闘員を発見したが、突如現れたザクの
攻撃を受け足を失う。島に住む男ドアンや少女ロランから
手助けを受けたアムロだが、コアファイターをどこかに隠され
てしまう。ジオンの兵士だったドアンは、自分が撃った流れ弾
で親を死なせてしまった子供達の面影を、この島で見ていた
のだ。島にきたザクを、モビルスーツの格闘技でしとめるド
アン。闘いから逃げ、子供達を育てようとするドアンの決意を知
ったアムロだが、ドアンに染み着いた闘いの匂いが過激者を
ひきつけるのだと感じ、ガンダムでザクを海中へと沈める。そ
れを見たドアンの中でも、ようやくふんざりがついたようだった。

戦火に敗れたちょっとイイ男シリーズ第2弾? 子供達の戦
を自分が敗ってしまったことへの願いのため、隠遁生活を送
る男と、その男を養う子供たち。註目の元元であるモビルス
ーツを、自分たちを守るために選んでいるという矛盾。そんな
解り合えない戦術をアムロがはう。ガンダムの中では珍しい、
物語的な雰囲気のある回だ。

第16話「セイラ出撃」

マクベの主力部隊を叩く大型作戦オデッサ・デーに参加す
べく、ホワイトベースはカスビ海を渡ることに。その間、海の

補給でカン湖に立ち寄るため砂浜地帯を進行。そこへラン
パ・ラルのギャロップが攻撃をしかけてきた。アムロがガン
ダムで発進しようとする、際にセイラが乗っていた。戦闘にま
ぎれてシャアの行方を知ろうとしたセイラだったが、シミュ
レーションとはあまりにも違う実戦に翻弄される。ザクにメイ
ンカメラをやらされたセイラのガンダムを、ガンキャノンに乗った
アムロがフォロー。そのザクに乗っていた兵士コズンは、ホ
ワイトベースの捕虜となる。セイラはコズンからシャアの名前を
聞き、兄であることも確信する。

ガンダムは従来の箱庭的ロボットバトルストーリーとは趣を
異にした、戦場を移動する、いわば「宇宙戦艦ヤマト」へのオ
マージュ的作品であるといえる? そのため不足する真逆の
軌道という現実的問題にたびたびぶつかる。技術者は修理を
続け、料理長は塩の供給に頭を悩ませるもとにかく。この回は、
セイラがガンダムに乗るのが見どころ。シャアとのミステリア
スな関係にも、いよいよ言及されていくことになる。

第17話「アムロ脱走」

グフ打倒のため作戦を独自に考案するアムロ。監山基地への
攻撃に、ブライトを無視してガンタンクを発進させる。四われ
の身であったコズンは、その合間に脱走を企てるが、追いつ
められて戦死。カイのガンキャノンがグフのヒートロッドに苦
戦、ガンダムに換装して援護するアムロだったが、ブライトは、
ガンダムからアムロを降ろすことを決意、ショックを受けたア
ムロはホワイトベースから降り、軍を脱走するのだった。

相変わらずわかりあえない、アムロとブライト。コズンのあつ
けない死を目の当たりにして「私たちがいていつあがあるか」
とつぶやくセイラ。人生という無情な風景が、涙々と切り取ら
れていく。しかし、その一方でコミカルな風呂敷のシーンも。
とはいえ、アムロのペダは戸惑いもリアルといえはリアルな
のかもしれない。アムロがのぞいた脱衣場にブラがぼしてあ
るシーンって、けっこう夢のない描かれ方だし。

第18話「灼熱のアッザム・リーダー」

ガンダムまで伴ってホワイトベースを降りたアムロは、中央ア



解り合えない戦術をアムロがはう
ドアンのザクを海中に沈めよう
ガンダムアムロ、実況よらば



戦術は解り合えない
コック長のタムラって、鳥屋主
からもらったターニング? それ
にしても、この回が印象的なシー
ンがたまたまだ



セイラがガンダムに乗る
「シミュレーションで完全に見
てはいるつもりなのにー。自分
に勝てないから」って、自分
に勝てないからって自分
に勝てないからって自分



夢のない描かれ方
おそらく、ホワイトベースが作戦
行動（移動）中だったのだ、外に
にすぎないからでしょう。さすが
にコナンランドリーまでは描か
れていなかった?



悔しさでたまらぬ
手袋を脱ぎ、肉體の痛みの覚悟を
通して来るうとムロに、ジオン
兵は罵った。「おや……もし、お前
さんがあのモビルスーツのパイロ
ットなら……信じられんがな……」
パイロットなら、黙に答うと、
命は、いくらあっても足らんぞ」



食堂でのやりとり
機内での食事のついでに、ムロ
の分も注文するハモン、ラルの
「お前は子かおしいのか?」とい
う言葉に「フッ……まあ」と返
すオトノ表情。「敵軍を倒し
たいんですか?」と尋ねるムロ
は、やはりまだ子かおしいのである。
そのあと、星した乗組員は「機
内であつたら、どうはいかんぞ。
運命は、ムロの手に」と語り出す
ラルに、思わず「おんけや、して
返してしまふところも無意味ない



運命のいたずら
こどもを産する母性本能は、若
き日（20歳前後）のラルが抱い
ていた（7巻）を思い出している
ところ、星は一足してセイラを
「おんけ」と呼び、セイラを完全に
星下に対する態度で抱いている



西郷隆盛とターニングポイント
自分が倒したと勘定したジョ
ン、（お前さんでくれ）と手をつ
つ「アムロ、ジオンを倒すしか
ない」と告げやうセイラ、そ
れそれが出たものの事ささく
ラスト、クールな「ガンダム」機
体では、やがていかなる戦場とい
えども戦えない

ジオン機をさまよう。それをバギーで追うフラウ。途中、ムロ
は山の向こうにマ・クベの探査基地を発見、オデッサ作戦で叩
き基地だと確信して急襲をかける。不意をつかれ聞くキシリ
アとマ・クベは、マゼラ・アタックとアッザムで奮起撃つ。アッ
ザムの強力攻撃にからめとられるガンダム。4000度もの高
熱がガンダムを焦す。一瞬の隙をついて反撃に出たムロだ
ったが、この基地は目標の基地ではなかったことを知り、落胆
する。

ガンダムを持って脱走するムロって、すごい固太い神威の
持ち主だ。ガンダムを操縦できる自信に備付けられてしまっ
たムロだったが、それは勘違いだった。敵の大型基地だと
思ったのは単なる探査基地で、助けた兵士からは、逆に侮し
さをたまらぬられる始末。そんな事実が、戦士としてはまだ
まだ若いムロを浮かび上げさせる。

第19話「ランバ・ラル特攻!」

逃亡を続けるムロが立ち寄った食堂に、ジオン兵の一隊が
現れた。それは、ランバ・ラルとそのパートナー・ハモン、そし
て部下たちだ。ムロを気になったハモンは食事をおこ
ろとするが、ムロはそれを拒否する。そのとき、フラウが
捕まえて食堂に連れてこられた。連邦軍の制服を着たフラウ
と知り合いらしいムロに、ジオン兵たちの疑いの視線が。
緊張が走るムロのマントの下に隠された拳銃をみつくなが
らも、見通してくれるランバ・ラル。だが、フラウに尾行をつけ、
ホワイトベースを発見したラルは攻撃をしかけた。援護に向
かったムロは、戦場で初めてラルと向き合うことに。戦いを
終え、再びホワイトベースに戻ったムロは、独房の中で闘う
男としてのランバ・ラルの姿を強く意識していた。

ムロ、砂漠の逃亡者。冒険、訓練風景でムロがホワイトベ
ースに戻ったのか?と思わず、歴史ナレーションにつながった
ときの視覚者の臨場感と、ムロの後悔をシンクロさせる演
出が巧み。食堂でのムロとハモン、ラルのやり取りも絶妙。
シャアの方に懸念する相手に出会ったムロ。男を感じさせ
るラルとの出会いが、ムロの成長を促すことに。また、ム
ロは自立ということをこて強く考えることもなる。その現

れは、ラルのグブと悶たときに「小僧、自分の力で勝つたの
ではないぞ。そのモビルスーツの性能のおかげだと言うこと
を忘れるな」と言われたムロが、20話でマテルダの言葉を
引き合いに出して脱獄するリュウに、「自分の言葉でお説教し
たら」と悔みを返すところに感じられる。

第20話「死闘! ホワイトベース」

ムロの船内は不満を抱き、カイやハヤトまでがホワイトベ
ースを降りようとする。そんな彼らを説得するために、リュウ
はひとひを折っていた。その頃、マ・クベと折合いが早く、
取ように作戦が進まないランバ・ラルは、ギャロップでホ
ワイトベースに特攻をかけることを決意する。ホワイトベース
の中に、ラルの率いるジオン兵が突入してきた。慣れぬ白
兵に苦戦するクルーたち。艦内を駆け回るランバ・ラルはセイ
ラと遭遇、ジオン・ズム・ダイクンの娘アルティシアの面影を
見だして驚く。思わず引いた時に、現れたリュウの銃を受け
深手を負ったラルは自爆。危機を免れたホワイトベースだ
ったが、損失は大きかった。ラルと相撃ちとなったリュウも、漸
死の運命を負っていた。

ランバ・ラルの勇気が描かれた回。実は、セイラとも知り合い
だったという運命のいたずら。セイラの出生の秘密の一端が
明かされる。「アルティシアと知って、なぜ銃を向けるか」の
言葉に不意を付けられ、死に向かうラル。セイラも悲女だ。

第21話「激闘は惜しみ深く」

ラルの遺志を継ぐため、ハモンが立ち上がった。残された兵
を率ってホワイトベース攻撃を決定する。ホワイトベースは
ラルの攻撃で受けた大きなダメージの修復に当たっていた
が、ムロは依然、独房に入れられていた。闇夜をおして艦内
の統一に心を砕くリュウ。そんな窮乏状況下で、ハモン
の攻撃がはじまった。リュウは、自分の責任においてムロを
出撃させる。そしてまた、自らもコアファイターに乗り込んだ。
爆撃の終わったカーゴと、ハモンに乗ったマゼラ・トップには
さまれ絶体絶命のガンダム。その時、コア・ファイターがマゼ
ラ・アタックに突っ込んで突撃口を開く。ガンダムはカーゴを
破壊。しかし、コア・ファイターに乗っていたのはリュウだった。

それそれが己の未熟さを痛感、わが身を犠牲にしたリュウを
想って一行は涙にくれた。

ラルの部隊には理想的なパートナーの関係、上司と部下の関
係があった。死を覚悟で、仇討ちに向かう一行の気持ちほ
とつ。それとは逆に、ホワイトベースではみんなの気持ちが
バラバラ。なんとかそれをまとめようと努めていたリュウは、
結果として命を引き返したホワイトベースの心をひとつにす
ることに、悲劇的なターニングポイントだ。ハモンの乗ったグ
フが、ガンダムに迫るときオケストラが劇的に臨場感を
盛り上げている。

第22話「マ・クベ包囲網を破れ!」

リュウの死のショックと、疲労の蓄積でブライトが倒れる。リ
ーダー不在で困惑するミライ。襲撃を受け、損傷したホワイト
ベースにドップ艦隊が襲いかかる。戦術中にガンダムに変型
することを強いられ、あせるアムロ。さらに、マ・クベの包囲
作戦にひかかったホワイトベースはメガ粒子砲に狙われる。
慣れない戦闘指揮の重圧に苦しむミライだったが、セイラや
マーカに支えられ、なんとか包囲網を突破する。

ブラウのお風呂シーン登場。単なるサービスシーンではなく、
男子がお風呂に入らず、難いに明け暮れている状況との対比
を表すための必然だと思おう? 変身良和の描く女性キャラ
の胸はこぼり、近年の、やたらと巨乳系の高いアニメキャラ
ーを見慣れた目には新鮮だ。ブライトが倒れて、ブライトへ
の依存ぶりが露になるミライ。この頃の彼女はブライトに好意
を持っていた様子。そののち(31話以降)、別の男に引かれ
ていってしまう気持ちの変化を思うと、複雑な気持ちになる。
ブライトに対するミライの執着ぶりに、セイラがクールに対応
する様もおかしい。

第23話「マチルダ救出作戦」

レビル将軍から託されたガンダムのパワーアップパーツを届
けに、マチルダがホワイトベースに向かう。その途中、スバイ
のエルラン、ジュダックの報告を受けたマ・クベが差し向けた
グフに狙われるが、アムロらが救出に現れた。グフの攻撃に

苦戦するアムロに、新パーツ・Gファイターを渡すマチルダ。
足の回路をやらねながら、Gファイターに乗ったガンダムはみ
ごとグフを倒す。

紙飛行機の機う軽さと、グフの重み、Gファイターによるシャ
ープな空中戦が対比されているのでは——というのは考え
ず? カイの「おだてのセイラさん」発言や、アムロがマチル
ダファンのため、はやって救出に出向くくだりなど、軽めの描
写も楽しめる。その後には悲劇が待っているわけだが。

第24話「追撃!トリプル・ドム」

オデッサ・デーに向け、レビル将軍が激々と作戦を進めてい
た。その戦線に参加することになっているホワイトベースで
は、補給に訪れたマチルダとアムロやカイたちがひとときの
交流を楽しんでいた。闘いは破壊だけではなくというマチル
ダの言葉に、アムロは心を動かされる。そんな時、黒い三連
星と呼ばれるジオンの悪戦の勇士たちが、ホワイトベースに
迫ってきた。彼らが操るドムの三位一体の攻撃に、アムロた
ちは翻弄される。ジェットストリームアタックという必殺攻撃
にあわやという瞬間、マチルダの乗ったミデア輸送機が突進
してきた。ドムにコクピットを破壊され、墜ちる機体。マチル
ダの捨て身の援護に救われたアムロは、マチルダを思い、叫
び続けた。

マチルダが「闘いの中で、唯一ものを作る仕事だから」輸送
部隊の仕事をしている、と語るシーンが印象的。そのときの
美しい表情が、彼女の無惨な死の寂しさを強調することにな
る。マチルダを死に追いやった黒い三連星によるジェットス
トリームアタックは、ガンダムの中でも特筆すべきアクション。
BGMと、カット割りのテンポのマッチングが爽快だ。割れた
盾で突進するガンダムの緊張感もすごい。ガンダムがドムを
交わす時の「俺を肩台にしたさ」も名セリフ。90年代後半
に入ってもなおそのインパクトは強烈で、TEAM発掘B-ZI
Nという劇団がある芝居の中で、このシーンのパロディーを
正確に再現、会場をわかせたことがあった。ガンダム世代の
歴長が捧げた愛を感じる瞬間だった。



この瞬間のミライ

思込んでしまったブライトも心配
し、ミライからの伝言をきかずにミ
ライ、セイラがいく「ミライに思
ふのよ。必死に戦いたいんだ
から。助産婦にまかされてはいけ
ない」だそうである。その結果
射撃一ツダアムロは、この瞬間に
機体のメカを付けて戦っている



紙飛行機を飛ばすカイ

最終のシーンで、エンジンを修理
しているアムロたちをきりしめ、
紙飛行機を飛ばしてリボっている
カイ。「前に教習室で習って
ます!」というバカバカしいやり
かたで、ミライを「誘惑」して、ミライ
と「さ」などと、人を誘はすような
無邪気な態度でバカバカにさら
しあふれりする



ジェットストリームアタック
ジャイアント・バズやビートワ
ーベルを手にした激戦のドムが、
機体のオーバーヘッドをふりか
けるように移動しながら突進。
先頭の1機が相手の注意を引きつ
けている間に、すくしうに動く第
2、第3のドムが攻撃を仕掛ける
という、黒い三連星が得意とした
戦術「フォーメーション」。アムロ
は直前のドムを撃ち倒して飛び
逃げることで、これを打ち破った



本編でミライを助けた後、ガンダム
アムロの機体としてのものである
エピソードだが、それ以上マ・
クベという男の存在、機体さが
あったと思える

第25話「オデッサの激戦」

ついにオデッサ作戦が開始された。仲間をくした三連星の残るふたり、ガイアとオルテガは、マッシュの仇を討つため赤木ワイバースに再び挑む。同じ様、レビル将軍配下に進むスバイがムロとセイラにより発見された。戦況不利とみたマ・クベは、南極条約で禁止されている水爆ミサイルを発射、ムロはその処理を命じられ、みこに核実験の危機を回避。そして、オデッサ作戦は連邦軍の勝利に終わった。

水爆ミサイルを開発させないように叩き斬るガンダム。第1話で、ザクのエンジンを開発させて失敗したアムロとは逆のパターンだ。しかし、できるわけないことを次々と強られるアムロ。研ぎ込まれていくのも無理はないのか、アムロだからできることなのか? のちのニュータイプへの目覚めに繋がる開眼のような気もする。

第26話「復活のシャア」

ネシリアに呼ばれ、前線に復帰したジャアはマッド・アングラ
艦隊を率いて、アイルランドの補給基地に降り立ったホワイト
ベースを追う。ジオンの新型、水陸両用モビルスーツ・ゴッグ
がガンダムを襲う。Gボールに変型したガンダムに手こずったゴ
ッグは、海中へと誘い込む。水中用ではないガンダムは、不利
な戦いを強いられることに。

爪が特徴の水産用モビルスーツ登場。戦場が海中にも広がる。そして、なんといってもシャアの復活が心をときめかせる。マッドアングラー艦のサメ屋のデザインは、ちょっと子供っぽい気もするが、いかがなものか？

第27話「女スパイ潜入！」

ホワイトベースの一行は、レビル將軍から全員が軍醫の一員に組み込まれることを受諾するよう伝えられる。それに反発したカイは艦を降りる。港で出会ったミハルという少女の家に転がり込んだものの、彼女が獣のスパイだと知ってしまう。幼い妹や弟を養うため、そんな仕事をしているミハルに同情したカイは、ホワイトベースの情報を提供する。ミハルの報告を基に、ホワイトベースに攻撃をかけるシャ、ゴッグズゴッグ

ツクに苦戦するハヤトの姿を見たカイは、ガンタンクに乗って助けに出る。再び水中戦に持ち込まれたアムロは、海面におびき寄せて反撃。敵を叩くことに成功する。

カイの人気があがったストーリーの前半。女スパイ・ミハルとの交流を通して成長するカイの姿を描く。カイというキャラクターは当初から、わかりやすいように実は描きにくいキャラクターだったのではないだろうか。皮肉屋で、生きることに貪欲で、そのために敵味方よばわりもされるアウトロー。徹底的にやな奴に描くか、狂言回し的に使うのが、なんとなく図によってバラツキがあったように思えるのだが、このシリーズで確定されたようだ。

第28話「大西洋、血に染めて」

シャアの命令でホワイトベースに潜入したミナル。それを見つけたカイは彼女をかきまぐろが、ミナルの活した真顔で、ホワイトベースは危うに陥った。シャアの攻撃に苦戦するアムロやセーラ。反省したミナルは、カイとともにガンバリーに乗る。機械の故障からミサイル発射がコンテナの外からしでかさないのを知り、ミナルはコクピットの外に出るが、ミサイルの爆風で海に飛ばされてしまう。意識醒れたるカイに、ミナルの幻が現われる。「いつまでもこんな世の中じゃいないだろう」

カイ成長編の後半。でも、こんなにいい男風に描いてしまっ
ていいのか?と思うほどイイ話すぎる気が。よくよく考えてみ
ると2人とも浅はかなのよねえ、と笑えるくらいなのが丁度い
いのではないかと本人になった今は思えたり。

第29話「ジャブローに敵る！」

ミハルの死によりカイは何かをふきつたように、悪人としてホワイトベースで闘う決意をする。一行は、大西洋からジャブローに進行、ジャングルに隠された基地に入港した。そこには、マチルダの婚約者ウッディ大尉が待っていた。マチルダが命をかけた艦に特別な入里入れを見せるウッディ。その頃、ジャブロー最大の基地の入り口をみつめたと言ふジャアは、すかさずゾク、ゾクで襲ってきた。アムロは、赤い色のズックに出会い、ショップで買ったのだと確信する。ブラックを感



シヤアウツ

なんと、1クール(13話)分の
 blanksを占めての再登場。しか
 も、最初はマッド・アングラーの
 前編しのロング・ショットで、次
 はシーランスに向かう走る彼のシ
 ョットと、ちょっとした事ごと！



食生活改善・肥満防止

異人たちの活躍をみながら、生活のためにジョンのスパイとなった少女。タイトルとは裏腹に、プロのスパイではないところが作り手の巧みである。なお、連続員として上原し、ミハルに金ま遺していたコノリは放映当時、官庁検閲官がモデルでは……と話題になったキャラクターだ。



乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸

人の神経を逆撫でするような、種まれ口ばから叩いてきたカイが「わかってるよ。無理強いのものさ——。俺を思ってたなんてウソだってこと」とミハルをいたわるあたりの心情がやるせない。「いつまでもこんな世の中じゃないだろう?」という、ラストのミハルのセリフも胸を打つ。



1. 1990年10月1日現在の人口は、約1億2,000万人である。

かにもなマサチヨ・タイプというところに着目。「ガンダム」の男主人公（東野監督のパートナー）が、こんなところにも顔をのぞかせている。

じさせない、相変わらず鋭いシャアの攻撃に苦戦するアムロ。その2巻の間に、ウッディの乗った対モビルスーツクラフト・ファンファンが突っ込んできた。スゴックのメインカメラを破壊したものの、シャアに勝てるわけもなく無惨にファンファンはたたき落とされてしまった。押運したアムロの「シャアが帰ってきた」という言葉に、セイラは動揺を隠せなかった。

マチルダの婚約者ウッディ大尉登場。ウッディ役の田中秀幸とマチルダの芦田恵子は、のちに「イデオン」でもカララとベスという恋人役を演じることになる。恋人が大切にしたいものは、自分にとって大切という思いこみに「男の人ってそういう考え方するのよね」と理解を示すミライの男性意識はいったい? それにしても、ミハルといい、ウッディといい、なんだが異常な愛を感じる死に方。あっけない死というのとはまた違い、置かれたかもしれないのに、間が短い死というのが必ずあるという事実をズバッとつきつけてくるガンダム。そういう間の隙を区切る能力への欲求が、人をニュータイプに導くのかもしれない。

第30話「小さな防衛戦」

各自辞令を受けるアムロたち。これで正規に軍隊に組み込まれることになったのだが、気にかかるのはカツ、レッズ、キッカの存在だった。施設に連れて行かれた子供たち3人は、ホワイトベースを恋しく思っただけで脱走をはかる。ガンダムの量産型GMが開発されている工場に紛れ込んだ3人は、偶然にもシャアがはなった機体工作員に遭遇、とらえられてしまう。必死に機をほどいて時限爆弾を回収、バギーに乗って外へ飛び出す3人。途中、アムロたちと出会い、爆発寸前で爆弾を捨てることに成功した。その頃、射撃した3人を押していたセイラは、シャアに出会う。ついに生き別れた兄、妹と確信し合うふりだったが、ミライが隠れたために再会はあるの一時で終わる。ジオンのGM機体作戦を阻止した活躍により、ホワイトベースに残ることが認められた3人を乗せて、ホワイトベースは再び宇宙に出発。しかし、運翔が使らに与えた使命は果たった

お子さま大活躍の巻。珍しくコミカルな描写も多く、宇宙間へ向かうに当たっての暫時的な固執かと思いがちだが、実は

この回のキッカたちのめざましい行動は、ニュータイプ、さらには最終回への伏線らしく、見逃せないエピソードなのだ。

機動戦士ガンダムⅠ

宇宙世紀0079。連邦軍とジオン軍の戦争の最中、少年アムロは、MSガンダムのパイロットとして否応なく闘いに巻き込まれていく。映画パート1は、サイド7からホワイトベースが地球に降り立って、アムロが母と再会そして別れを体験し、砂漠で戦闘を続けていくまでの総集編。/パート1に関しては、説明的なダイジェスト色が強い。ルナツーでのエピソードはカットされている。サイド7襲撃から闘いに追い立てられる様がテンポよく訪れ、「いつの間にか戦争させられて」というアムロのつぶやきにも説得力が感じられる。マチルダが、テレビではアムロをエスパーにたとえていたが、映画版ではニュータイプについての語りに変更され、ストーリーがニュータイプをテーマに進んでいるという点でテレビより明快になっている。アムロの母の声は倍賞千恵子が登場。

機動戦士ガンダムⅡ「裏・戦士編」

砂漠のイメージの劇場版パート2。ホワイトベース一行がオデッサ作戦を経てジャブローに入港、宇宙に飛び立つまでを描いている。/ランバ・バル、黒い三連星、マチルダ、ハモン、リュウ、ミハル、ウッディ大尉（声が田中秀幸から岡部政明に変更）など、アムロたちと一瞬関わり、闘いに敗っている人々の姿を、流れよくそつなくまとめてみせる。ジャブローでのシャアとの再会の戦闘シーンで井上大輔の主題歌がかかるが、SEと音楽と絵が絶んで生まれるロックオペラを観るようなグルーブ感を受ける。ガンダムの中の音楽の関わり方は要注意点だと思う。チェック事項としては、前編にも増してところどころでニュータイプについて語られるシーンが増えていること。ファンには気になる新作カットも、前作よりは多め。マチルダ、ミハル、キャスバルとアルテイシアのカットなど、ファンサービスな部分に力が入る。テレビ版では、宇宙にでてから語られるミライのエピソード、婚約者やスレッガー中尉との恋に関して、前ふりもされているのもテレビファンには嬉しいところ。



お子さま大活躍

「ガンダム」が、従来のアニメの面白さを十分に継承しながら、それをさらに一歩も二歩も進めたいことは、こういったカツ・レッズ・キッカの描写を意図しているよう。星なるギャグメーカーの登場だけで終わらせてはいないのだ。



劇場版の新作カット

1作目はTVシリーズの1〜13話を再構成したもので、新作シーンは基本的にTV版を参照しながら描かれた。サイド7でのガンダムとザクの戦い、ザクがやってくるドッグの戦いのマーク・シン、リュウにさらわれるアムロなど、絵と声は多くないが、ディテールが細く加えられた。映画の大画面にふさわしい描写で、いかに制作陣に選んだものがほとんどである。

2作目は同じく16話〜31話までを再構成。戦闘シーンの過剰でストーリーを割っていくという、劇場版の傾向。一連の劇場版の編集がクニツギがフルに貢献された内容になっている。マチルダやランバ、タムの死をはじめ、少年期のシャアが描かれるセイラの回想、立派な乗ったジャブロー襲撃など、新作シーンは空想にわたって描きこみ、お力に代わってコア・アスターが活躍する点も、TV版との大きな相違点だ。

第1話 二人だけの戦争

宇宙世紀0078。連邦軍軍人シロー・アマダ少尉はサイド2より地球に向かっていた。目的は、ジオンとの戦争に参加するため。途中友軍の危機を知り、初の実戦を経験。宇宙空間に放り出され敵の女兵士・アイナと運命的な出会いをする。互いの救助が来るまで、ひとまず協力し合うふたりだったが、やがてまた敵として別れていく。ほのかな心のふれあいの余韻を残して……。

ファーストガンダムの時代のサイドストーリー。一冊の注目点は、ギレンの演説が流れるシーン。宇宙世紀0079の時と同じくして、別の戦場である演説を聞いていた兵士たちがいたのだという物語だ。ここでの主役は初めて実戦を経験する、ちょっとアツい青年シロー。彼は、いきなりアムロとラファバリの運命的な出会いも体験してしまう。サンダース軍曹の「また戦場所がなくなっちゃう」とか「この少尉なら、俺のツキも変えてくれるかもしれない」という意味深なセリフが気になる第1話。ナレーションはない。ミケルの手紙が解説代わりか？

第2話 密林のガンダム

いよいよ地球に降り立ったシロー一行。密林の部隊、第8小隊に兼任する。ここでの目的は、防衛戦を突破し、秘密工場を持っているらしいジオンを叩くことだった。シローは隊長として「絶対に死ぬな!」と部下たちに語り、勇んで、ガンダム(鋼産型)に乗りこむ。しかし、宇宙育ちのシローに地球での闘いは、まったく勝手の違うものだった。

この物語では、地球と宇宙の違いが打ち出されている。確かに、重力の違いや自然の驚異など、コロニーでは体験できない部分は登場には克服されないことだろう。そこをファーストのときよりもていねいにすくいあげているのがおもしろ

い。シローに関しては、はじめて持った自分の部隊に「絶対死ぬな」と言うストレートすぎる責めは、カレンやサンダースでなくとも苦味のものだけど、この責めがほんとに全篇をひっぱっていくとは思わなかった。後半のアイナとの展開にいたっては、ギャグなのか?と思うくらいギリギリの1本気ぶりだ。

第3話 信頼への限界時間

だいたい地球での闘いに慣れたシローは奇襲作戦を計画、ひとり川沿いに向かう。約束は3時間後、ところが、向かった地でゲリラに捕まってしまったシローは、3時間経っても行動に移れない。あせするシロー。ゲリラの村をジオンから解放する約束で、ゲリラの協力もあおぎ、辛くも作戦遂行が成された。

2話で語られた民間人のゲリラのお話。シローの単純パワーが人をどんどん巻き込んでいくんだなあって感じ。ところで、カレンの声が、キシリアの声を担当した小山菜美なのとサンダース軍曹はスレッガー中尉の玄田哲郎だというのがちょっとうれしい。もうひとり、妹のあるオヤジ・ジダン大尉が永井一郎さんだというのも忘れてはいけないキャストिंगだ。

第4話 頭上の悪魔

シローの部下サンダースのお名前は死神サンダース。彼のいる部隊はいつも3度目の戦闘で死滅するというジンクスによるものだった。そして、第8小隊も次が3度目の出撃を迎えようとしていた。一方、シローと別れたアイナは、兄ギニアスの発明兵器アプサラスのパイロットとして開発実験に尽力していた。そのアプサラスが第8小隊3度目の出撃の相手だった。サンダースをはじめ、仲間連はジンクスを破るために巨大な敵に立ち向かっていく。

1話から軌跡に匂わせてきたサンダースの過去の謎がいよいよ明かされた。つまり、このストーリーは運命にあらがう人たちのお話なのだ。ジンクスなんかには負けない。ロミオとジュリエットのようなラブストーリーも待っている。

第5話 破られた待機命令

第8小隊の員一・エドアは軍人になるまではミュージシャンという経歴の持ち主。彼の曲がODになるという朗報を聞いたエドアは、喜びのあまり仲間のミケルを連れて酒を飲みでにかけ、運悪くジオンに捕らえられてしまう。脱獄の恐怖におびえるエドアとミケルだったが、今度は運良く脱走に成功、途中みつけた工場のザクタンクに乗り込み、決死の逃亡劇を繰り広げる。

中間は、各キャラクターにポイントを聞いたストーリーが精く、エドアがミュージシャンであるという描写は、録音台本等ではずっとヘッドフォンをしているなどという描写もあったが、カットされることが多くて、ここでやっと明確になったようだ。監禁されたエドアとミケルのせっぱ詰まったキレ方が笑えるし、それが作戦でもなんでもないので、偶然それが戦いのきっかけになるというのも、ある意味爽快な展開といえそう。

第6話 熱砂戦線

第8小隊は、ジオン軍射撃場と推定される地点に確認調査に向かう。そこは砂漠地帯で、行動に不便なところだった。烈熱の害な作戦が、心身ともに重宝しているメンバーをさらにおいつめる。次第に尊立ちが暮る面々、サイド2に残してきたガールフレンドに思いを馳せるミケルや、シローにほのかな恋心を寄せるが伝わりぬきキキが、シローの冷たい人性を責める。そのとき戦闘がはじまり、シローはアイナの乗ったアプサラスに体

当たりを散行する。

砂漠のお話。密林から一転風景が明るくなった。この砂漠のつながるところでアムロも放浪していたのかななどと思ひながら見る。恋するミケルとキキの行動から、わからなかった自分のアイナへの気持ちを気付かせられるシロー。折しもアイナの乗ったアブサラスと遭遇するという流れがにくい。サンダースの不器用な風貌もいまい感じ。全体的にストレートな作風の中で、水の入ったカブを飲むのではなく、無に当てる水の冷たさや味やキキの仕草はちょっとイイ芝居だと感じた。特典映像で、宇宙世紀余話というショートストーリーが入っている。今回は、ジオンが連邦に宣戦布告したときのエピソード。

第7話 再会

アブサラスとガンダムは、山脈で運搬。調と味方の垣根を越えて生き延びるために力を合わせる。アイナに恋をしていることを自覚するシロー。そしてアイナは、アブサラスの自爆スイッチを押す。戦艦が来て、ふたりはまた別れていく。これが戦争なのだと実感しながら。

どうやら、第8小隊やアイナのいる部隊もオデッサ作戦に関係しているらしい。さて、またも連闘して、サバゲルするシローとアイナ。いきなり(?)「好きだー」っていうシローにびっくりするが、この人はそういう人なんだと、ずっと描かれてきていた気もするので、よしとする。ほめ言葉に「博多人形のような」というのもあるけれど、「人形みたいだ」って女の子に言うかな。それが、アイナの兄ギニアスとの哀しい因縁を思い出させ、悲しい運命の物語の予感を匂わせる。

第8話 軍務と理想

救助されたシローは、軍法会議にかけられる。た

とえ敵でもわかりあえる人はいると主張するシローに下されたのは、自室謹慎処分だった。助け出されたアイナの顔への思慕を見抜いたギニアスは、いらいら、その上、夢のアブサラス計画を中止の命を聞き逆上する。その頃、ジオン軍が食料を求めてキキのいるグリラの村を襲っているという情報を聞いた第8小隊一行は、命の危ないまま村を救いに向かった。

アイナとの恋にめざめたシローは、敵を撃つことをためらうようになる。「青い理想論」とズバッと言いつ放たれてしまうが、それでもシローの気持ちは変わらない。ノー天気なヒーローかと思ったら、やっぱりうしろしめしたものでイライラ。

第9話 最前線

シローにスパイの疑いをかけられながら、第8小隊は敵基地の情報を得るために行動していた。途中カレン機はユーリ率いるガウ機と遭遇。最しい闘いがはじまる。援護事件で負った重傷をカレンに療われて以来、彼女に思いをよせるエレドアは、ピンチのカレンを救う。宇宙に、闘いの希望を託すユーリだったが、ギニアスの策謀にかかり、去半ばで別れる。

科学者ギニアスの狂気が噴火してくる回。冒険と、いよいよ最初からアヤシイ男だった。ジャブローの激戦と重なっているエピソード。レベル將軍、無理な約束など聞いたことのある言葉もさりげなく会話に登場してくる。カレンとエレドアのエピソードから、ミケルがひとりホバーで走ってるオチに至るまでも楽しい。唇が重くなってきた中で、こういう細かい芝居が挿入されているのはホッとする。映像特典・宇宙世紀余話の6話め。サイド7でアムロがガンダムに乗った話を客観的に観ている。0079年9月18日の話なのだそうです。

第10話 震える山(前編)

戦闘は激化していた。アブサラスを完成させるギニアスと、ケルゲレンで脱出をはかろうとするアイナ。彼女の親代わりであるノリスは、彼女のために突破口をひらく。そこで奇しくもアイナの想い人シローと対面することにもなるのだった。

戦闘シーンがとてモリアル。フィギュアがゾラマの中で動いているみたいにとときどき見える。珍しい街の中での闘い。構図や動きがかっこいい。恋で悩むアイナって、イデオンのカラウみたい? 映像特典・宇宙世紀余話第7弾。星1号作戦の経。ドスル中將のソロモン防衛戦のエピソードが描かれる。12月24日のお話。

第11話 震える山(後編)

愛のため(?)小隊を抜ける決心をするシロー。その間にも闘いは続く。アイナは、怪我人を前線から脱出させるという理由で一時的休戦を申し出る。これが私の闘いなのだ。しかし連邦は、果敢な手段で取組をしかけてくる。怒りに燃えながらも闘いをやめようとするアイナをギニアスは撃つ。アイナのもとへ向かうシロー。残された第8小隊一行は?

ものすごい闘いで、唇が悲劇に転がっていく。兄と妹と、敵の恋人。最初は軽い感じの展開だったし、宣戦布告がそれほどタッチしている作品ではないのに、やっぱりシェイクスピアっぽい因縁話に陥落していくところがおもしろい。運命にあらうという意味で、シローとアイナは恋を全うしていくのであろうし、ギニアスも、愚かな選択ではあるけれど、自分の信じた道を貫いたわけだ。アムロたちがニュータイプだんだんと思ひている。ちょっと増でこんな物語もあったんだなあっていうのは、けっこう興味深いものでした。

Mobile Suit Gundam Filmography

機動戦士ガンダム (TVシリーズ)

NO	サブタイトル	シナリオタイトル	脚本	演出	総コンテ	作画監督	放映日
01	ガンダム大地に立つ!	モビルスーツ	星山博之	貞光紳也	岸谷隆	安彦良和	'79年4 / 7
02	ガンダム破壊命令	赤い彗星	松崎健一	藤原良二	岸谷隆	安彦良和	4 / 14
03	敵の機動艦を叩け!	攻撃	荒木芳久	小島英吉	岸谷隆	安彦良和	4 / 21
04	ルナツー脱出作戦	密航! ペガサス脱出不能	山本博	貞光紳也		星沢和雄	4 / 28
05	大気圏突入	大気圏突入! 3分前	星山博之	藤原良二	岸谷隆	貞藤万雄	5 / 5
06	ガルマ出撃す	激戦! わが大地いすこ	山本博	小島英吉	山崎和男	安彦良和	5 / 12
07	コアファイター脱出せよ	決死の脱出前夜	荒木芳久	藤原良二		安彦良和	5 / 19
08	戦場は荒野	この地上のどこにも	松崎健一	貞光紳也		山崎和男	5 / 26
09	翔べ! ガンダム	現われた救世主	星山博之	小島英吉	岸谷隆	安彦良和	6 / 2
10	ガルマ敵る	壮烈! ガルマ敵る	山本博	藤原良二		安彦良和	6 / 9
11	イセリナ、恋のあと	想えつきた恋の虹花	荒木芳久	貞光紳也		大泉孝	6 / 16
12	シオンの臂威		松崎健一	横山祐一郎	岸谷隆	中村一夫	6 / 23
13	再会、母よ	アムロ、母との再会	星山博之	藤原良二		安彦良和	6 / 30
14	時間よ、とまれ	時間よ、とまれ!	星野敏幸	貞光紳也	岸谷隆	山崎和男	7 / 7
15	ククルス・ドアン之星		荒木芳久	岸谷隆	貞光紳也	鈴木一行	7 / 14
16	セイラ出撃	シルクロードに道路をとれ	山本博	岸谷隆		貞藤万雄	7 / 21
17	アムロ脱走	アムロ脱走!	松崎健一	藤原良二	岸谷隆	安彦良和	7 / 28
18	灼熱のアッザム・リーダー 破壊の道		松崎健一	貞光紳也		中村一夫	8 / 4
19	ランバ・ラル時夜!	旗の前で見た敵	星山博之	行田進	岸谷隆	安彦良和	8 / 11
20	死闘! ホワイト・ベース	ホワイトベースの死闘!	山本博	藤原良二	岸谷隆	星沢和雄	8 / 18
21	激闘は増しみなく	増しみの果てに	荒木芳久	行田進	岸谷隆	山崎和男	8 / 25
22	マ・クハゲ画紙を破れ!	ホワイトベース大壁	松崎健一	貞光紳也		安彦良和	9 / 1
23	マチルダ救出作戦	マチルダを救え!	星山博之	藤原良二		中村一夫	9 / 8
24	追撃! トリプル・トム	追撃! シオンの黒い三連星	山本博	関田修	岸谷隆	安彦良和	9 / 15
25	オデッサの激戦	裏切りの報道	荒木芳久	貞光紳也		星沢和雄	9 / 22
26	復活のシャア	シャア復活	松崎健一	藤原良二	岸谷隆	安彦良和	9 / 29
27	女スパイ潜入!		星山博之	久野弘	岸谷隆、久野弘	山崎和男	10 / 6
28	大西洋、血に染めて	海面下の敵	山本博	関田修	岸谷隆	中村一夫	10 / 13

NO	サブタイトル	シナリオタイトル	脚本	演出	絵コンテ	作画監督	放映日
28	ジャブローに魅る!	アマゾン叢地の遊戯	坂本秀久	貞光紳也	斉谷信	安原良和	'79年10/20
30	小さな防衛線	小さな戦術者	山本亜	藤巻良二	藤巻良二	安原良和	10/27

制作スタッフ

	日本セライズ		声の出演		
原作	久石康	矢野龍溪	斉藤 扶	プロット	高田正孝
監督	富野喜幸(現・山登孝)	矢野龍溪	谷本実和子	スクリプト	白石冬美
キャラクターデザイン	安佐真由	アニメーション	木村哲子	シナリオ	板垣らみ子
メカニカルデザイン	大河弘邦男	機軸設計	田中美和子	演出	岸上雄一
美術設定	中村良毅	成音	松山典子	セリフ	吉川志保知
アニメーションディレクター	安室良輔	高山 節	加藤はるみ	カット	鈴木清信
総監修	富野喜幸	原田秀明	松浦ゆかり	絵コンテ	リュウ
音楽	渡辺岳人	松田祐生	青柳陽子	演出	飯塚厚史
	松浦祐一	小森他	市ノ宮 昌	カット	白石冬美
主題歌		小林久寿	古坂博子	シナリオ	朝桐みづ子
挿入歌	水産にアムロ	矢野 了	森下 繁子	キヤプ	井上雄二
作画	片島麟	配野 郎	鳥根桂子	ハコ	井上雄二
作画	浅沼新夫	アート・テイタワン	宮内はれみ	オスガ	池沢兼人
編集	松浦祐一	東条茂母	堀江 敏	マーカ	猪俣幸男ほか
歌	池田通	前田裕子	甲斐知子	ジョブ・ジョン	鈴ヶ崎弘治ほか
プロデュースー共同制作(名古屋テレビ)		近江朝紀	相良剛子	オムル	吉岡肇夫ほか
人物制作(透過エージェンシー)		加藤明美	保々水金子	マナトルダ	八田照子
演出協力(日本サンライズ)		アブラ	井ノ端方紀子	レベリ	池田勝
制作	名古屋テレビ	流道殿	金子広海	シヤア	池田秀
透過エージェンシー		流道子	大庭ミチ子	ガルマ	森田千
日本サンライズ		アイプロ	梅崎春日	キシリア	小畑猛子(実美)
作画	スタジオジブリ	流道	春日政良	デギン	田中強(河野力夫)
		長崎町志	寺岡忠良	ドレン	反橋芳夫(榎戸光輔)
		シャフト	早川真人	ランパラル	永井 郎
		森田政子	滝口順彦	ハモン	永井 郎
		鶴岡了	鮎川基樹	クランプ	池沢兼人
		内成たみ子	八木岡秀美	マ・ババ	池沢兼人
		浅野千鶴子	神田香	ウラガン	「怪盗」
		増田富士	深田静香	ケムレイ	清田文孝
		長谷川悦子	越後ユヅク	バネロ	窪注 威
		森本雅彦	特務隊員	ワタゲイン	曾我部純行(和恵)
		古賀多美子	陰影	イセリナ	衣田哲哉
		宮里 英	斎藤純男	ミナル	堤順平史
		松月 美	宇田淳之	マリガン	塩沢兼人ほか
		加藤紀子	崎野友彰	ナレーター	永井 郎
		赤間千由	小谷地文男		
		菅野元子	東京親衛所		
		古田忠	岩瀬直所		
		加藤 誠	(オーティン・プランニング・ユー)		
		長谷川悦子	造筆		
		豊原裕子	夢音		
		デービー	鎌倉 録		
		長谷川悦子	説話制作		
		漢江敏雄	アシスタント・プロデューサー		
		仲皮馬			
		浅藤ひとみ			
		矢部達			
		角田きみ子			
		南川和子			

テレビ朝日系(1979年11月7日～1980年1月26日)放送

テレビ朝日系(1979年11月7日～1980年1月26日放送)

VISUAL/SOUND/NOVELS

Guide

Text by OSAMU NAGASHIMA

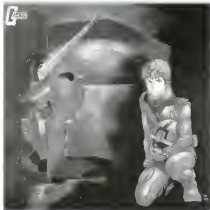
協力・資料提供 ハンタイビジュアル社
キングレコード様

LASER DISC

「機動戦士ガンダム」メモリアルボックス Part-1

第1話～第22話収録 6枚組 3万6000円(税別)

1993年12月にて全巻終了



DISC1 第1話～第4話収録



DISC2 第5話～第8話収録



DISC3 第9話～第12話収録



DISC4 第13話～第16話収録



DISC5 第17話～第20話収録



DISC6 第21話～第22話収録

「機動戦士ガンダム」メモリアルボックス Part-2

第23話～第43話収録 6枚組 3万6000円(税別)

1993年12月にて全巻終了



DISC1 第23話～第26話収録



DISC2 第27話～第30話収録



DISC3 第31話～第34話収録



DISC4 第35話～第38話収録



DISC5 第39話～第42話収録



DISC6 第43話、映像特典収録

「劇場版 機動戦士ガンダムI〜III」



<劇場版>機動戦士ガンダムI 7573円(税別)



<劇場版>機動戦士ガンダムII 哀・戦士編 7573円(税別)



<劇場版>機動戦士ガンダムIII めぐりあい宇宙篇 7573円(税別)

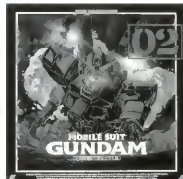


<劇場版>機動戦士ガンダム マスターグレードボックス
期間限定商品のため現在在庫されていません

OVA「機動戦士ガンダム第08MS小队」各4660円(税別)



1巻 第1話「二人だけの戦争」
第2話「密林のガンダム」



2巻 第3話「西郷への限界時間」

1979年にTVシリーズが放映され、後の劇場版I〜IIIで大ブレイクした「機動戦士ガンダム」。それだけに多くのCOやLPがリリースされ、ノヴェライズも早期に出版、近年ついにLO-BOXも発売された。

まずLO-BOXだが、これは「ガンダム生誕20周年」を記念して発売された、ファン待望の初のTVシリーズ全話をビデオグラム化したもの。PART.1と2に分かれ、PART.2発売から1年間の期間限定商品。BOXアートを安彦良和、各ジャケットを塩垣浩司、川元利浩、佐野浩敏、杉浦幸次が描き下ろしている。

また劇場版3部作も2度にわたってLO-BOX化されている(うち1度は「機動戦士ガンダム逆襲のシャア」も収録)。ただしこちらも期間限定商品だったため、すでに入手は困難で、現在は劇場版I〜IIIを個別に収録したものだけの発売になっている。ちなみに最近になって発売された「Mastergrade Box」はBOXアートをカトキハジメが、ジャケットを川元利浩と佐野浩敏が描いている。また個別収録のものは1作目のジャケットをカトキハジメ、2作目「哀・戦士編」と3作目「めぐりあい宇宙編」を安彦良和が手掛けている。

この他に、今回掲載したシリーズとして「機動戦士ガンダム第08MS小队」がある。「ガンダム」のサイドストーリーとして扱われたこのOVAシリーズは、本編10巻(第1巻のみ2巻収録)+エピソード編1巻+劇場版1巻で構成されており、現在エピソード編を除くすべてが発売中。こちらのジャケットは杉浦幸次、川元利浩、津野田勝敏等が描いている。

ノヴェライズは全3巻構成で、当初は1983年に朝日ソノラマから刊行、現在は角川書店からの発売になっている。もちろん全巻を原作・監督の富野由悠季(当時・香季)が自ら執筆しているが、映像とは異なるドラマが展開されており、非常に興味深い。これは第1巻の発売時に続巻の予定が決定していなかったため、

TVシリーズをそのまま描くわけにはいかず、ララァとの戦いを彼女の死まで語らざるを得なかったことも作用している。だが、対象年齢を上げたノヴェライズならではのララァに代わるニュータイプとして登場した少女、クスコ・アルとの敬憐心をも含んだ感応や、アムロとセイラの親密な描写などに引き込まれた読者も多い。

しかし最大の誇りはジオンのニュータイプ、シャリア・ブルが発した「協力して戦争を終結へ導こう」という意志を受け入れたときに、アムロが戦死してしまうことであろう。この展開は、まさに衝撃的としか語ることができず、当時ファンの間で賛否両論を呼んだほどだった。富野監督自身は、小説としてのこの結末を納得していたが、後にアムロが登場する続編の「機動戦士Zガンダム」を描くときに、整合性の問題で悩んだことが記述されている。角川書店からの再刊行時にこの点を修正することも考慮されたが、一度完成した物語に手を入れることはそぐわないということで、結局は最初の形のままということになった。

ただ、さらに後の1997年に角川書店から、TVシリーズに基づいたアムロとララァの出会いと感応を描いた小説「密会」が刊行されていることを付け加えておく。

また『第08小隊』のノヴェライズも大河内一楼の手によって執筆され、やはり角川書店から刊行されている。

最後にCDとLP・EPだが、ひとつの作品でこれだけリリースされたケースは、ほとんどないといっても差し支えるまい。右の表にあるように、なんと総計で28タイトル！もちろんこれは、LPのCDでの再リリースなどを含めずに、これはサウンドトラックなどの他に、先行してさまざまな展開を見せた「宇宙戦艦ヤマト」などにより、ドラマ編や交響詩などの派生タイトルが、ファンに充分受け入れられることを示されていた結果でもある。

DVA「機動戦士ガンダム 第08MS小隊」



3巻 第4話「地上の影」



4巻 第5話「破れた待機命令」



5巻 第6話「砂漠戦線」



6巻 第7話「再会」



7巻 第8話「軍務と理想」



8巻 第9話「最前線」



9巻 第10話「舞える山(前編)」



10巻 最終話「舞える山(後編)」



創刊版「ミラース・リポート」
エピソード「ラスト・シーク」は1998年7月25日発売

NOVELS



「機動戦士ガンダム」～Ⅲ
富野由悠季 著／角川スニーカー文庫／
定価：本体540円（税別）



「密会 アムロとララ」
上・下
富野由悠季 著／角川スニーカー文庫／
定価：本体200円（税別）



「機動戦士ガンダム第08MS小隊」上・中・下
矢立肇、大河内一楼 著／角川スニーカー文庫／定価：本体540円（税別）

CD & RECORD

機動戦士ガンダム

SINGLE RECORD

テレビアニメ主題歌	「魂へガンダム」「永遠にアムロ」	TV(H) 57	売価
テレビアニメ挿入歌	「シャアが来る」「せらめきのララァ」	TV(H) 65	売価
テレビアニメ挿入歌	「いまはおやすみ(せりふ入り)」「永遠にアムロ」	K06S-3012	売価
アニメベスト・カ/プリング・シリーズ1	「魂へガンダム」「永遠にアムロ」「シャアが来る」「せらめきのララァ」	K06S-3003	売価
アニメベスト・カ/プリング・シリーズ2	「スターチルドレン」「砂の十字架」「風にひとりごと」「哀 戦士」	K3BS-3033	売価

CD-SINGLE

映画主題歌	「砂の十字架」「スターチルドレン」	K10A-2131	905円(税別)
映画主題歌	「哀 戦士」「風にひとりごと」	K10A-2102	905円(税別)
映画主題歌	「めぐりあい」「ヒギニンダ」	K10A-2103	905円(税別)

ALBUM

未収録BGMコレクションシリーズ1	「機動戦士ガンダム 上巻」	K22G-7164	売価
未収録BGMコレクションシリーズ2	「機動戦士ガンダム 下巻」	K22G-7165	売価

CD-ALBUM

「機動戦士ガンダム オリジナル・サウンドトラック」	KICA-2021	1942円(税別)
「機動戦士ガンダム 戦場で」	KICA-2002	1942円(税別)
「機動戦士ガンダムⅢ アムロよ」	KICA-2003~2004	2913円(税別)
「突撃時ガンダム」	KICA-2005	1942円(税別)
「MOBILE SUIT GUNDAM」	KICA-2006	1942円(税別)
「MOBILE SUIT GUNDAM」	KICA-2007	1942円(税別)
「MOBILE SUIT GUNDAM」	KICA-2008~2009	2913円(税別)
「哀 戦士」	KICA-2010	1942円(税別)
「哀 戦士 トラマ編」	KICA-2011~2012	2913円(税別)
「機動戦士ガンダムⅢ めぐりあい宇宙」	KICA-2013	1942円(税別)
「機動戦士ガンダムⅢ めぐりあい宇宙・トラマ編」	KICA-2014~2015	2913円(税別)
「ベスト・オブ・ガンダム」	KICA-2016	1942円(税別)
デジタルリミックス「機動戦士ガンダム シンセサイザー・ファンタジー」 発売 日本コロムビア	CCCC-19063	1744円(税別)

機動戦士ガンダム 第08MS小队

CD-SINGLE

OVA OP&EDテーマ	「風の中で生きて」「10 YEARS AFTER」	KIDS-261	371円(税別)
OVA 挿入歌	「未来の二人」「私の真実」	KIDS-310	371円(税別)
劇場版テーマソング	「永遠の魂」「いつの日か」	KIDS-382	371円(税別)

CD-ALBUM

機動戦士ガンダム 第08MS小队	REPORT 1「音楽時間3時間23分」	KICA-309	2913円(税別)
機動戦士ガンダム 第08MS小队	REPORT 2「ひとつひとつの衝撃」	KICA-330	2913円(税別)
機動戦士ガンダム 第08MS小队	recorded in PLALA A symphony album of "THE 08TH MS TEAM" composed by Kohji Tanaka	KICA-386	2913円(税別)



テレビアニメ主題歌「魂へガンダム」「永遠にアムロ」



テレビアニメ挿入歌「シャアが来る」「せらめきのララァ」



テレビアニメ挿入歌「いまはおやすみ」「永遠にアムロ」



映画1主題歌



映画2主題歌



映画3主題歌



「哀 戦士」



「機動戦士ガンダムⅢ めぐりあい宇宙」



「ベスト・オブ・ガンダム」



OVA OP&EDテーマ



OVA 挿入歌



「機動戦士ガンダム オリジナル・サウンドトラック」

INDEX

CHARACTERS

<あ>			
アイナ・サハリン	53, 130	デギン・ゾド・ザビ	27, 80
アコース	106	デニム・豊長	29, 87
アムロ・レイ	20, 74, 88, 102, 105, 108, 112	テム・レイ	28, 86
アリス・ミラー	56, 135	テリール・サンダース Jr	54, 126
アントニオ・カラス	124	デルム・アス	135
イーサン・ライヤー	127	トップ	135
イセリナ	33, 99	ドズル・ザビ	27, 81
ウツディ大尉	46, 124	ドレン中尉	29, 87
ウラガン	108, 109		
エッシュエンバツハ	99	<な>	
エルラン中尉	41, 112	ニエーバ	135
エドワード・マシス	55, 127	ノッポ	134
オスカ	25, 86	ノリス・バックカード	58, 131
オムル	25, 98		
<か>		<は>	
カイ・シデン	21, 77, 87, 103, 118	バオロ艦長	96, 87
カウ・ハウイン	23, 79	バムロ	33, 87
ガテム艦長	31, 89	ハヤト・コバヤシ	21, 77, 86, 103
カマリ・レイ	38, 103	バリー	135
カサハ	118	バレスト・ロジャー	58, 131
ガム・ザビ	27, 80, 88	ハロ	29, 79
カレン・ジョシュワ	54, 127	バムロ	87
キキ・ロジャー	56, 131	バウド	109
キシリア・ザビ	27, 81, 102	ビグ	134
キッカ・キタモト	23, 79	ブライト・ノア	22, 76, 112
ギニアス・サハリン	53, 130	フウ・ボコ	23, 79, 86, 109
キャリオカ	45, 118	フナガン・ブーン	45, 118, 119
ギャル	104	ベルシア親子	33, 97
ギレン・ザビ	27, 81	ホラス・キニフ艦長	48, 124
ククルス・ドアン	38, 105		
クラウ・ハモン	39, 101, 108, 109	<ま>	
クランフ	36, 101, 106	マーカ	25, 86
クリンク中尉	112	マクス・ミリアン	109
クウラン	104	マ・クベ少佐	40, 106
黒い将軍	43, 113	マザ大尉	134
コジマ少佐	57, 127	マシダ・アジャン	32, 98, 112
コズン	36, 106	マリア	134
コップ提督	48, 124	マリガン中尉	45, 121
コノリー	45, 118	ミタル・ニノリチ	55, 126
コム	97	ミハイル・ドナキエ	44, 118
コーリン・青光宮	124	ミライ・ヤシマ	22, 78, 87, 103
<き>		<や>	
サンマロ	106	ユーリ・ケラーネ	59, 131
ジェイコブ	135		
ジザン・ニッカー	57, 127	<ろ>	
シリア・アズナブル	26, 80, 87, 102	ランバ・ラル	37, 101, 108, 109
ジャック	41, 109, 112	リード中尉	30, 89
ジャブ・ジョン	98	リュウ・ホセイ	21, 78, 103, 109
ジルス・ミラー	44, 118	ルネン	134
ジロー・アマダ	52, 126	レツ・コ・ファン	23, 79
ジーン	29, 87	レビル将軍	40, 112, 118
スレンダー	29, 87	ロブ・ザリー	56
セイラ・マス	23, 78, 87, 103, 112	ロラン・デュアン	38, 105
セキ提督大佐	42, 112		
<た>		<わ>	
タチ中尉	39, 109	ワッケイン司令	30, 89
タムラ	98		
タロタ中尉	89		
テビ	134		

MECHANICS、HAPPENINGS,etc.

<機>		
アップサラス (シオン軍超大型MA)	53, 133	
アップサラス (完成型)	133	
アッパル (シオン軍MSGM-04)	48, 58, 125, 136	
アッザム (シオン軍重機動砲)	41, 107	
一年戦時	8, 10	
エアースケーター	125	
<機>		
ガウ (シオン軍攻撃空母)	33, 94, 136	
ガンキャノン (RX-77 2)	21, 70	
ガンダム (RX-78 2)	20, 66	
ガンダムEZ 8	52, 128	
ガンダムハンマー	67	
ガンダム量産型 (RX-79 [G])	128	
ガンタンク (RX-75)	11, 21, 70	
ガンベリ (地球連邦軍輸送機)	25, 71, 137	
ギャロップ (シオン軍小型機動機)	38, 107	
キューイ (シオン軍白兵戦用格闘兵器)	36, 110	
グフ (MS-07, MS-07B)	37, 100, 137	
グフ・カスタム	58	
グフ飛行試験型	58	
グフ・フライトタイプ (MS-07H)	137	
グワロロ (シオン軍MAM-07)	47, 119	
ゲルグレン (ガンバ) (機)	58, 136	
コア・ファイター (地球連邦軍沿岸警備・支援戦闘機)	23, 68	
コア・ブロック・システム	12, 13	
ゴッド (シオン軍MSGM-03)	47, 120	
コム (シオン軍小型連絡機)	39, 111	
<機>		
ザク (MS-06B1ザク)	31, 89, 137	
ザク II (ザクMS-06, MS-06)	29, 84, 113	
ザク (MS-06, 陸戦型ザク)	58, 132	
ザク (MS-06R1D-4 両機動型ザク)	132	
ザク II (シャア専用機MS-06S)	26	
ザクキャノン (MS-06C)	132	
ザクタンク (MS-06V)	56, 132	
サムソン (シオン軍大型トローラー)	36, 110	
サラミス (地球連邦軍宇宙戦艦)	31, 80	
サンジバル (シオン軍機動部隊)	58, 100	
ターマー (地球連邦軍重戦術戦闘機)	24, 118	
ガスカイ (地球連邦軍支援戦闘機)	25, 117	
ガスカイ・イージー	25, 117	
ターファイター (地球連邦軍戦闘機)	24, 115	
グバル	24, 117	
グバル・イージー	25, 117	
ジェント・コア・ブースター	137	
ジオン空軍 (サイド3)	8, 11, 93	
ジム (地球連邦軍FGM-79)	46, 125	
ジム駆動型	57	
ジャッソー (地球連邦軍基地)	122	
シーラカス (シオン軍小型機動機)	44, 121	
スゴック (シオン軍MSGM-07)	47, 119	
スゴック (シャア専用機)	48	
スプレー・ミサイルボット	70	
スベース・コロニー・サイト3	93	
スベース・コロニー・サイト7	6, 8, 9, 82	
ソック (シオン軍MSGM-10)	48, 125	
ソドン巡洋艦 (シオン軍)	91	
<機>		
ダブ・アタック (シオン軍機動戦車)	32, 85	
マゼラン (地球連邦軍宇宙戦艦)	30, 90	
マッド・アングラー (シオン軍潜水母艦)	45, 121	
ミデア (地球連邦軍輸送機)	33, 97, 137	
ミノフスキー粒子	9, 11, 13	
ムサイ (シオン軍宇宙サイロ駆逐艦)	28, 85	
モビルスーツ連隊	123	
<機>		
ユーコン (シオン軍潜水艦)	45, 121	
<機>		
ラグランジェ・ポイント	8	
ルッガン (シオン軍偵察機)	32, 96, 137	
ルナダー	88	
81式戦車 (地球連邦軍戦車)	43, 114	
<機>		
ワッパ (シオン軍機動兵器)	38, 104	
<機>		
ダブ・アタック (地球連邦軍大型機動機)	42, 111	
デッシュ連絡機 (地球連邦軍明証連絡機)	44, 121	
デブ・ロケット爆撃機 (地球連邦軍重爆撃機)	42, 114	
ドグアイズ (シオン軍偵察機)	43, 113	
ドクター	136	
ドッグ (シオン軍小型機動機)	32, 86	
ドム (シオン軍MS 08)	43, 59, 113, 137	
ドラゴン・フライ (地球連邦軍連絡機)	42, 114	
ドリアー・エスF-4	91	
ドン・エスカルト (地球連邦軍対空戦闘機)	119	
<機>		
ニュータイプ	11, 12, 13	
ノーマルスーツ	74	
<機>		
ハイパーバズーカ	67	
ハイパーハンマー	67	
ババア (シオン軍機動機)	31, 88	
ハロ	23, 79	
ビクトリー (地球連邦軍戦闘機)	41, 111	
ビートホーク	89	
ヒマラヤ (地球連邦軍大型空母)	119	
ビームサーベル	67	
ビームキャノン	67	
ビームライフル	67	
ファントム・アングラー (シオン軍輸送機)	36, 107	
ファンファン (地球連邦軍ホバークラフト)	47, 125	
フライ・マンタ (地球連邦軍戦闘機)	42, 114	
ブローバー (シオン軍偵察機)	121	
ホバートラック (地球連邦軍特殊戦闘機)	55, 129	
ボール (地球連邦軍機動兵器MS-79K)	57, 129	
ホワイトベース (地球連邦軍ペガサス級強襲宇宙艦隊母艦)	22, 72	
<機>		
マゼラ・アタック (シオン軍機動戦車)	32, 85	
マゼラン (地球連邦軍宇宙戦艦)	30, 90	
マッド・アングラー (シオン軍潜水母艦)	45, 121	
ミデア (地球連邦軍輸送機)	33, 97, 137	
ミノフスキー粒子	9, 11, 13	
ムサイ (シオン軍宇宙サイロ駆逐艦)	28, 85	
モビルスーツ連隊	123	
<機>		
ユーコン (シオン軍潜水艦)	45, 121	
<機>		
ラグランジェ・ポイント	8	
ルッガン (シオン軍偵察機)	32, 96, 137	
ルナダー	88	
81式戦車 (地球連邦軍戦車)	43, 114	
<機>		
ワッパ (シオン軍機動兵器)	38, 104	

***publisher**
TSUGUHIKO KADOKAWA

***editor in-chief**
SHIN-ICHIRO INOUE

***editors**
SHINSUKE NAKAJIMA
HIROSHI ODAGIRI
OSAMU NAGASHIMA

***writers**
TSUKASA SHIKANO
FUYU KIMATA
TAKUYA SAITO

***editorial operation**
IKUKO ENOMOTO
TAKASHI HORIGUCHI

***art direction**
YOSHINORI FUTAGAMI (King of Design)

***proof reading**
HISAKO SHATO

***DTP works**
LOYAL DIGITAL PLANNING CO.,LTD.

***thanks**
SUNRISE
BANDAI VISUAL
KING RECORO

***cover illustration**
YUJI KAIDA

GUNDAM

EPISODE GUIDE ①

The First Part of The One Year War • UC 0079-0080
機動戦士ガンダム エピソードガイド vol.1 一年戦争編 (前)

ニュータイプ 編

1999年6月28日初版発行

発行人◎角川歴彦

発行所 — 株式会社角川書店
〒100-6177 東京都千代田区富士見2-13-3
営業03-3238-8530 編集03-5229-3610
印刷03-5913-9195

装丁・デザイン/キング・オブ・デザイン
印刷/大日本印刷株式会社
製本/株式会社宝島製本所



※丁・乱丁本はご返書でも小社営業部サービスセンター宛に
お送りください。送料は小社負担でお取り替えます。

©1999 創通エージェンシー・サンライズ
東京商工振興 印刷
Printed in Japan
ISBN4-04-853068-2 C0876

EPISODE GUIDE



The First Part of The One Year War

CG-0079-0080

GUNDAM

THE GUIDE TO THE FIRST PART OF THE ONE YEAR WAR

U6079-0080

GUNDAM

EPISODE GUIDE



The First Part of The One Year War (G01012-0000)



GUNDAM

The First Part of The One Year War (09-0079-0090)

ISBN4-04-853068-2 C0076 ¥1500E

◎定価:本体1500円(税別) 角川書店



9784048530682



1920076015007

GUIDE TO THE GUIDE TO THE GUIDE TO THE GUIDE TO THE GUIDE TO THE

The First Part of The One Year War

U60079-0080

角三書店